

令和元年度
#8000 情報収集分析事業報告書
【全体版】

公益社団法人日本小児科医会

2020 年 3 月

令和元年度#8000情報収集分析事業 分析結果の概要

1. 分析事業の趣旨

- 子ども医療電話相談事業（#8000事業）は、全都道府県で実施され、相談件数は年々増加しており（平成30年度：約102万件）、保護者の不安軽減とともに、時間外来受診による医師の負担の軽減に役立っている。
- しかし、平成28年度まで、相談事例情報の全国的な集計がなされていなかった。
- 相談対応者の質の向上と保護者への啓発等を目的に、平成29年度から、相談内容や対応等に関する情報の収集・分析を開始した。

2. 分析事業の概要

(1) 情報収集期間

- 令和元年12月1日～令和2年2月29日（91日間）

(2) 情報収集対象自治体

○ 39都道府県

北海道、青森県、宮城県、山形県、福島県、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(3) 情報収集項目の例

- 基本情報：相談件数、相談日時、曜日
 - 相談対象児の情報：性別、年齢、主訴、相談の分類、兄弟の有無（※弟妹ではない）、発症時期、相談前の受診の有無
 - 相談者の情報：続柄、年代、満足度（相談対応者からの印象）
 - 相談対応者の情報：相談業務経験年数、相談対応時間、緊急度判定、医師による助言の有無、受診すべきと考えた診療科、対応感想等
- ※ 情報収集項目の決定に際しては、各都道府県の#8000事業担当者や看護師等と意見交換を行い、短時間で容易に聴取可能であること、各都道府県のこれまでの記録項目を網羅すること、自治体の政策に資すると考えられる項目が含まれること等に留意したが、情報収集に当たり、突合困難な項目もあった。

(4) 情報収集方法

○ 情報収集・分析システムの作成・活用

- 全都道府県の#8000事業における相談対応記録を、クラウド上で収集し、分析が可能となるシステム（以下「本システム」。）を構築した。
- タブレット端末からの入力も可能とした。（手書きで記録している都道府県に配慮し、マークシート形式の利用も可能とした。）
- 各都道府県のデータをCSVデータとして月単位で回収することも可能とした。
- 各都道府県の管理者は、本システムにアクセスすることで、集計結果等いつでも確認することが可能である。

(5) 情報分析方法

- 全てのデータを一括して集計し分析を行った。相談内容、相談対応、未記入率、実施体制等を分析し、都道府県間の差違について検討した。
- 未記入について検討し、未記入率30%以上の項目は未記入を除いた考察を追加した。
- 小児の救急電話相談の特徴を見いだすため、様々な方向から考察した。

事業イメージ



令和元年度事業参加39都道府県

3. 主な結果(1)(全調査都道府県のまとめ)

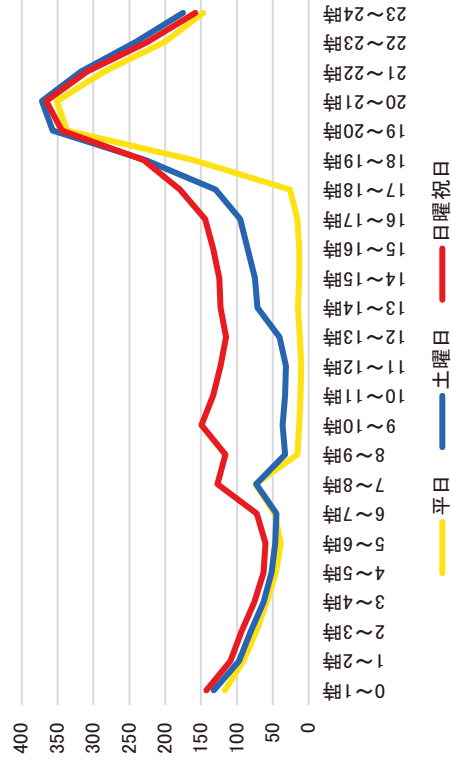
事業報告書より引用改変

○全相談件数:241,387件

(1)年少人口千人当たり、小児科医師・小児外科医師1人当たり相談件数



(2)平日、土曜日、日祝日別1日当たり相談件数の時間変動(相談時間帯)



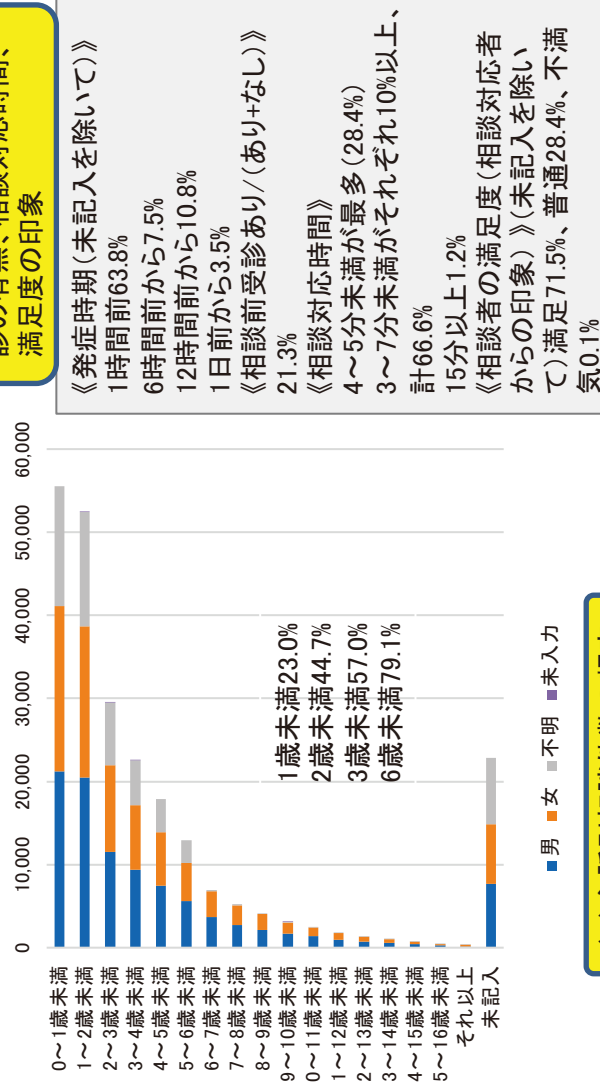
(3)相談の分類

(未記入を除いて)「救急医療相談(緊急助言)」16.1%、「医療機関案内」13.1%、「救急医療相談+医療機関案内」11.8%、「医療その他」61.3%、「薬」2.4%、「ホームケア」3.8%、「育児相談」10.8%

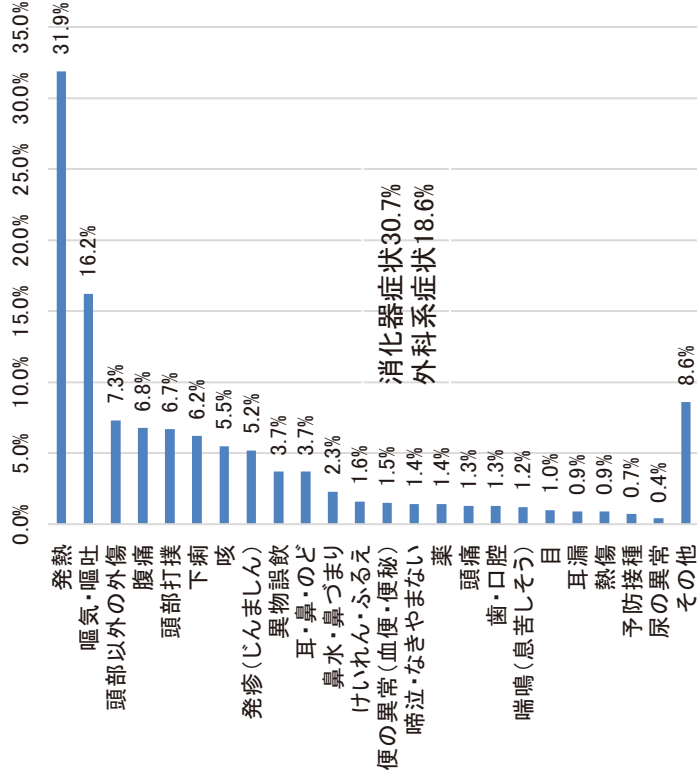
(6)相談者の続柄・年代

相談者:母親83.8%、父親13.8%
相談者年齢:未記入を除いて10代0.1%、20代15.5%、30代68.6%、40代14.6%、50代0.7%、60代以上0.4%
相談対象児の兄姉いない/(いる+いない) 42.2%(第1子あるいは子ども一人)

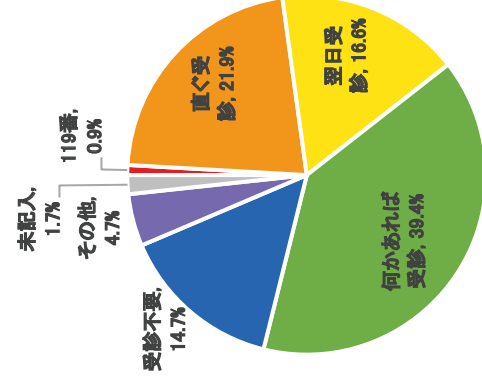
(4)相談対象児の性別・年齢



(5)主訴別相談件数の頻度



(8)相談対応者による緊急度判定



(11) 相談対応者の相談業務経過年数別の緊急度判定



(13) 相談対象者が勧めた診療科

相談前受診(受診後#8000)21.3%
相談対応時間15分以上1.2%
医師の対応0.2%



(13) 相談対象者が勧めた診療科

(未記入を除いて、頻度順)小児科76.1%、脳神経外科6.1%、耳鼻科5.0%、小児外科・一般外科3.2%、皮膚科2.4%、整形外科2.4%、歯科・口腔外科1.5%、眼科1.3%

[illegible]

民間 事業者	地元 業者	6.相談 の分類	7.相談 者の場 所	8.相談 者の年 齢	9兄弟 の有無	10発 症時 期	11.相 談前 の受 診の 有無	12.相 談対 応時 間	13.相 談対 応者 による 緊急判 度判定	14.医 師の対 応に要 した	15.満 18歳 程度 (相談 者から の印象)	18.受 診をす すめ た	19.相 談対 応者 の年 齢	20.相 談対 応者 の症 状年 齢	
■の尾数															
A	地	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎
A	(地)	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A	地	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A	(地)	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A	地	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B		■	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■
B	(地)	■	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	■
B		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		■	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		■	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
B		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C	地	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
C		■	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
D		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
D		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
D		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
D		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
D		◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
	地1	■	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
	地2	▲	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
	地3	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■
◎未記入率30%未満 ▲未記入率30%以上70%未満 ■未記入率70%以上100%未満															
◎未記入率30%未満 ▲未記入率70%以上100%未満 ■未記入率100%															

◎未記入率30%未満 ○未記入率30%以上70%未満 ▲未記入率70%以上100%未満 ■未記入率100%

4. 結果の分析及び考察

事業報告書より引用改変

(1) 相談内容に関する分析及び考察

① 相談件数

・都道府県の年少人口千人当たり、小児科医師及び小児外科医師ひとり当たりの1か月間の相談件数は、それぞれ平均6.6件、5.7件で、都道府県間で5～6倍差がある。各県の小児医療圏の年少人口対相談件数は平均2.6倍、最大7.4倍差がある。#8000実施の均てん化、広報、小児医療全体での#8000の活用方針が必要である。

② 電話相談の時間変動(相談時間帯)

・平日、土曜日、日祝日の1日当たり相談件数は、準夜帯19～21時ピーク、以後漸減し、0時に1/3、5時に1/7最小、7～8時に小さな山がある。休日日勤帯は準夜帯ピークの1/3で一定している。#8000ニーズは時間変動が大きく、かつ一定のパターンがある。休日日勤帯のニーズがあり、それに合わせた体制整備が必要である。

③ 相談対象児の年齢・性別

・1歳未満23.0%、2歳未満44.7%、3歳未満57.0%、6歳未満79.1%で、低年齢とくに2歳未満が多い。男女比1.13で男子が多い。

④ 相談者続柄と年代

・母親83.8%、父親13.8%。10代0.1%、20代15.5%、30代68.6%、40代14.6%、50代0.7%、60代以上0.4%で、40代が比較的多い。

⑤ 主訴別相談件数の頻度

・頻度順で、発熱31.9%、嘔気・嘔吐16.2%、頭部以外の外傷7.3%、腹痛6.8%、頭部打撲6.7%、下痢6.2%、咳5.5%、発疹(じんましん)5.2%、異物誤飲3.7%、耳・鼻・のど3.7%で(複数回答あり)、とくに消化器系症状30.7%、外因系症状18.6%の2群が比較的多く注目される。

⑥ 発症時期

・1時間前63.8%、6時間前から7.5%、12時間前から10.8%、1日前から3.5%で、2/3が発症後直ぐに相談している。

⑦ 相談の分類

・(未記入を除いて)「救急医療相談(緊急助言)」16.1%、「医療機関案内」3.1%、「救急医療相談＋医療機関案内」11.8%、「医療その他」61.3%、「薬」12.4%、「ホームケア」13.8%、「育児相談」0.8%で、救急医療相談以外の「医療その他」が多く、「ホームケア」・「育児相談」は少ない。

⑧ 諸状況によって頻度が高くなる主訴

・相談対象児が第1子あるいは子ども一人の家庭(兄弟がいない)42.2%、相談前受診(受診後#8000)21.3%、相談対応時間15分以上1.2%、医師の対応を要した0.2%。これらの諸状況によって頻度が増す主訴に注目した。

・相談対象児が第1子あるいは子ども一人の家庭では、啼泣・なきやまない、熱傷、便の異常(血便・便秘)、歯・口腔、予防接種の頻度が増す。

・緊急度判定で119番あるいは直ぐ受診は、けいれん・ふるえ、喘鳴(息苦しそう)、熱傷、尿の異常の頻度が増す。

・相談前受診(受診後#8000)では、発熱、咳、薬の頻度が増す。

・相談時間が15分以上では、発熱、咳、嘔気・嘔吐、薬の頻度が増す。

・医師の対応を要する場合は、咳、喘鳴(息苦しそう)、異物誤飲、発疹(じんましん)、薬の頻度が増す。

・これらの情報を保護者と小児医療関係者が共有して、小児救急医療全体の改善のための情報として活用すべきである。また、薬の相談のニーズがあり、小児の薬剤の情報提供と小児服薬指導の改善が望まれる。

4. 結果の分析及び考察

事業報告書より引用改変

(2) 相談対応に関する分析及び考察

① 相談対応時間

- ・4～5分未満が最多(28.4%)、3～7分未満がそれぞれ10%以上で計66.6%、15分以上は1.2%。15分以上の対応時間を要した例の主訴を分析した(前述)。

② 相談対応者による緊急度判定

- ・「119番をすすめた」0.9%、「直ぐに病院に行くようにすすめた」21.9%、「翌日に受診することをすすめた」16.6%、「何かあれば受診することをすすめた」39.4%、「受診をする必要はない」14.7%、「その他」14.7%、未記入1.7%。直ぐに受診を要する(119番+直ぐ受診をすすめた)のは22.8%で、7割以上が経過観察が可能である。

③ 相談対応者の経験年数と緊急度判定

- ・相談業務経験年数10年以上では、直ぐに受診を要する(119番+直ぐ受診をすすめた)が少ない傾向がある。

④ 相談者が勧めた診療科

- ・小児科76.1%、小児科以外が23.9%と比較的多い。小児科以外の小児救急医療体制の整備と救急医療情報の提供が必要である。

⑤ 緊急度判定の都道府県差、民間事業者間差

- ・緊急度判定は都道府県間、民間事業者間で差が見られた。緊急度判定の考え方やマニュアルの違いの可能性がある。

⑥ 相談対応者(看護師)による相談者の満足度の印象

- ・満足71.5%、普通28.4%、不満気0.1%で、相談者の満足度は高いと思われる。

(3) 未記入率、事業実施体制

① 未記入率の検討

- ・相談対象児年齢で1歳未満の細分類の不一致が多かったので、今年度は1歳未満を一括して示した。未記入率30%以上の項目は、相談の分類、兄弟の有無、発症時期、相談前の受診、医師の対応、相談者の満足度、相談対応者が受診すべきと考えた診療科、相談対応者の相談業務経験年数72.3%、相談対応者の対応感想76.2%、計9項目であった。調査項目回答の未記入率100%が7項目以上あるのは1都6県で、未記入率は民間事業者間で差異がある。

② 今年度事業に参加できなかった県

- ・今年度事業に参加できなかったのは8県で、デジタル化の遅れ6県、民間事業者の協力が得られない2県であった。次年度は改善をめざす。

5. 分析事業の課題

- 本事業に参加できない県がある。
- 未記入が多い調査項目がある。
- 都道府県間で差違がある。
- 小児救急医療の特性、課題を見い出せる。



- 全都道府県が参加しやすい、継続しやすいシステムを作る。
- 調査項目、選択枝の都道府県間の統一を行い、データの質を改善する。
- 得られた知見を、国民、小児救急医療関係者および行政に還元して、他の小児救急医療と連携して、小児救急医療の進歩に役立てる。

目次

I. 事業概要

1. はじめに ——— 3
2. 事業内容 ——— 3
3. 事業の実施体制 ——— 4

II. 情報収集・分析方法

1. 調査期間 ——— 4
2. 調査対象都道府県 ——— 5
3. 調査項目 ——— 6-7
4. 情報収集・分析システム ——— 8-9
5. #80000 事業実施時間帯 ——— 9-14
6. 地元関係機関や民間事業者への電話相談委託 ——— 9、15
7. 倫理 ——— 16

III. 集計結果

1. 都道府県別の集計結果 ——— 別紙、都道府県版
2. 全調査都道府県の集計結果 ——— 17-43

IV. 考察

1. 都道府県別の考察 ——— 別紙、都道府県版
2. 全調査都道府県の考察 ——— 44-109

V. #8000 情報収集分析事業から得られた課題

1. #8000 実施状況 ——— 110
2. #8000 情報収集分析システム ——— 110-111
3. 情報分析内容について ——— 111-113
4. 民間事業者間の相違点と均てん化 ——— 113
5. 都道府県との連携 ——— 113
6. #8000 の目的、家庭看護力醸成 ——— 113-115
7. その他の課題 ——— 115-116

VI. 要約と結語 ——— 117

VII. 引用資料 ——— 118

I. 事業概要

I-1. はじめに

子ども医療電話相談事業（以下「＃8000 事業」という）は、平成 16 年から国庫補助事業として開始され、平成 22 年から全国の都道府県で実施されている。平成 30 年度には全国で約 102 万件の相談が寄せられていて、子育て中の保護者の不安に寄り添う事業として整備が進められている。平成 30 年度に厚生労働省が開催した「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」において提唱された「いのちをまもり、医療をまもる」国民プロジェクト宣言でも、市民のアクションとして夜間・休日に受診を迷ったら＃8000 を利用すること、行政のアクションとして＃8000 事業の体制整備や周知に取り組むことが盛り込まれており、＃8000 事業は社会的なテーマとして取り上げられている。

＃8000 事業の体制整備のためには、国および都道府県のみならず、＃8000 事業の実務を担う小児科医・看護師・保健師・民間事業者などの協力が不可欠である。これまでは、相談内容の記録は年齢・主訴・緊急度など基本的項目のみであった。また、都道府県事業であるため、記録方法が各都道府県で異なり、収集された情報が活用されていなかった。さらに民間事業者への委託により、地元医師会・看護協会との関連が希薄になる可能性もあり、＃8000 事業の現況が地域特性に合わせて実施されているかの検証も必要となってきた。

そこで、＃8000 情報収集分析事業（以下「本事業」という）として、＃8000 事業における相談内容等の情報を収集して、全国および都道府県ごとの子どもの病気やけが等の状況及び緊急性等について分析した。各都道府県での＃8000 事業における相談対応者の質の向上及び均てん化を図るための基礎資料を作成するとともに、分析結果を保護者等に広報するなど、病気、けが等の対処についての啓発を行う。平成 29・30 年度に引き続いて、令和元年度も厚生労働省からの補助を受けて、公益社団法人日本小児科医会が事業実施団体として実施した。

I-2. 事業内容

本事業では上記目的を達成するために、＃8000 事業における必要不可欠な相談事案毎の記録項目を定め、これらの情報を容易に入力可能な情報収集システムを構築して、実際に情報収集することとした。さらに、収集した情報から、けがや病気などの発生状況や対処の必要性について分析し、国民へ啓発すべき情報や、相談対応者の対応技術の向上や均てん化のために必要な情報、医療体制の整備に資する情報を抽出することとした。

I-3. 事業の実施体制

1. 事業主体

公益社団法人日本小児科医会

2. 小児救急電話相談情報収集分析事業ワーキンググループの体制

総括担当: 吉澤穰治

分析担当: 渡部誠一、桑原正彦、小山典久、福井聖子

3. 会議日程等の事業の過程

表 1. 会議実績

年月日	会議名	会議内容
2019/08/12	第1回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2019/09/16	第2回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2019/09/20	第3回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2019/10/02	第1回#8000情報収集分析事業都道府県担当者会議	事業説明
2019/11/04	第4回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2019/11/22	第5回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2019/11/29	第6回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2019/12/15	第7回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2019/12/20	第8回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2020/01/19	第9回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2020/01/24	第10回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2020/02/16	第11回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2020/02/19	第12回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2020/03/22	第13回#8000情報収集分析事業会議	情報収集
2020/03/28	第14回#8000情報収集分析事業会議	情報分析
2020/03/29	第15回#8000情報収集分析事業会議	情報分析

II. 情報収集・分析方法

II-1. 調査期間:

令和元年12月1日0時から令和2年2月29日24時まで(3か月)

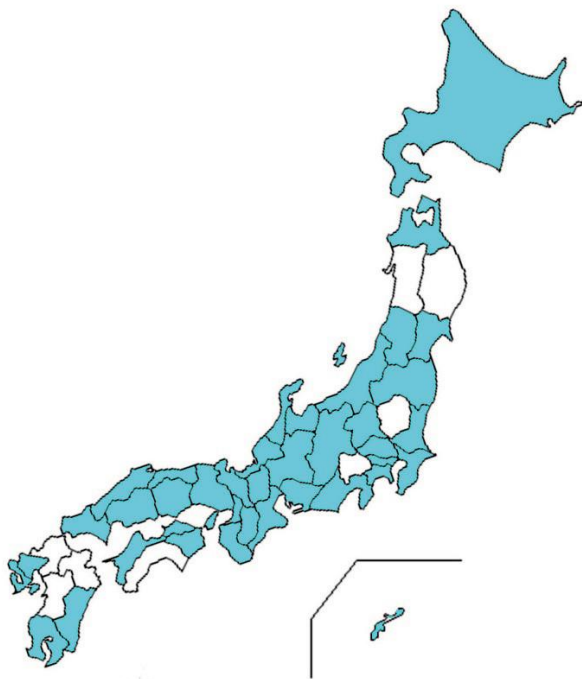
Ⅱ-2. 調査対象都道府県:

令和元年度は 39 都道府県を対象に情報収集分析を実施した。表 2、図 1 に情報収集分析を実施した都道府県の一覧を示す。今年度新たに参加した県は、宮城県、山形県、福島県、神奈川県、新潟県、長野県、兵庫県、山口県、香川県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の 14 県である。

表 2. 令和元年度事業に情報収集した 39 都道府県の一覧

都道府県 番号	都道府県名	都道府県 番号	都道府県名	都道府県 番号	都道府県名
1	北海道	17	石川	31	鳥取
2	青森	18	福井	32	島根
4	宮城	20	長野	33	岡山
6	山形	21	岐阜	34	広島
7	福島	22	静岡	35	山口
8	茨城	23	愛知	36	徳島
10	群馬	24	三重	37	香川
11	埼玉	25	滋賀	38	愛媛
12	千葉	26	京都	41	佐賀
13	東京	27	大阪	42	長崎
14	神奈川	28	兵庫	45	宮崎
15	新潟	29	奈良	46	鹿児島
16	富山	30	和歌山	47	沖縄

図 1. 令和元年度事業にて、#8000 情報を収集した 39 都道府県



Ⅱ-3. 調査項目

調査項目を表 3 に示した。調査項目は平成 29・30 年度事業で用いたものを使用したが、以下の文言の変更を行った。

20. 主訴：

眼科系→目の異常

耳鼻科系→耳・鼻・のどの異常

歯科・口腔外科→歯・口腔の異常

変更理由：診療科を選ばせる選択枝ではなく、症状発現部位を示す選択枝に変更して、相談員が判断しやすいようにした。

24. 発症時期：

さっきから→1 時間前から

昼頃から→6 時間前から

朝から→12 時間前から、1 日前から

それ以前から→それ以前から

変更理由：発症からの経過時間が曖昧な表現であったこと、経過時間を聞き取ることが可能と判断されたことから、変更した。

31. 相談の分類：

医療全般→医療その他

変更理由：全般という言葉では範囲があいまいなために、医療その他に変更した。

33. 相談対応者（看護師）の対応感想

自信を持って対応できた→対応困難や不安がなかった

対応に不安が残った→対応困難や不安があった

どちらとも言えない→わからない

医師の判断に従った→削除

変更理由：対応困難や不安の有無に分けて、区別しやすくした。

表 3. 調査項目(令和元年度)

「#8000相談対応履歴項目」												
No.	大項目	データ項目										
1	管理番号	相談管理番号										
2	都道府県	都道府県名										
3	相談対応者	相談対応者										
4	相談対応者ID	相談対応者ID										
5		相談日										
6	費知	相談開始時刻										
7		相談終了時刻										
8		相談対応時間(分)										
			選択肢									
9	相談者情報	相談者の情報	母親	父親	祖母	祖父	その他()					
10		相談者の年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
11		相談者の性別	男	女								
12		相談対象者の郵便番号										
13		相談対象者の市区町村名										
14		相談対象者の生年月日										
15		年齢	1～3か月	4～5か月	6か月以上1歳未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	16歳以上
16		兄弟の居無	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳以上	
17		兄弟の居無	いない	不明								
18		相談対象者の性別	男	女								
19		緊急レベルの有無(複数選択)	呼吸をしていない・止まりそう・全身が紫色	呼びかえに反応しない								
20		主訴(複数選択)	発熱	嘔気・嘔吐	咳	喘鳴(息苦しそう)	下痢	けいれん・ふるえ	発疹(じんましん)	啼泣・なきやまない	頭痛	目の異常
21		相談対象者の状態	意識	鼻水・鼻づまり	耳鳴	頭部打撲	頭部以外の打撲	薬物誤飲	熱傷	耳・鼻・のどの異常		
22		頭部以外の外傷	歯科・口腔の異常	他の異常(血便・便血)	尿の異常	予防接種	薬	その他()				
23		頭部以外の外傷	打撲・擦傷・切り傷(鋭的)	骨折(鋭的)	虫刺され	動物・人にかまれた						
24	頭部以外の外傷	打撲・擦傷・切り傷(鈍的)	骨折(鈍的)	虫刺され	動物・人にかまれた							
25	頭部以外の外傷	打撲・擦傷・切り傷(鋭的)	骨折(鋭的)	虫刺され	動物・人にかまれた							
26	頭部以外の外傷	打撲・擦傷・切り傷(鈍的)	骨折(鈍的)	虫刺され	動物・人にかまれた							
27	頭部以外の外傷	打撲・擦傷・切り傷(鋭的)	骨折(鋭的)	虫刺され	動物・人にかまれた							
28	緊急度判定	最終緊急度判定	119番をすすめた	医師の助言	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	
29	緊急度判定	最終緊急度判定	119番をすすめた	医師の助言	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	
30	緊急度判定	最終緊急度判定	119番をすすめた	医師の助言	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	医師が対応	
31	相談結果	相談の分類	救急医療相談(緊急助言)	医療機関案内	案内	案内	案内	案内	案内	案内	案内	
32	調査事項	相談対応者の印象としての相談	満足した	不満足	不満足	不満足	不満足	不満足	不満足	不満足	不満足	
33		相談対応者の対応感想	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	対応困難や不安があった	
34		相談対応者の相談業務経験年数	1～3年	4～5年	6～7年	8～9年	10～11年	12～13年	14～15年	16～17年	18年以上	
35	相談内容メモ											

※平成 30 年度事業から、調査項目を一部変更した。

Ⅱ-4. 情報収集・分析システム

令和元年度事業における#8000 情報収集は、平成 29 年度に構築した National Database System #8000(全都道府県の#8000 事業における相談対応記録を収集分析可能なクラウド (Salesforce)システム、以下「NDS-8000」という)を改修して平成 30 年度に構築した Microsoft 社が提供するクラウドシステムである Dynamics 365 を用いたシステムである National Database System #8000-1(以下「NDS-8000-1」という)を用いて情報収集分析を実施した。

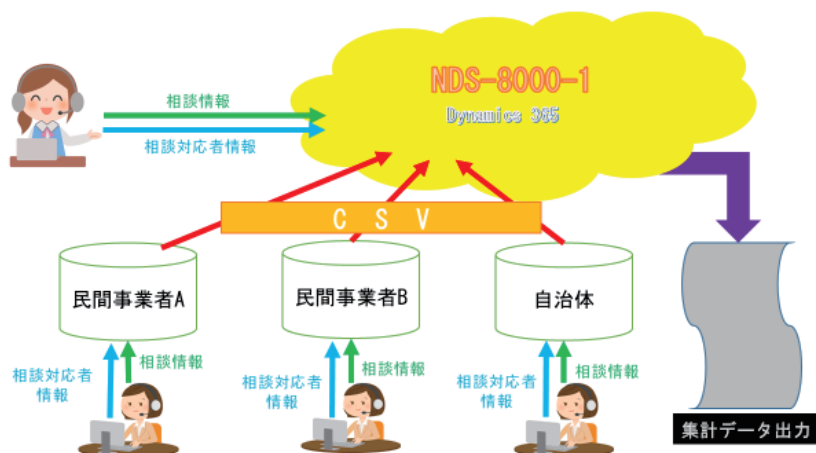
1. National Database System #8000 (NDS-8000-1)

NDS-8000-1 は Microsoft 社が提供するクラウドサービスである「Dynamics 365」を活用して構築したシステムである。#8000 相談対応者は、インターネット環境下で、本システムにアクセスして相談対応内容を直接入力し、入力データはクラウド環境に蓄積される。各都道府県の管理者は入力されたデータの集計結果をいつでも見るることができる。本事業において入力するデータの項目については、これまでに各都道府県が入力してきた項目を再検討し、本事業に有用と考えられる項目とした。

NDS-8000-1 は、相談対応者が自宅においても業務ができるように、iPad 等のタブレット端末からの入力可能としている。また、本システムを利用することにより、毎月実施するデータ集計作業が不要となるため、報告書作成に要する作業時間や、人件費などの経費を削減することが可能となりえる。

なお、本システム作成過程については、平成 30 年度の事業報告書(p.4-5)を参照されたい。

図 2. NDS-8000-1 のイメージ



2. 他のシステムから NDS-8000-1 へのデータ取り込み

埼玉県が NDS-8000-1 を用いて #8000 事業を実施し、北海道が NDS-8000-1 に事後入力している。他の 37 都道府県は独自のシステム（電子入力・手入力）で情報を記録しているか、あるいは委託を受けている民間事業者が独自のシステムに情報を記録している。

収集したい情報は表 3 に示したものであるが、NDS-8000 以外のシステムを用いている都道府県において表 3 の情報をすべて聴取したうえで記入することは、実務に障害をきたすことになるために不可能であった。そのため、他のシステムで記録された情報を CSV データでご提供いただき、NDS-8000-1 へ移行する方法で情報収集をおこなった。そのため、調査項目のすべての情報を対象都道府県から収集することはできなかった。表 4 に都道府県別に収集した情報の項目を示した。相談開始時間・相談対応時間、市町村・二次医療圏、相談対象者の年齢、主訴（複数選択）、緊急度判定はほとんどの都道府県からデータを得られたが、他の調査項目は十分に収集できなかった。

以上、今年度は北海道、埼玉県のデータの一部が NDS-8000-1 に直接入力し、北海道、埼玉県の一部を含めた 39 都道府県から CSV データを提供いただいて、それを NDS-8000-1 に取り込んで、一括して解析する方法をとった（図 2）。

II-5. #8000 事業実施時間帯

調査を実施した 39 都道府県の #8000 事業相談対応時間を表 5～7 に示した。深夜帯は、山形県、神奈川県以外の 37 都道府県が実施している。休日日勤帯は、青森県、茨城県、群馬県、埼玉県、東京都、富山県、福井県、岐阜県、静岡県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、徳島県、愛媛県、長崎県、鹿児島県、沖縄県、計 20 都県が実施している。深夜帯実施率は 94.9%、休日日勤帯実施率は 51.3%である。

II-6. 地元関係機関や民間事業者への電話相談委託

39 都道府県の #8000 事業を実施している主体の内訳は、地元の看護協会及び医師会のみが主体であるのが千葉県、地元看護協会と民間事業者とが主体であるのが北海道・埼玉県・広島県であった。その他は、民間事業者が主体であった。民間事業者は複数県の委託を受けている広域民間事業者が 4 事業者あり、その他 2 事業者は一つずつ請け負っており相談対応者（看護師）は看護師である（東京都、大阪府）。広域民間事業者 4 事業者は、39 都道府県中 36 道府県 92.3%を担当している（表 8）。

民間事業者は電話相談内容の記録を事業者毎に異なるシステムに、異なった項目・分類で記録していたため、NDS-8000-1 への情報の統合は、情報を CSV 形式で収集して、統合する方法で実施した。

表 5. 39 都道府県の#8000 電話相談対応時間(祝日を除く、月曜日から金曜日)

電話相談対応時間帯（祝日を除く月曜日～金曜日）																												
No.	都道府県名	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	0	1	2	3	4	5	6	7	8		
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
		0	30	21	22	23	24	0	30	24	1	2	3	4	5	6	7	8	9									
1	北海道																											
2	青森県																											
4	宮城県																											
6	山形県																											
7	福島県																											
8	茨城県																											
10	群馬県																											
11	埼玉県																											
12	千葉県																											
13	東京都																											
14	神奈川県																											
15	新潟県																											
16	富山県																											
17	石川県																											
18	福井県																											
20	長野県																											
21	岐阜県																											
22	静岡県																											
23	愛知県																											
24	三重県																											
25	滋賀県																											
26	京都府																											
27	大阪府																											
28	兵庫県																											
29	奈良県																											
30	和歌山県																											
31	鳥取県																											
32	島根県																											
33	岡山県																											
34	広島県																											
35	山口県																											
36	徳島県																											
37	香川県																											
38	愛媛県																											
41	佐賀県																											
42	長崎県																											
45	宮崎県																											
46	鹿児島県																											
47	沖縄県																											

※ 右端の 8～9 時は翌日の実施状況を示す。すなわち火～土曜日朝の実施状況である。

表 6. 39 都道府県の#8000 電話相談対応時間(祝日を除く、土曜日)

		電話相談対応時間帯（祝日を除く土曜日）																								
No.	都道府県名	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	0	1	2	3	4	5	6	7	8
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	北海道																									
2	青森県																									
4	宮城県																									
6	山形県																									
7	福島県																									
8	茨城県																									
10	群馬県																									
11	埼玉県																									
12	千葉県																									
13	東京都																									
14	神奈川県																									
15	新潟県																									
16	富山県																									
17	石川県																									
18	福井県																									
20	長野県																									
21	岐阜県																									
22	静岡県																									
23	愛知県																									
24	三重県																									
25	滋賀県																									
26	京都府																									
27	大阪府																									
28	兵庫県																									
29	奈良県																									
30	和歌山県																									
31	鳥取県																									
32	島根県																									
33	岡山県																									
34	広島県																									
35	山口県																									
36	徳島県																									
37	香川県																									
38	愛媛県																									
41	佐賀県																									
42	長崎県																									
45	宮崎県																									
46	鹿児島県																									
47	沖縄県																									

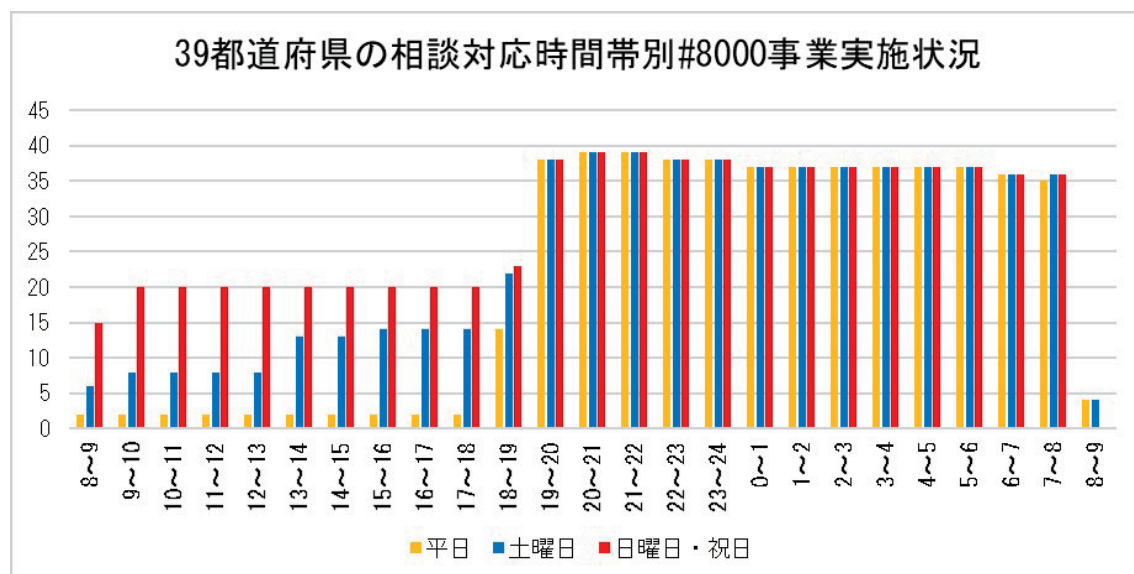
※ 右端の 8~9 時は翌日の実施状況を示す。すなわち日曜日朝の実施状況である。

表 7. 39 都道府県の#8000 電話相談対応時間(日曜日・祝日・年末年始)

電話相談対応時間帯（日祝日、年末年始）																													
No.	都道府県名	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	19	20	21	22	23	0	1	2	3	4	5	6	7			
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	21	22	23	23	24	1	2	3	4	5	6	7			
1	北海道																												
2	青森県																												
4	宮城県																												
6	山形県																												
7	福島県																												
8	茨城県																												
10	群馬県																												
11	埼玉県																												
12	千葉県																												
13	東京都																												
14	神奈川県																												
15	新潟県																												
16	富山県																												
17	石川県																												
18	福井県																												
20	長野県																												
21	岐阜県																												
22	静岡県																												
23	愛知県																												
24	三重県																												
25	滋賀県																												
26	京都府																												
27	大阪府																												
28	兵庫県																												
29	奈良県																												
30	和歌山県																												
31	鳥取県																												
32	島根県																												
33	岡山県																												
34	広島県																												
35	山口県																												
36	徳島県																												
37	香川県																												
38	愛媛県																												
41	佐賀県																												
42	長崎県																												
45	宮崎県																												
46	鹿児島県																												
47	沖縄県																												

※ 右端の 8～9 時は翌日の実施状況を示す。すなわち月曜日あるいは祝日翌日(祝日以外)の朝の実施状況である。

図 3. 39 都道府県の平日・土曜日・日曜祝日別及び時間帯別#8000 事業実施状況



※ 表 5～7 参照。39 都道府県中の深夜帯実施率 94.9%、日曜祝日日勤帯実施率 51.3%。

表 8. 39 都道府県の#8000 事業状況(委託先とデータ取得)

都道府 県番号	都道府県名	地元機関/ 事業者	広域民間 事業者	データ取得	データ取得不可理由
1	北海道	○	○		
2	青森		○		
4	宮城	○	○	広域民間事業者分のみ	地元分デジタル化未
6	山形		○		
7	福島		○		
8	茨城		○		
10	群馬		○		
11	埼玉	○	○		
12	千葉	○			
13	東京	○			
14	神奈川	○	○	広域民間事業者分のみ	地元分デジタル化未
15	新潟		○		
16	富山		○		
17	石川		○		
18	福井	○	○	広域民間事業者分のみ	地元分デジタル化未
20	長野		○		
21	岐阜		○		
22	静岡		○		
23	愛知		○		
24	三重		○		
25	滋賀		○		
26	京都		○		
27	大阪	○			
28	兵庫		○		
29	奈良		○		
30	和歌山		○		
31	鳥取		○		
32	島根		○		
33	岡山		○		
34	広島	○	○		
35	山口		○		
36	徳島		○		
37	香川		○		
38	愛媛		○		
41	佐賀	○	○		
42	長崎		○		
45	宮崎		○		
46	鹿児島	○	○		
47	沖縄		○		

※ 39 都道府県中、11 都道府県 31%が地元事業者に委託(相談対応者は地元看護師)し、36 道府県 92%が広域民間事業者に委託している。宮城県、神奈川県、福井県は地元事業者データを収集できなかった。

Ⅱ-7. 倫理

本事業は東京慈恵会医科大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。個人情報に関しては、匿名化処理し、個人情報の保護に留意した。

Ⅲ. 集計結果

Ⅲ-1. 都道府県別の集計結果

都道府県別情報分析の集計結果は、日本小児科医会ホームページ(<https://www.jpaweb.org>)に掲載する。

Ⅲ-2. 全調査都道府県の集計結果

調査都道府県の情報を集計した結果を以下に示す。今年度は調査期間を12～2月の3か月間とし、総相談件数は241,387件であった。

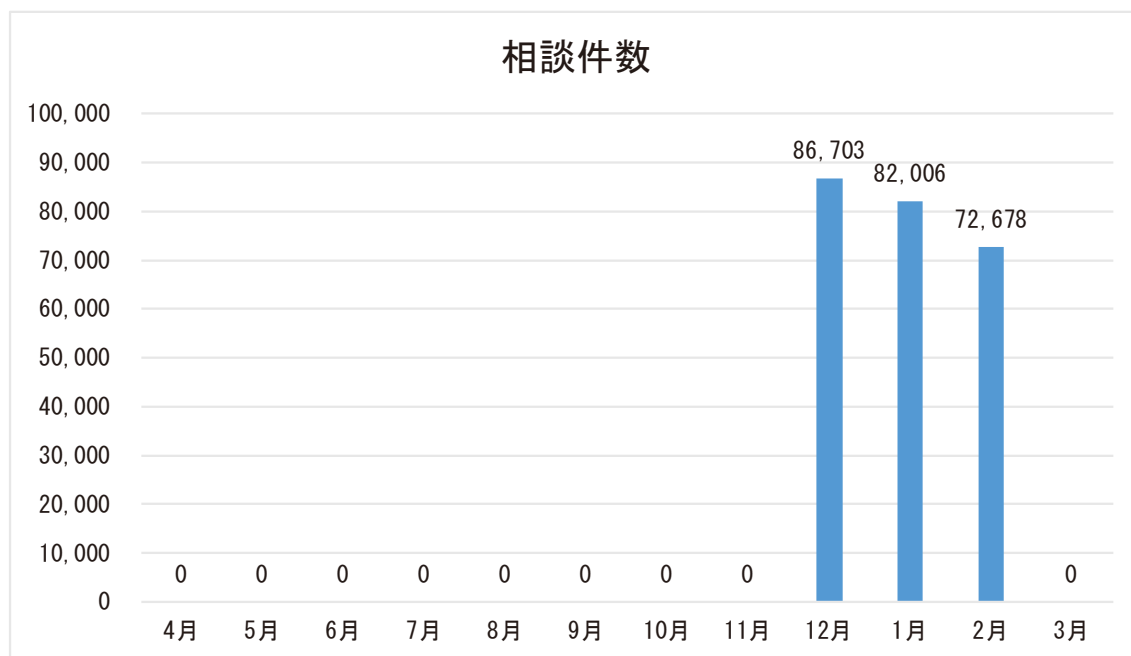
データ収集不良や突合不良で未記入率が30%を超えた場合は、未記入を除いて再検討した。相談対象児年齢は、考察において1歳未満を一括する処理をした。

Ⅲ-2-1. 相談件数

【全国】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	0	0	0	0	0	0	0	0	86,703	82,006	72,678	0	241,387

※ 2019年12月～2020年2月に調査して、241,387件のデータを収集した。



※ 2019年12月～2020年2月に調査して、241,387件のデータを収集した。

Ⅲ-2-2-1. 二次医療圏別相談件数

【全国】

都道府県別集計を参照(p.48-57、表11)

Ⅲ-2-2-2. 小児医療圏別相談件数

【全国】

都道府県別集計を参照 (p.58-67、表 12)

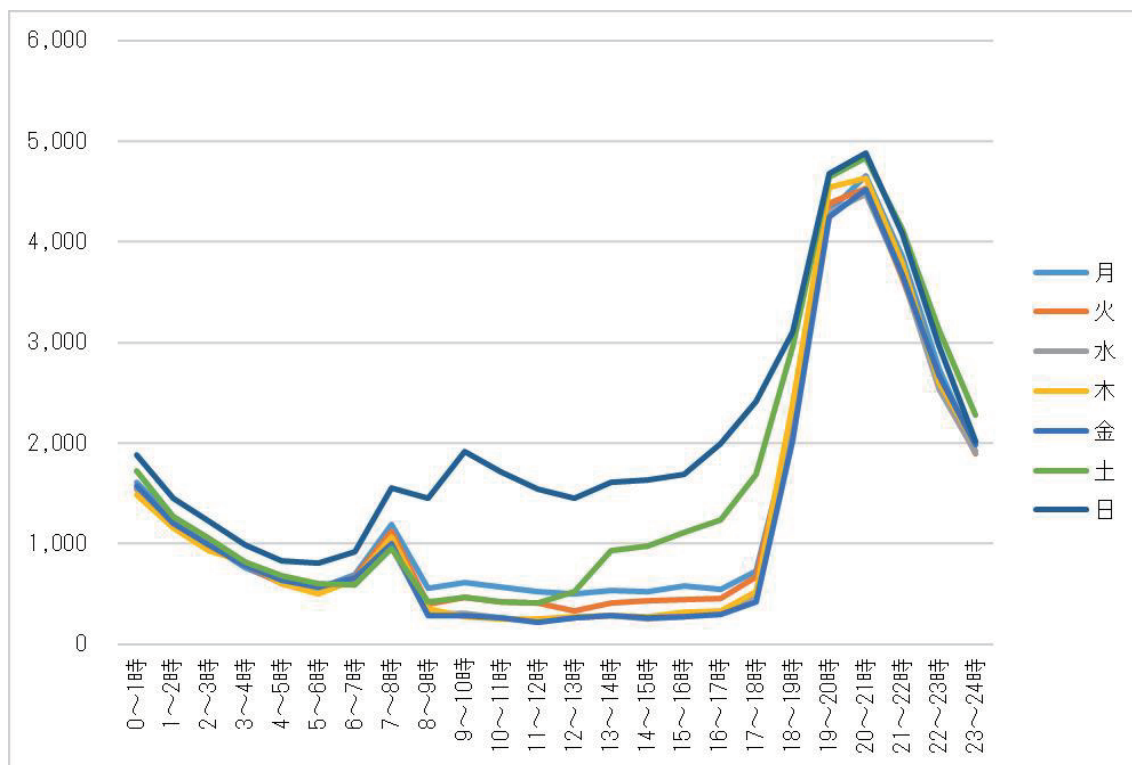
Ⅲ-2-3. 曜日別相談時間帯

【全国】

時間帯	月	火	水	木	金	土	日	未記入	計	割合
0～1 時	1,612	1,541	1,547	1,491	1,581	1,722	1,884	0	11,378	4.7%
1～2 時	1,246	1,225	1,224	1,161	1,204	1,268	1,449	0	8,777	3.6%
2～3 時	1,000	1,000	1,020	927	991	1,058	1,226	0	7,222	3.0%
3～4 時	766	789	786	819	787	818	988	0	5,753	2.4%
4～5 時	616	602	665	608	637	677	832	0	4,637	1.9%
5～6 時	559	520	509	501	570	607	808	0	4,074	1.7%
6～7 時	692	667	640	653	655	587	922	0	4,816	2.0%
7～8 時	1,187	1,120	962	1,069	995	948	1,555	0	7,836	3.2%
8～9 時	560	401	294	351	283	424	1,449	0	3,762	1.6%
9～10 時	612	467	311	280	281	468	1,912	0	4,331	1.8%
10～11 時	569	425	262	253	264	425	1,711	0	3,909	1.6%
11～12 時	526	412	227	250	222	413	1,538	0	3,588	1.5%
12～13 時	499	334	268	280	268	525	1,454	0	3,628	1.5%
13～14 時	535	414	290	287	284	935	1,611	0	4,356	1.8%
14～15 時	528	434	257	277	266	973	1,632	0	4,367	1.8%
15～16 時	577	439	271	321	270	1,109	1,691	0	4,678	1.9%
16～17 時	541	456	325	326	296	1,241	1,990	0	5,175	2.1%
17～18 時	729	668	485	519	422	1,689	2,419	0	6,931	2.9%
18～19 時	2,176	2,197	2,123	2,388	2,025	2,956	3,107	0	16,972	7.0%
19～20 時	4,301	4,385	4,298	4,548	4,250	4,641	4,675	0	31,098	12.9%
20～21 時	4,656	4,527	4,477	4,629	4,523	4,835	4,883	0	32,530	13.5%
21～22 時	3,850	3,642	3,673	3,779	3,673	4,127	4,079	0	26,823	11.1%
22～23 時	2,738	2,650	2,535	2,605	2,669	3,131	2,971	1	19,300	8.0%
23～24 時	1,917	1,896	1,901	1,980	1,985	2,275	2,023	0	13,977	5.8%
未記入	210	209	192	206	212	241	199	0	1,469	0.6%
計	33,202	31,420	29,542	30,508	29,613	38,093	49,008	1	241,387	100.0%

※ 月～土曜日の祝日は各曜日に算入している。相談件数の合計であって 1 日当たりではない。対象期間内に月～日曜日が各 13 日間ずつあった。月曜日に祝日が 3 日間、火曜日に祝日が 2 日間、水～金曜日に祝日が 1 日ずつあり、平日 57 日、土曜日 13 日、日曜祝日 21 日であった。

曜日別相談時間帯



※ 曜日別相談時間帯別相談件数のグラフ。準夜帯 19～21 時をピークとして、以後漸減して深夜帯 5～6 時にピーク時の 1/7 まで減少し、7～8 時に小さな山(ピーク時の 1/4)があり、休日日勤帯はピーク時の 1/3 で一定している。月～土曜日の祝日は各曜日に算入している。相談件数の合計であって 1 日当たりではない。

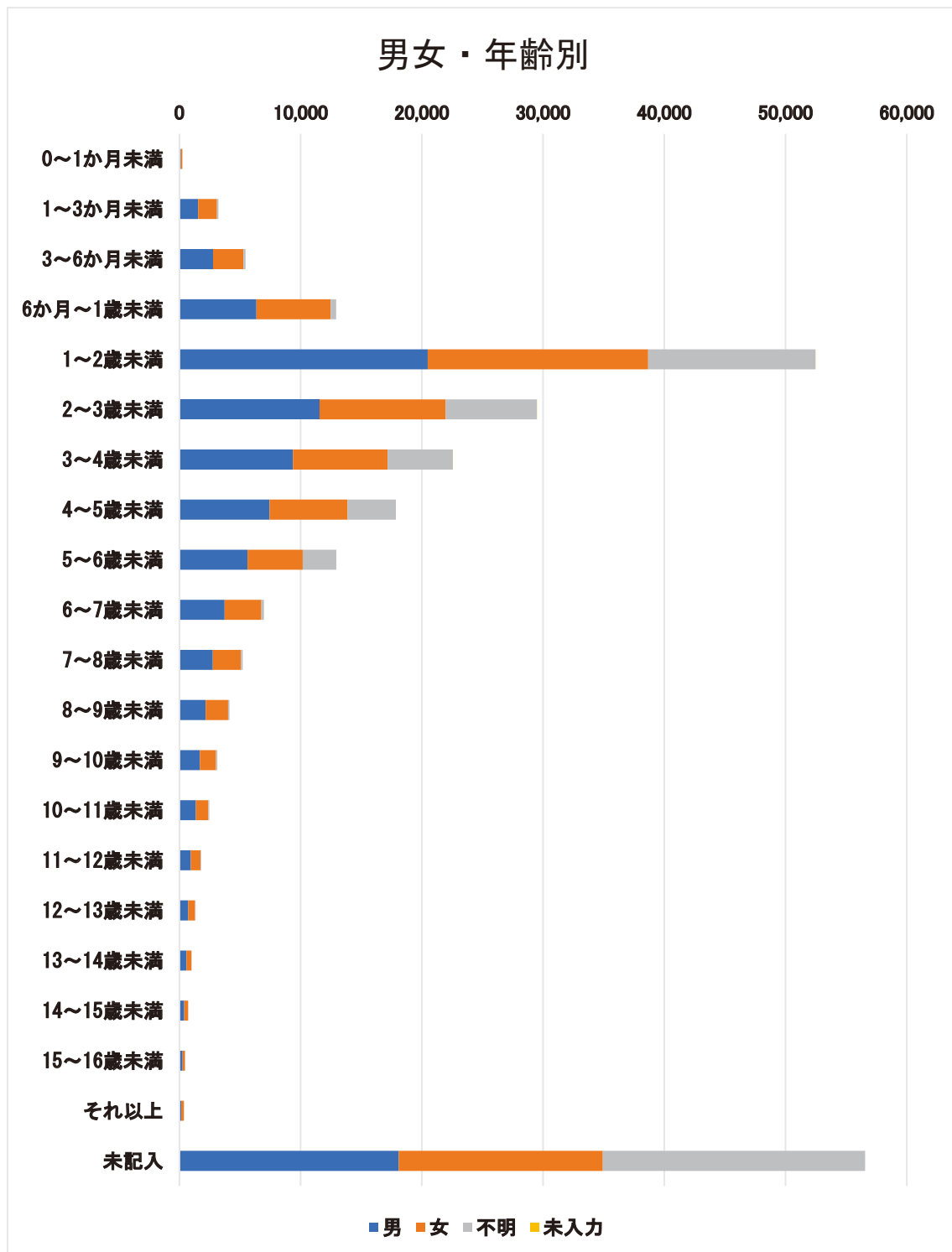
Ⅲ-2-4. 相談対象児(男女・年齢別)

【全国】

相談対象児年齢	男	女	不明	未記入	計	割合
0～1 か月未満	113	123	29	0	265	0.1%
1～3 か月未満	1,548	1,551	116	0	3,215	1.3%
3～6 か月未満	2,779	2,493	185	0	5,457	2.3%
6 か月～1 歳未満	6,356	6,125	447	0	12,928	5.4%
1～2 歳未満	20,478	18,191	13,797	1	52,467	21.7%
2～3 歳未満	11,551	10,414	7,523	1	29,489	12.2%
3～4 歳未満	9,363	7,807	5,386	1	22,557	9.3%
4～5 歳未満	7,439	6,437	3,983	0	17,859	7.4%
5～6 歳未満	5,619	4,554	2,765	0	12,938	5.4%
6～7 歳未満	3,722	3,039	215	0	6,976	2.9%
7～8 歳未満	2,748	2,334	141	0	5,223	2.2%
8～9 歳未満	2,161	1,859	109	0	4,129	1.7%
9～10 歳未満	1,687	1,330	97	1	3,115	1.3%
10～11 歳未満	1,359	1,032	76	0	2,467	1.0%
11～12 歳未満	932	800	56	0	1,788	0.7%
12～13 歳未満	727	569	40	0	1,336	0.6%
13～14 歳未満	584	406	24	0	1,014	0.4%
14～15 歳未満	397	322	19	0	738	0.3%
15～16 歳未満	260	199	18	0	477	0.2%
それ以上	148	208	30	0	386	0.2%
未記入	18,087	16,832	21,644	0	56,563	9.5%
計(件数)	98,058	86,625	56,700	4	241,387	—
計(割合)	40.6%	35.9%	23.5%	0.0%	—	100.0%

※ 都道府県ごと、広域民間事業者ごとに1歳未満のカテゴリー分類が異なるために、突合不良で未記入率が23.4%になった。

100%未記入が1か月未満30都府県、1歳未満が15都県と多数であった。男女比=1.13で男子が多い。考察では、1歳未満を一括する方針とした(p.73-74)。



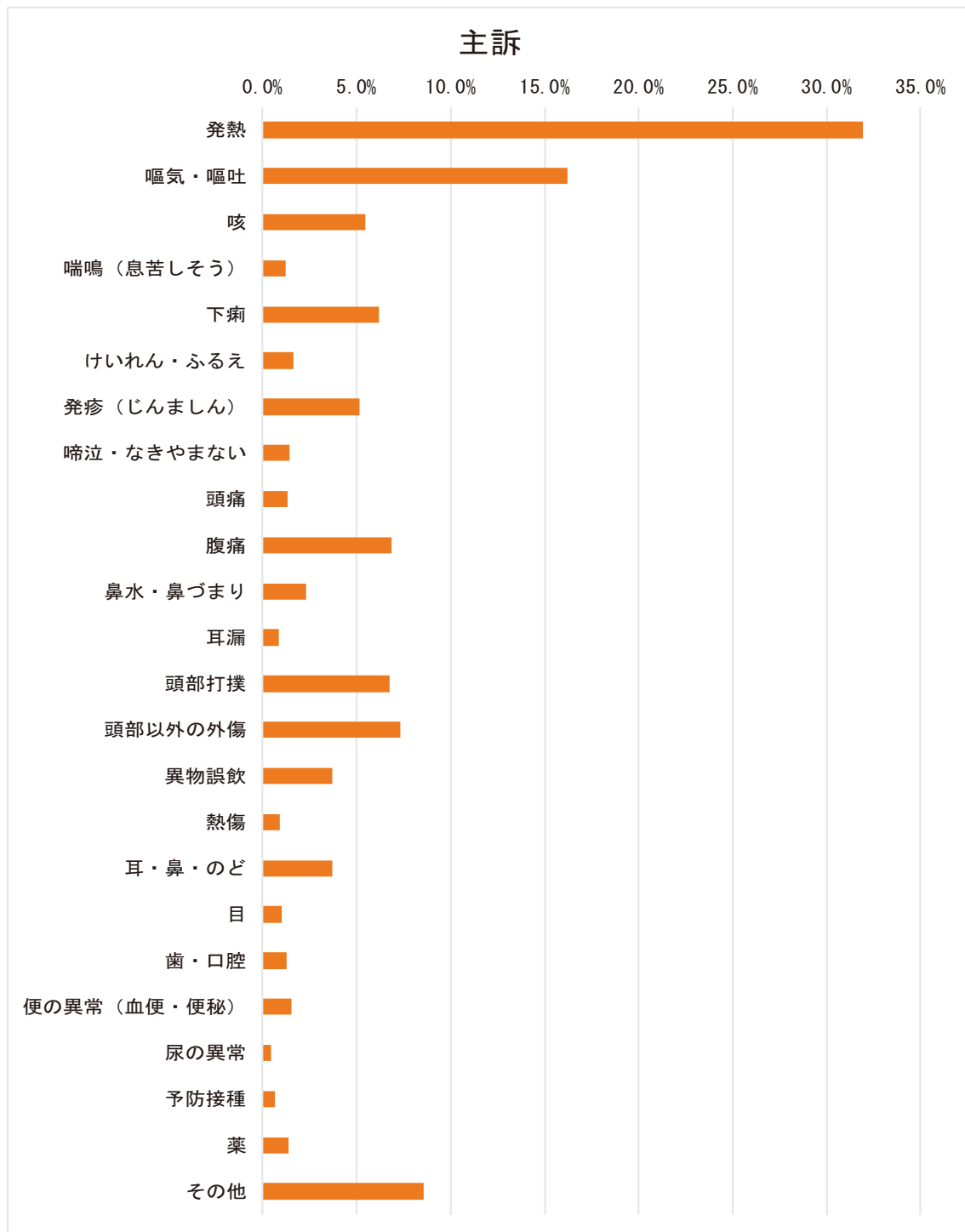
※ 相談対象児の年齢、性別。一部の都道府県で広域民間事業者毎に1歳未満の категорияが異なるために、1歳未満の細分類は突合不良で未記入率 23.4%になった。男女比=1.13 で男子が多い。考察では、1歳未満を一括する方針とした(p.73-74)。

Ⅲ-2-5. 主訴

【全国】

主訴	回答数	割合	相談件数
発熱	77,038	31.9%	—
嘔気・嘔吐	39,145	16.2%	—
咳	13,200	5.5%	—
喘鳴(息苦しそう)	2,965	1.2%	—
下痢	14,901	6.2%	—
けいれん・ふるえ	3,968	1.6%	—
発疹(じんましん)	12,487	5.2%	—
啼泣・なきやまない	3,459	1.4%	—
頭痛	3,156	1.3%	—
腹痛	16,534	6.8%	—
鼻水・鼻づまり	5,502	2.3%	—
耳漏	2,128	0.9%	—
頭部打撲	16,233	6.7%	—
頭部以外の外傷	17,667	7.3%	—
異物誤飲	8,968	3.7%	—
熱傷	2,239	0.9%	—
耳・鼻・のど	8,953	3.7%	—
目	2,391	1.0%	—
歯・口腔	3,058	1.3%	—
便の異常(血便・便秘)	3,661	1.5%	—
尿の異常	1,047	0.4%	—
予防接種	1,603	0.7%	—
薬	3,362	1.4%	—
その他	20,690	8.6%	—
計	284,355	117.8%	241,387

※ 複数回答あり。頻度順では発熱 31.9%、嘔気・嘔吐 16.2%、頭部以外の外傷 7.3%、腹痛 6.8%、頭部打撲 6.7%、下痢 6.2%、咳 5.5%、発疹 5.2%、異物誤飲 3.7%、耳・鼻・のど 3.7%であった。



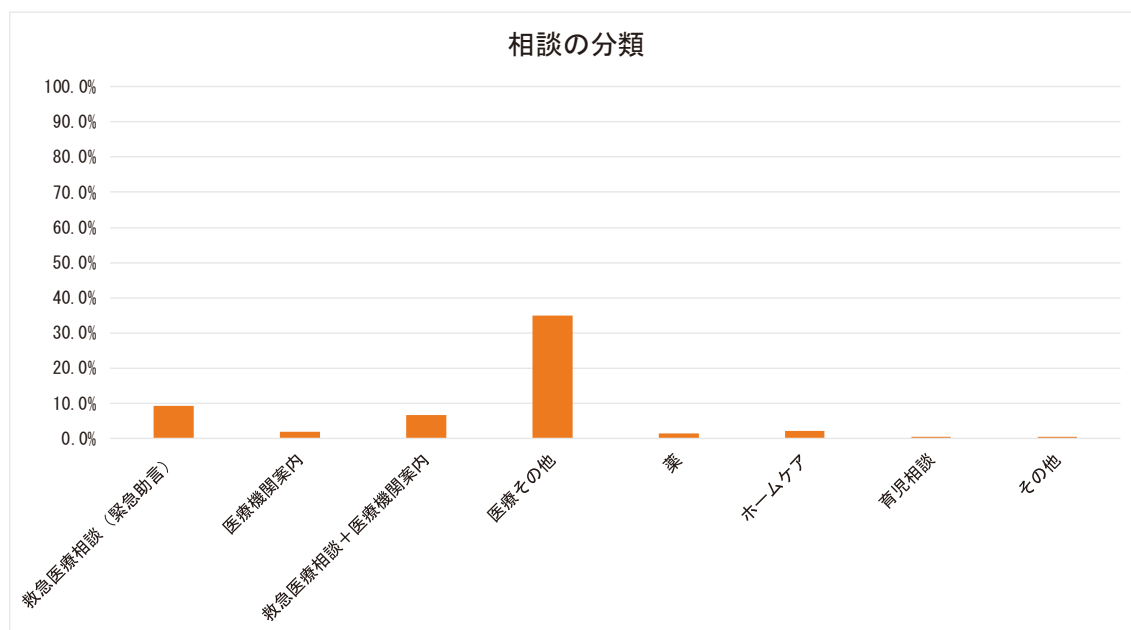
※ 複数回答あり。頻度順では発熱 31.9%、嘔気・嘔吐 16.2%、頭部以外の外傷 7.3%、腹痛 6.8%、頭部打撲 6.7%、下痢 6.2%、咳 5.5%、発疹 5.2%、異物誤飲 3.7%、耳・鼻・のど 3.7%であった。考察では、頻度順、系統別の検討を加えた(p.75)

Ⅲ-2-6. 相談の分類

【全国】

相談の分類	件数	割合
救急医療相談（緊急助言）	22,118	9.2%
医療機関案内	4,327	1.8%
救急医療相談＋医療機関案内	16,294	6.8%
医療その他	84,421	35.0%
薬	3,305	1.4%
ホームケア	5,241	2.2%
育児相談	1,133	0.5%
その他	885	0.4%
未記入	103,663	42.9%
計	241,387	100.0%

※医療・その他が多い。医療機関案内は比較的少ない。未記入率が高い（未記入率 42.9%）。考察では、未記入を除いて検討した（p.76）。



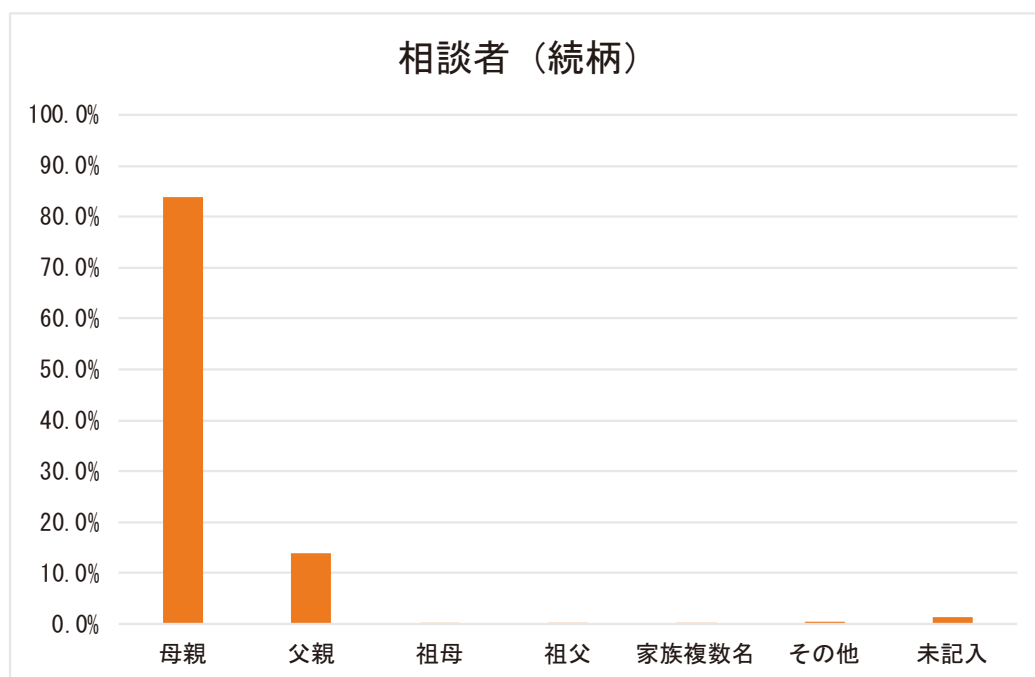
※ グラフは「未記入」の系列を除いて表示した。

Ⅲ-2-7. 相談者（続柄）

【全国】

続柄	件数	割合
母親	202,274	83.8%
父親	33,373	13.8%
祖母	745	0.3%
祖父	111	0.0%
家族複数名	439	0.2%
その他	1,251	0.5%
未記入	3,194	1.3%
計	241,387	100.0%

※母親が 8 割以上で、父親は母親の 1/6 であった。「その他」は両親が電話の途中で代わった場合や、親戚、本人などである。



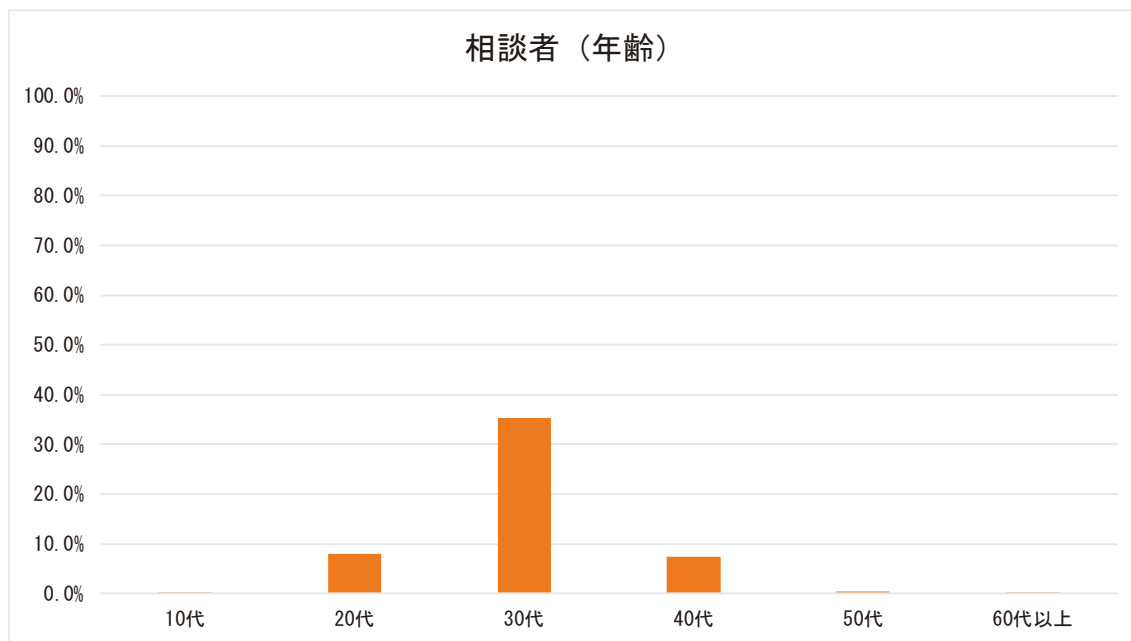
※母親が 8 割以上で、父親は母親の 1/6 であった。「その他」は両親が電話の途中で代わった場合や、親戚、本人などである。

Ⅲ-2-8. 相談者（年齢）

【全国】

年齢	件数	割合
10 代	184	0.1%
20 代	19,276	8.0%
30 代	85,115	35.3%
40 代	18,073	7.5%
50 代	891	0.4%
60 代以上	462	0.2%
未記入	117,386	48.6%
計	241,387	100.0%

※ 未記入率が高い（未記入率 48.6 %）。30 代が 7 割であった。考察では、未記入を除いて検討した（p.77-79）。



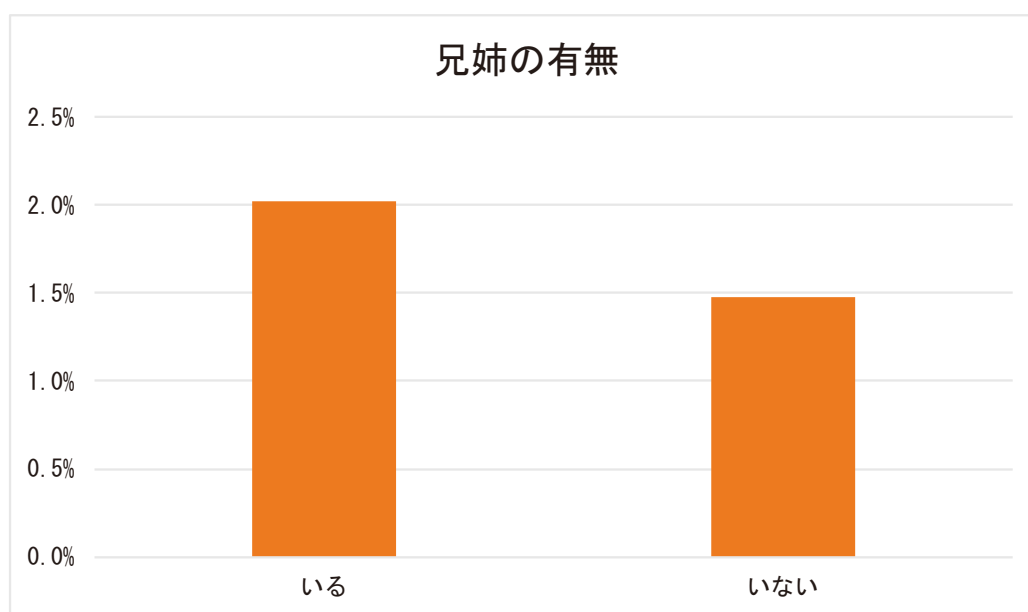
※ グラフは「未記入」の系列を除いて表示した。30 代が 7 割であった。考察では、未記入を除いて検討した（p.77-79）。

Ⅲ-2-9. 兄弟の有無

【全国】

兄弟の有無	件数	割合
いる	4,879	2.0%
いない	3,567	1.5%
未記入	232,941	96.5%
計	241,387	100.0%

※ $\text{いない}/(\text{いる}+\text{いない})=42.2\%$ 、この割合は第1子あるいは子ども一人の割合を示している。未記入率が高い(不明を含む、未記入率 96.5%)。



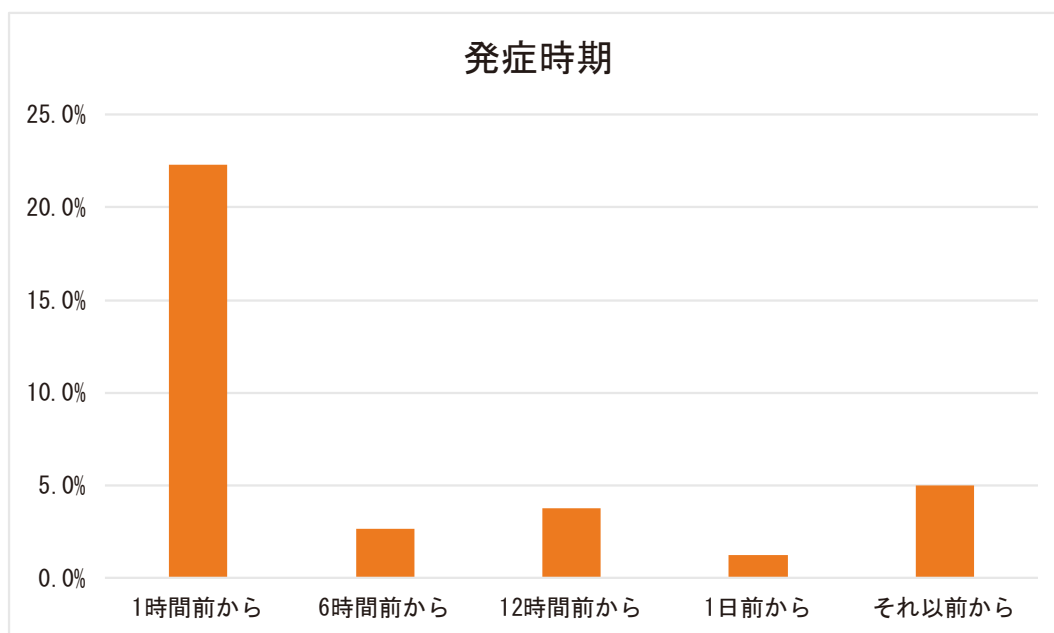
※ $\text{いない}/(\text{いる}+\text{いない})=42.2\%$ 、この割合は第1子あるいは子ども一人の割合を示している。未記入率が高い(未記入率 96.5%)。グラフは「未記入」の系列を除いて表示した。

Ⅲ-2-10. 発症時期

【全国】

発症時期	件数	割合
1 時間前から	53,881	22.3%
6 時間前から	6,351	2.6%
12 時間前から	9,092	3.8%
1 日前から	2,972	1.2%
それ以前から	12,093	5.0%
未記入	156,998	65.0%
計	241,387	100.0%

※ 未記入率が高い(未記入率 65.0%)。1 時間前からが 6 割。考察では未記入を除いて検討した(p.88)。



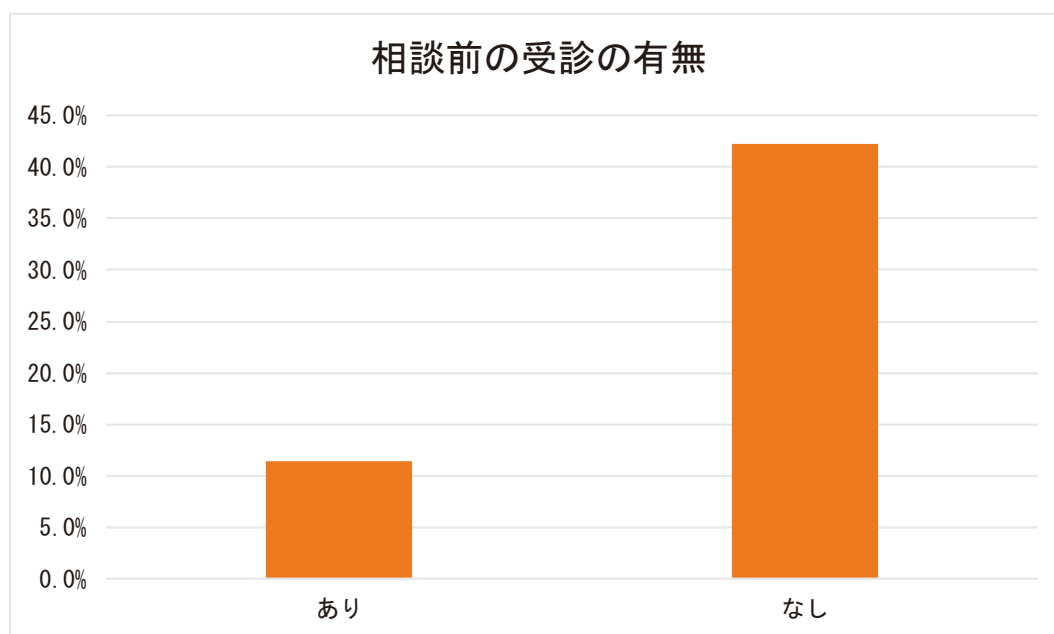
※ 未記入率が高い(未記入率 65.0%)。1 時間前からが 6 割。グラフは「未記入」の系列を除いて表示した。考察では未記入を除いて検討した(p.88)。

Ⅲ-2-11. 相談前の受診の有無

【全国】

相談前の受診の有無	件数	割合
あり	27,593	11.4%
なし	102,101	42.3%
不明	0	0.0%
未記入	111,693	46.3%
計	241,387	100.0%

※ 相談前受診あり/(相談前受診あり+なし)=21.3%。



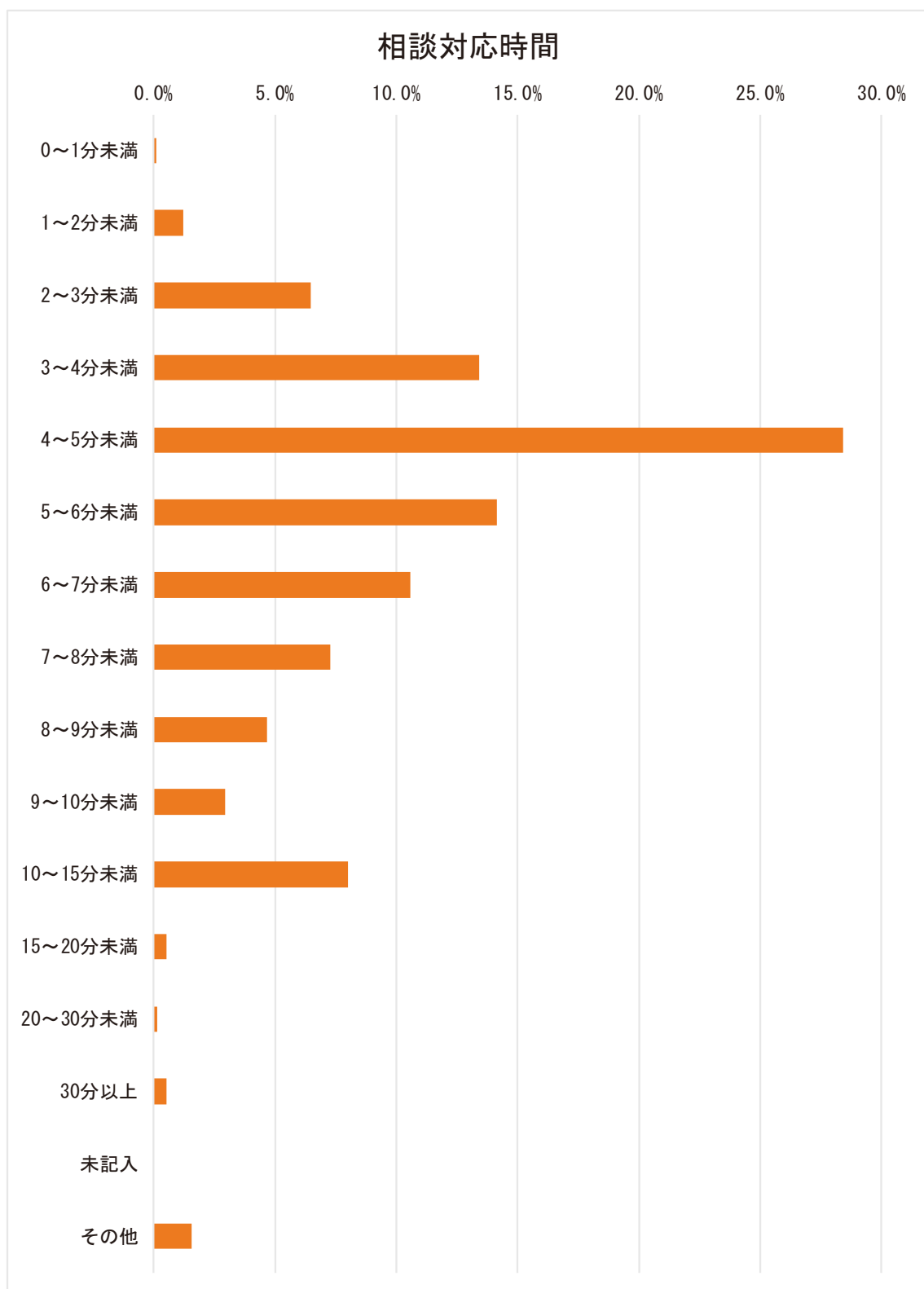
※ 相談前受診あり/(相談前受診あり+なし)=21.3%。グラフは「未記入」の系列を除いて表示した。

Ⅲ-2-12. 相談対応時間

【全国】

相談対応時間	件数	割合
0～1 分未満	276	0.1%
1～2 分未満	2,913	1.2%
2～3 分未満	15,631	6.5%
3～4 分未満	32,360	13.4%
4～5 分未満	68,619	28.4%
5～6 分未満	34,131	14.1%
6～7 分未満	25,553	10.6%
7～8 分未満	17,593	7.3%
8～9 分未満	11,254	4.7%
9～10 分未満	7,094	2.9%
10～15 分未満	19,327	8.0%
15～20 分未満	1,277	0.5%
20～30 分未満	314	0.1%
30 分以上	1,276	0.5%
未記入	0	0.0%
その他	3,769	1.6%
計	241,387	100.0%

※ システムの仕様上、誤入力は「その他」に分類した。4 分台（4～5 分未満）が 28.4%で最も多く、3～6 分台（3～7 分未満）が 66.6%、2/3 を占める。15 分以上は 1.2%。



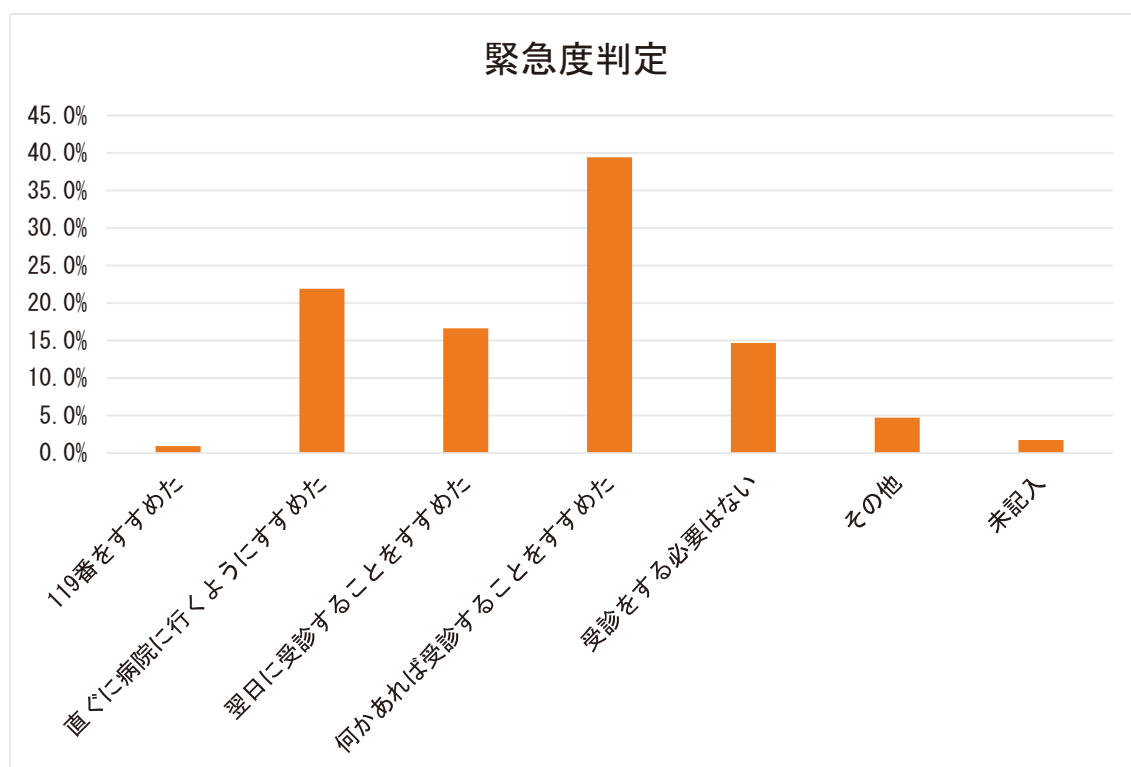
※ システムの仕様上、誤入力は「その他」に分類した。4 分台（4～5 分未満）が 28.4%で最も多く、3～6 分台（3～7 分未満）が 66.6%、2/3 を占める。15 分以上は 1.2%。

Ⅲ-2-13. 相談対応者(看護師)による緊急度判定

【全国】

相談対応者(看護師)による緊急度判定	件数	割合
119番をすすめた	2,266	0.9%
直ぐに病院に行くようにすすめた	52,857	21.9%
翌日に受診することをすすめた	40,084	16.6%
何かあれば受診することをすすめた	95,213	39.4%
受診をする必要はない	35,387	14.7%
その他	11,389	4.7%
未記入	4,191	1.7%
計	241,387	100.0%

※ 「119番をすすめた」0.9%、「直ぐに病院に行くようにすすめた」21.9%、「翌日に受診することをすすめた」16.6%、「何かあれば受診することをすすめた」39.4%、「受診をする必要はない」14.7%、「その他」4.7%、未記入 1.7%で、直ぐ受診(「119番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は 22.8%。少し様子を見る(「翌日に受診をすすめた」+「何かあれば受診することをすすめた」)は 56.0%であった。



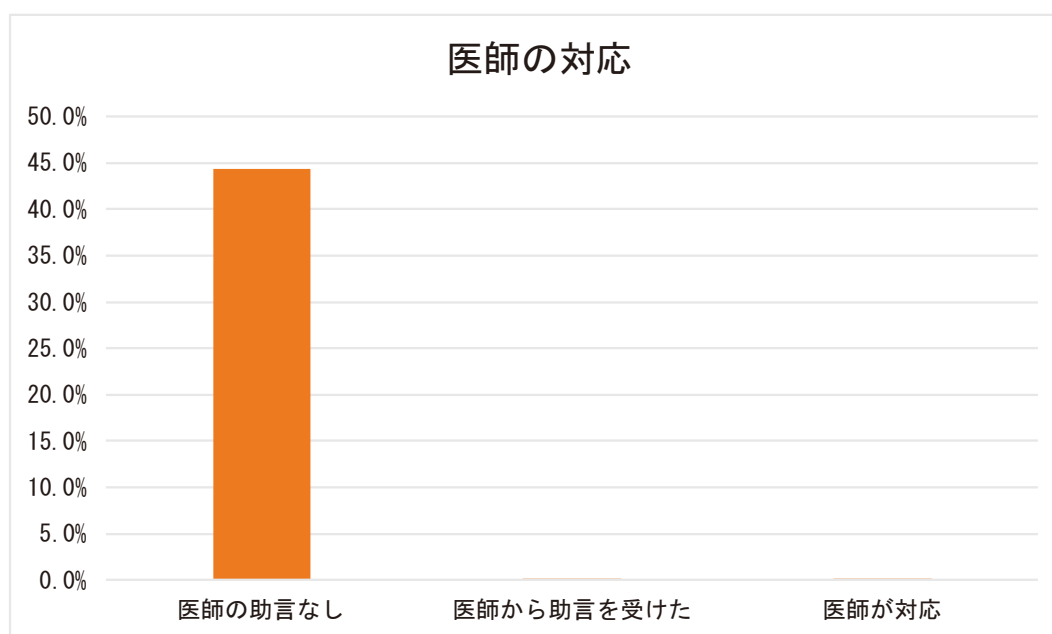
※ 直ぐ受診(「119番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は 22.8%。少し様子を見る(「翌日に受診をすすめた」+「何かあれば受診することをすすめた」)は 56.0%、受診不要は 14.7%であった。

Ⅲ-2-14. 医師の対応

【全国】

相談前の受診の有無	件数	割合
医師の助言なし	107,118	44.4%
医師から助言を受けた	175	0.1%
医師が対応	81	0.0%
未記入	134,013	55.5%
計	241,387	100.0%

※ 医師の助言・対応を要した者は非常に少ない。未記入率が高い(未記入率 55.5%)。考察では未記入を除いて検討した(p.94-95)。



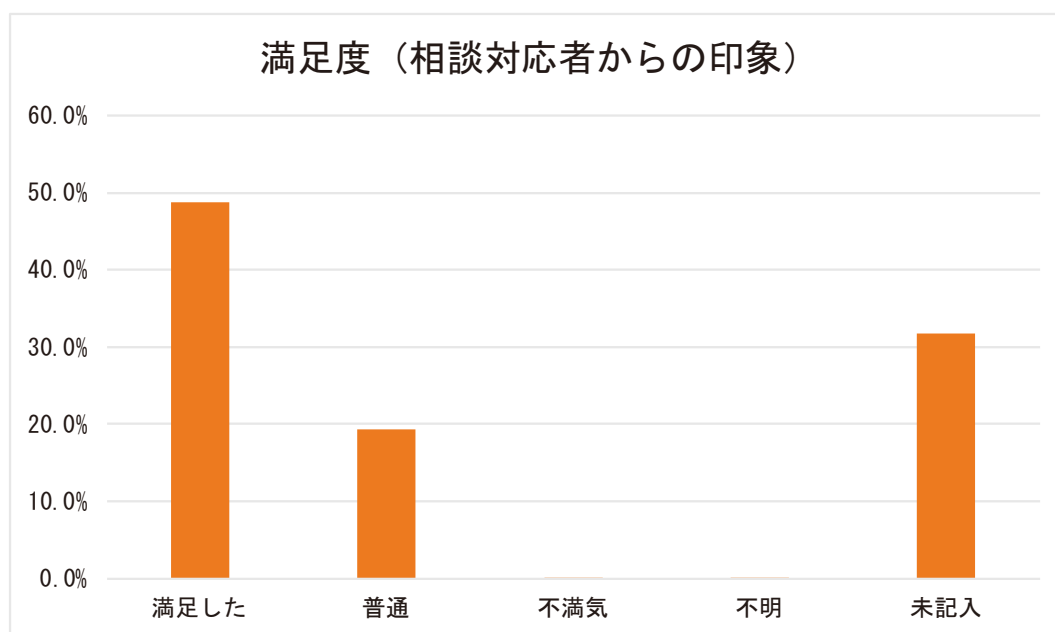
※ 医師の助言・対応を要した者は非常に少ない。未記入率が高い(未記入率 55.5%)。グラフは「未記入」の系列を除いて表示した。考察では未記入を除いて検討した(p.94-95)。

Ⅲ-2-15. 相談者の満足度(相談対応者からの印象)

【全国】

相談者の満足度	件数	割合
満足した	117,755	48.8%
普通	46,724	19.4%
不満気	161	0.1%
不明	68	0.0%
未記入	76,679	31.8%
計	241,387	100.0%

※ 未記入率が高い(未記入率 31.8 %)。考察では未記入を除いて検討した(p.96-97)。



※ 未記入率が高い(未記入率 31.8 %)。考察では未記入を除いて検討した(p.96-97)。

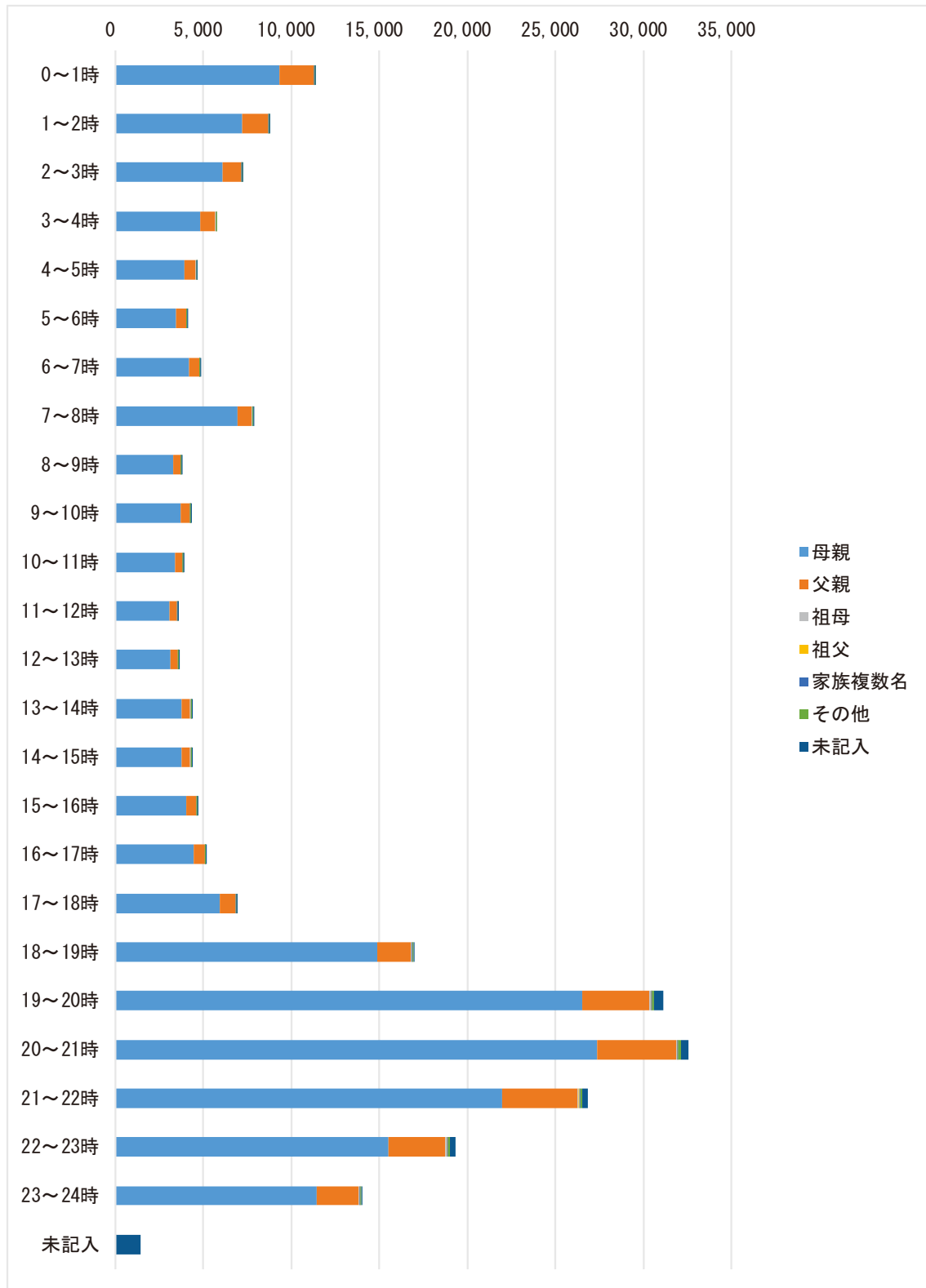
Ⅲ-2-16. 相談時間帯別相談者続柄

【全国】

時間帯	母親	父親	祖母	祖父	家族複数名	その他	未記入	計	割合
0～1 時	9,330	1,931	22	2	26	51	16	11,378	4.7%
1～2 時	7,225	1,457	33	2	16	37	7	8,777	3.6%
2～3 時	6,085	1,069	20	4	14	28	2	7,222	3.0%
3～4 時	4,846	856	9	2	7	33	0	5,753	2.4%
4～5 時	3,927	665	9	1	8	23	4	4,637	1.9%
5～6 時	3,459	576	10	1	7	18	3	4,074	1.7%
6～7 時	4,191	565	14	2	10	31	3	4,816	2.0%
7～8 時	6,959	789	31	2	17	33	5	7,836	3.2%
8～9 時	3,284	440	10	2	5	20	1	3,762	1.6%
9～10 時	3,732	503	14	2	9	44	27	4,331	1.8%
10～11 時	3,387	433	19	1	6	34	29	3,909	1.6%
11～12 時	3,077	422	28	3	9	22	27	3,588	1.5%
12～13 時	3,130	422	20	3	5	43	5	3,628	1.5%
13～14 時	3,758	513	20	1	10	39	15	4,356	1.8%
14～15 時	3,783	489	19	7	13	32	24	4,367	1.8%
15～16 時	4,042	554	17	6	8	31	20	4,678	1.9%
16～17 時	4,463	622	15	3	10	42	20	5,175	2.1%
17～18 時	5,942	884	26	6	13	46	14	6,931	2.9%
18～19 時	14,858	1,930	44	7	40	81	12	16,972	7.0%
19～20 時	26,540	3,805	87	14	54	112	486	31,098	12.9%
20～21 時	27,350	4,492	75	12	44	159	398	32,530	13.5%
21～22 時	21,969	4,275	84	13	48	122	312	26,823	11.1%
22～23 時	15,505	3,263	74	10	37	113	298	19,300	8.0%
23～24 時	11,418	2,416	45	5	23	57	13	13,977	5.8%
未記入	14	2	0	0	0	0	1,453	1,469	0.6%
計	202,274	33,373	745	111	439	1,251	3,194	241,387	100.0%

※ 父親/母親比は平均 0.16、時間帯別 0.11～0.21 で、+1sd 以上（父親の相談が比較的多い）は 21～2 時であった。

相談時間帯別相談者続柄



※ 相談時間帯と相談者続柄。父親/母親比は平均 0.16、時間帯別 0.11~0.21 で、+1sd 以上(父親の相談が比較的多い)は 21~22 時であった。

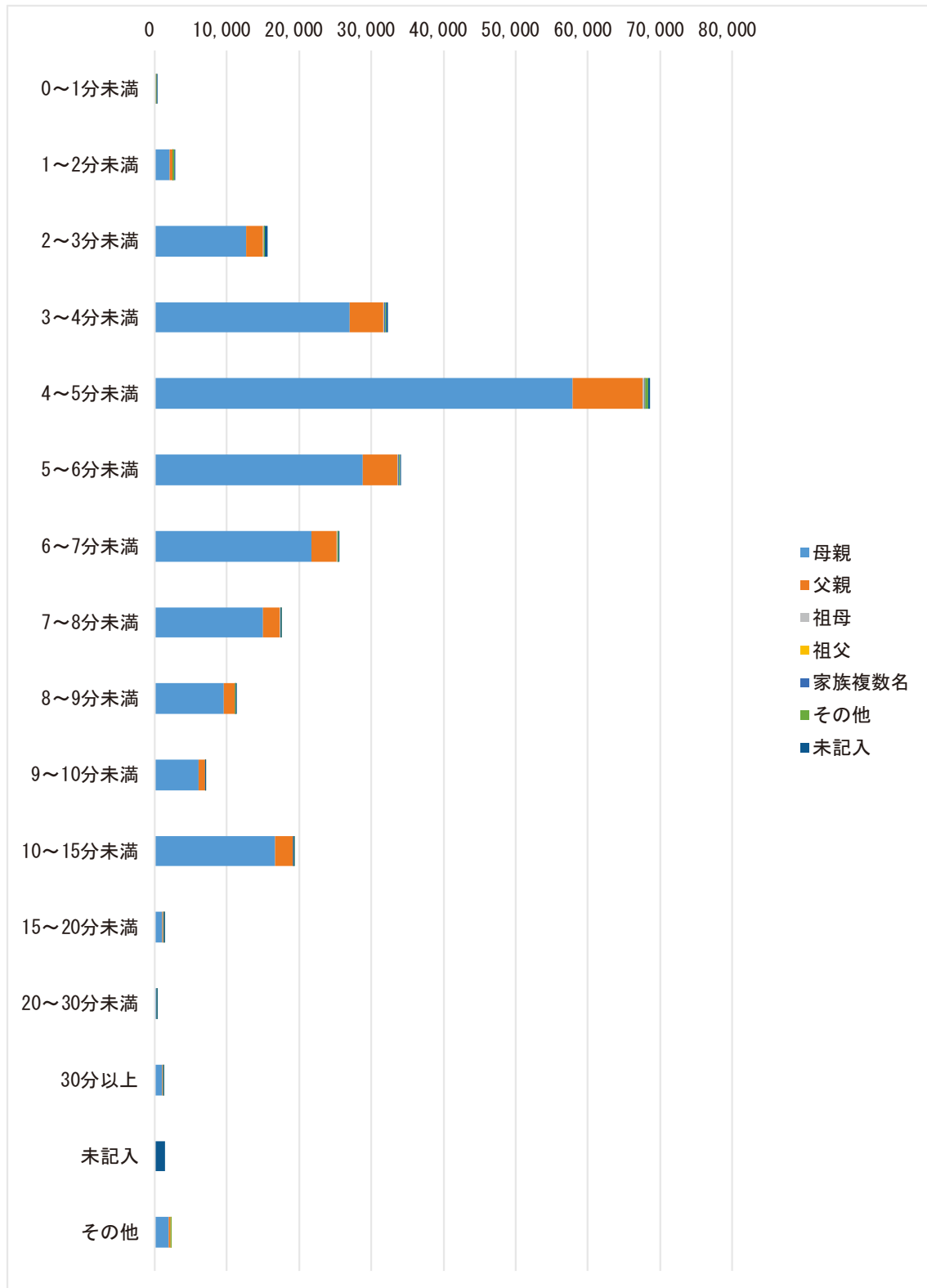
Ⅲ-2-17. 相談対応時間別相談者続柄

【全国】

相談対応時間	母親	父親	祖母	祖父	家族複数名	その他	未記入	計	割合
0～1 分未満	167	22	0	0	0	48	39	276	0.1%
1～2 分未満	2,160	390	4	3	1	176	179	2,913	1.2%
2～3 分未満	12,723	2,334	47	7	35	127	358	15,631	6.5%
3～4 分未満	26,980	4,728	109	24	43	119	357	32,360	13.4%
4～5 分未満	57,822	9,802	139	15	113	439	289	68,619	28.4%
5～6 分未満	28,852	4,798	118	16	58	108	181	34,131	14.1%
6～7 分未満	21,696	3,515	94	19	50	78	101	25,553	10.6%
7～8 分未満	15,013	2,355	72	8	37	44	64	17,593	7.3%
8～9 分未満	9,586	1,520	50	7	19	31	41	11,254	4.7%
9～10 分未満	6,132	877	21	4	17	23	20	7,094	2.9%
10～15 分未満	16,739	2,378	61	5	62	43	39	19,327	8.0%
15～20 分未満	1,094	163	8	2	3	3	4	1,277	0.5%
20～30 分未満	260	47	3	0	1	2	1	314	0.1%
30 分以上	1,049	165	7	0	0	3	52	1,276	0.5%
未記入	0	0	0	0	0	0	1,469	1,469	0.6%
その他	2,001	279	12	1	0	7	0	2,300	1.0%
計	202,274	33,373	745	111	439	1,251	3,194	241,387	100.0%

※ 相談者続柄で、相談対応時間に違いはない。

相談対応時間別相談者続柄



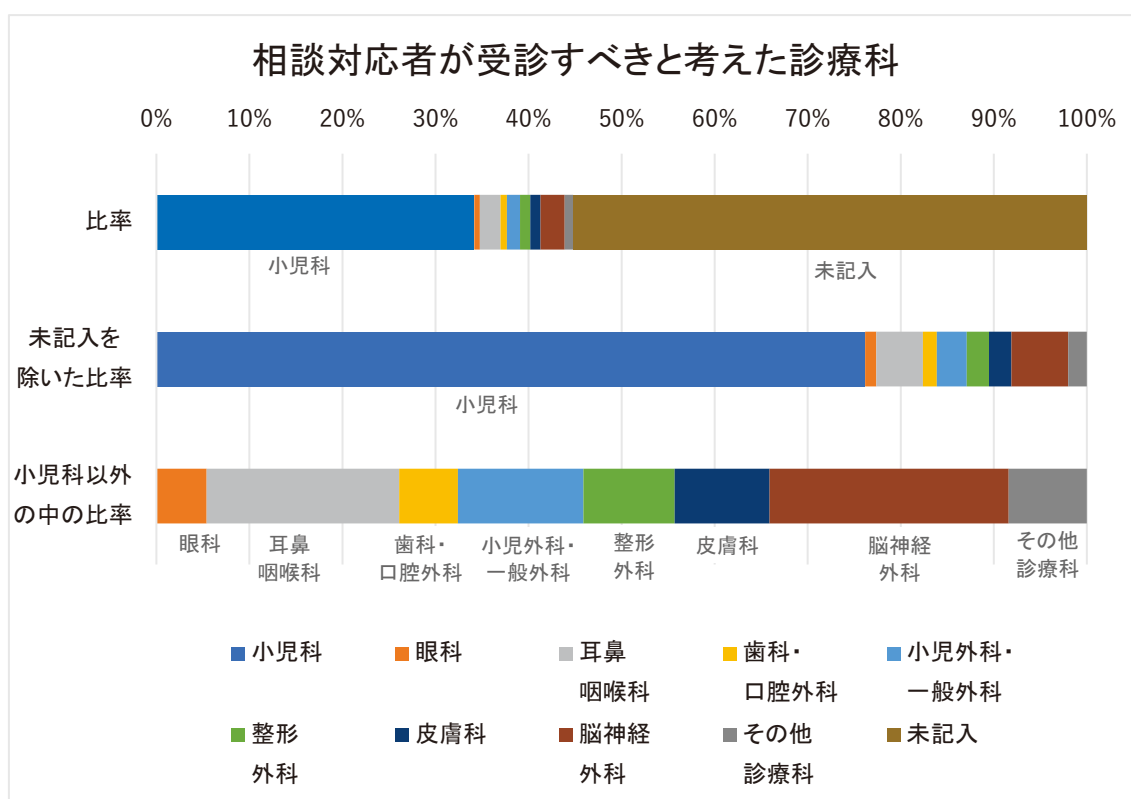
※ 相談対応時間別相談者続柄。相談者続柄で、相談対応時間に違いはない。

Ⅲ-2-18. 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科

【全国】

	件数	割合	未記入を除いた割合	小児科以外の中の割合
小児科	82,398	34.1%	76.1%	
眼科	1,390	0.6%	1.3%	5.4%
耳鼻咽喉科	5,371	2.2%	5.0%	20.7%
歯科・口腔外科	1,641	0.7%	1.5%	6.3%
小児外科・一般外科	3,492	1.4%	3.2%	13.5%
整形外科	2,549	1.1%	2.4%	9.8%
皮膚科	2,650	1.1%	2.4%	10.2%
脳神経外科	6,654	2.8%	6.1%	25.7%
その他診療科	2,185	0.9%	2.0%	8.4%
未記入	133,057	55.1%		
計	241,387		108,330	25,932

※ 未記入率が高い(未記入率 55.1%)。考察では未記入を除いて検討した(p.98-100)。なお、宮城県の診療科は、処理の過程で取り込めなかった。

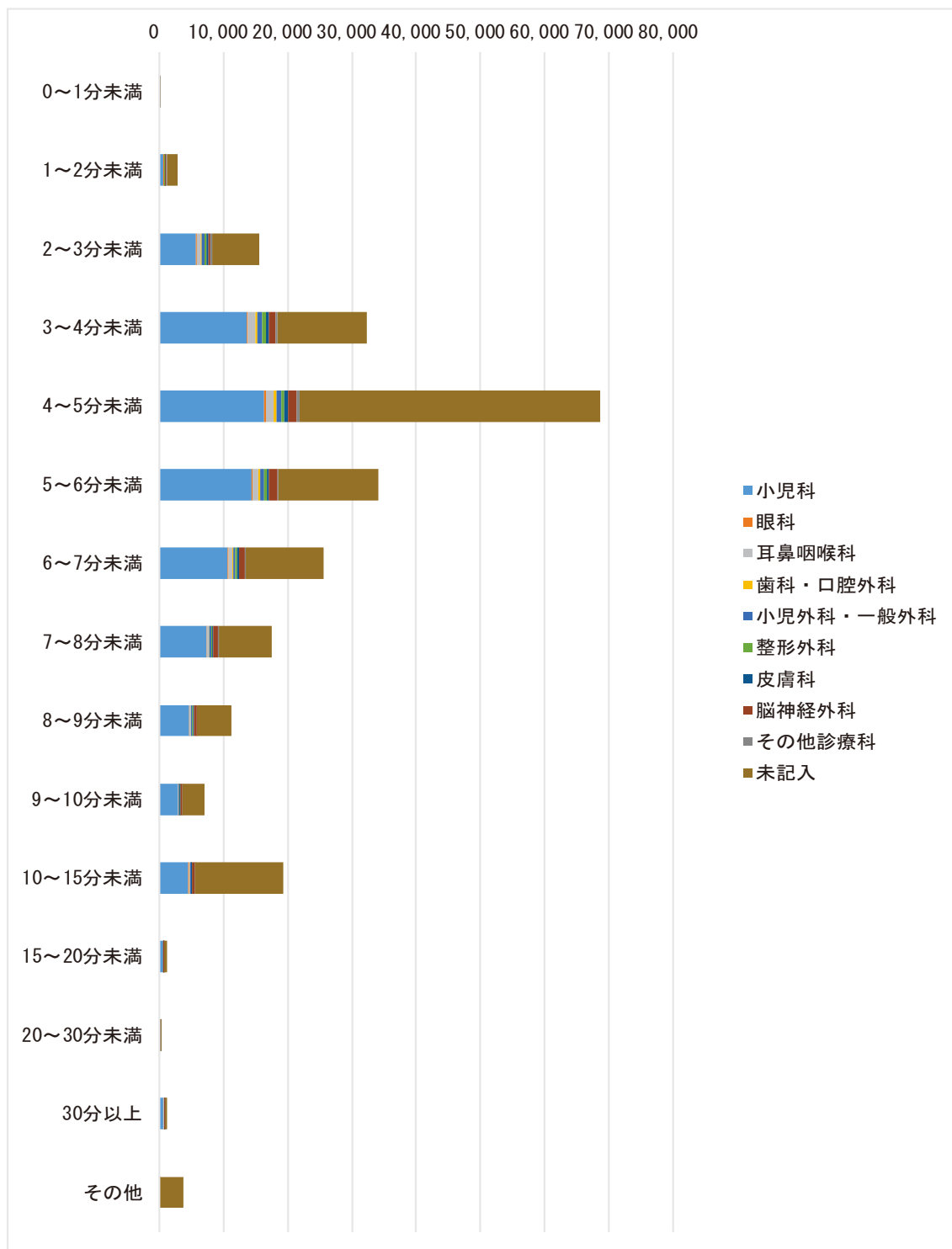


相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科(相談対応時間別)

相談対応時間	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科・口腔外科	小児外科・一般外科	整形外科	皮膚科	脳神経外科	その他診療科	未記入	計	割合
0～1分未満	19	0	1	0	2	0	0	1	59	194	276	0.1%
1～2分未満	717	20	86	13	36	85	28	47	284	1,597	2,913	1.2%
2～3分未満	5,797	145	574	139	365	371	218	312	334	7,376	15,631	6.5%
3～4分未満	13,586	277	1,107	360	707	565	529	927	379	13,923	32,360	13.4%
4～5分未満	16,356	304	1,185	406	747	525	611	1,333	347	46,805	68,619	28.4%
5～6分未満	14,331	229	853	268	630	412	421	1,232	245	15,510	34,131	14.1%
6～7分未満	10,586	157	601	178	383	229	289	908	155	12,067	25,553	10.6%
7～8分未満	7,314	96	361	99	251	151	214	649	130	8,328	17,593	7.3%
8～9分未満	4,697	56	224	59	157	82	123	420	81	5,355	11,254	4.7%
9～10分未満	2,902	34	114	45	81	46	75	285	51	3,461	7,094	2.9%
10～15分未満	4,599	52	193	49	102	59	105	412	80	13,676	19,327	8.0%
15～20分未満	630	4	24	9	8	4	15	46	11	526	1,277	0.5%
20～30分未満	137	2	1	2	4	0	1	6	6	155	314	0.1%
30分以上	704	14	46	13	19	19	20	75	23	343	1,276	0.5%
未記入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他	23	0	1	1	0	1	1	1	0	3,741	3,769	1.6%
計	82,398	1,390	5,371	1,641	3,492	2,549	2,650	6,654	2,185	133,057	241,387	100.0%

※ 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科と相談対応時間を検討した。未記入率が高い(未記入率 55.1%)。考察では未記入を除いて検討した(p.98-100)。なお、宮城県の診療科は、処理の過程で取り込めなかった。

相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科(相談対応時間別)



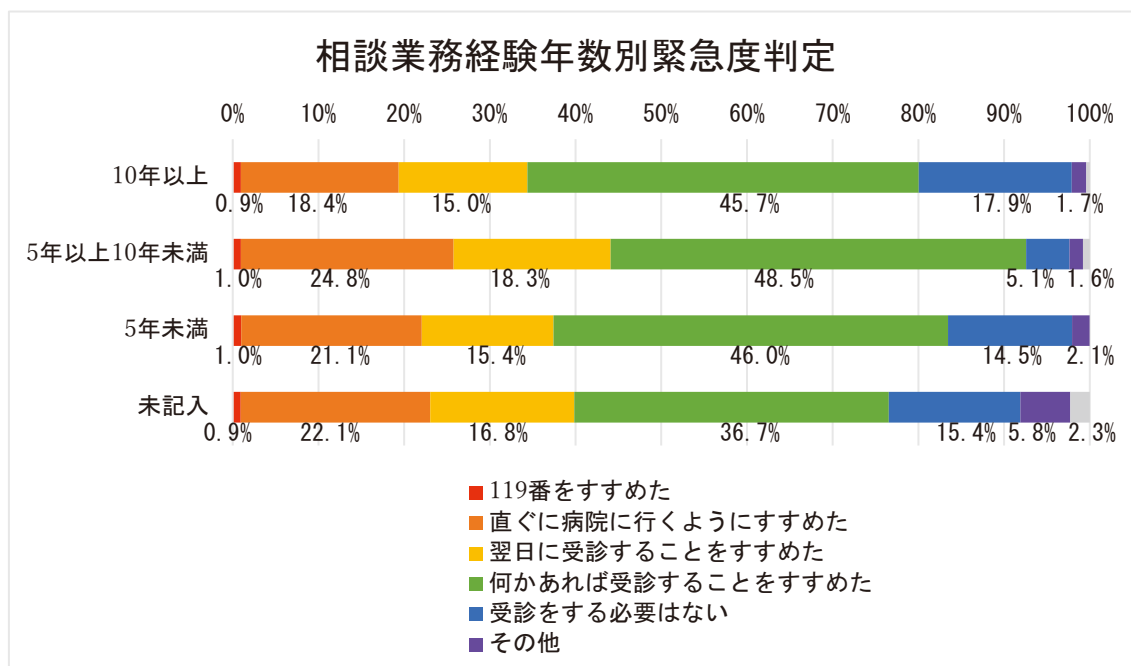
※ 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科を相談対応時間別に検討した。未記入率が高い(未記入率 55.1%)ため、未記入を除いて検討した(p.98-100)。なお、宮城県の相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科は、処理の過程で取り込めなかった。

Ⅲ-2-19. 相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定

【全国】

相談対応者(看護師)による緊急度判定	相談業務経験年数	5年未満	5年以上10年未満	10年以上	未記入	計
119番をすすめた	件数	304	172	172	1,618	2,266
	割合	1.0%	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%
直ぐに病院に行くようにすすめた	件数	6,444	4,468	3,358	38,587	52,857
	割合	21.1%	24.8%	18.4%	22.1%	21.9%
翌日に受診することをすすめた	件数	4,709	3,297	2,740	29,338	40,084
	割合	15.4%	18.3%	15.0%	16.8%	16.6%
何かあれば受診することとをすすめた	件数	14,092	8,727	8,327	64,067	95,213
	割合	46.0%	48.5%	45.7%	36.7%	39.4%
受診をする必要はない	件数	4,426	910	3,258	26,793	35,387
	割合	14.5%	5.1%	17.9%	15.4%	14.7%
その他	件数	634	284	307	10,164	11,389
	割合	2.1%	1.6%	1.7%	5.8%	4.7%
未記入	件数	2	143	76	3,970	4,191
	割合	0.0%	0.8%	0.4%	2.3%	1.7%
計	件数	30,611	18,001	18,238	174,537	241,387

※ 相談員の情報を得られないことが多い(72.3%)。



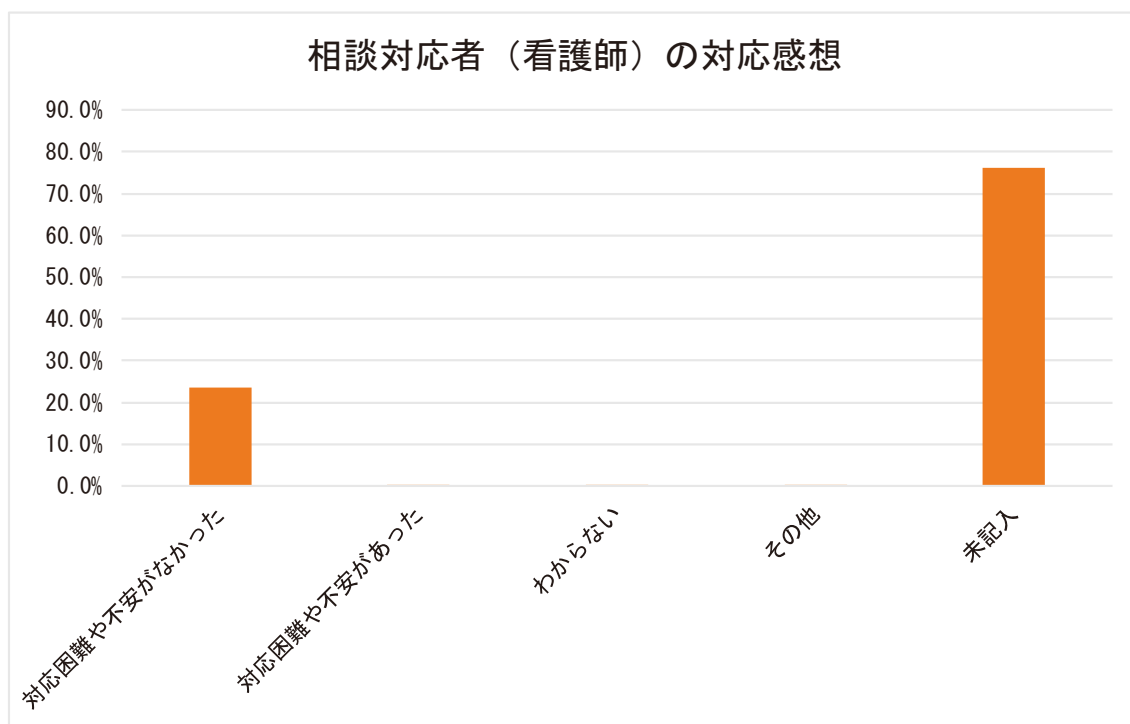
※ 相談員の情報を得られないことが多い(72.3%)。(p.103 再掲)。

Ⅲ-2-20. 相談対応者(看護師)の対応感想

【全国】

相談対応者(看護師)の対応感想	件数	割合
対応困難や不安がなかった	56,744	23.5%
対応困難や不安があった	138	0.1%
わからない	73	0.0%
その他	438	0.2%
未記入	183,994	76.2%
計	241,387	100.0%

※ 未記入率高い(未記入率 76.2%)。ほとんどが、対応困難や不安がなかった。



IV. 考察

IV-1. 都道府県別の考察

都道府県別情報分析結果の考察は、日本小児科医会ホームページ(<https://www.jpaweb.org>)に掲載する。

IV-2. 全調査都道府県の考察

IV-2-1. 総相談件数(表 9)

今年度は 39 都道府県が参加した。新たに参加したのは宮城県、山形県、福島県、神奈川県、新潟県、長野県、兵庫県、山口県、香川県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、14 県である。全国の年少人口の 88.9%をカバーする全国調査になった。令和元年 12 月～令和 2 年 2 月、3 か月間に 241,387 件を収集した。

表 9. 総相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
相談件数	0	0	0	0	0	0	0	0	86,703	82,006	72,678	0	241,387

※ 2019 年 12 月～2020 年 2 月に調査して、241,387 件のデータを収集した。(p.17 再掲)

IV-2-2. 都道府県別年少人口対、小児科医師・小児外科医師対相談件数

各都道府県の年少人口(15 歳未満)千人に対する 1 か月当たりの相談件数(以下、年少人口対相談件数と略す)、小児科医師および小児外科医師 1 人に対する 1 か月当たりの相談件数(以下、小児科医師対相談件数と略す)を求めた(表 10)。年少人口は令和 2 年 1 月の人口を用いた。平均値を求める際に、今回地元事業者のデータを入手できなかった宮城県、神奈川県、福井県 3 県を除いた。

年少人口千人対相談件数は平均値 6.4、中央値 5.7(最小 2.5～最大 13.4、5.4 倍差)、小児科医師対相談件数は平均値 5.7(最小 2.1～最大 14.2、6.8 倍差)で、都道府県間の差が大きい(表 10、図 4)。年少人口対相談件数の上位 3 県は奈良県、埼玉県、茨城県で、下位 3 県は北海道、愛知県、山形県であった。小児科医師対相談件数の上位 3 県は埼玉県、茨城県、奈良県で、下位 3 県は北海道、山形県、長野県であった。

都道府県内の小児医療圏ごとの年少人口対相談件数、小児科医師対相談件数を求めて(表 12)、各都道府県内の小児医療圏間の差をみた。年少人口千人対相談件数の小児医療圏間差は平均 2.6 倍(最小 1.2～最大 7.4)で、差が 3 倍を超える都道府県は鹿児島県 7.4 倍、長崎県 5.1 倍、静岡県 4.1 倍、青森県 3.8 倍、愛知県 3.4 倍、広島県 3.4 倍で、それぞれで最小の小児医療圏は、鹿児島県熊毛、長崎県壱岐、静岡県熱海、青森県津軽、愛知県西三河北部、広島県備

北であった。島しょあるいは山間部が多い。小児科医師対相談件数の小児医療圏間差は平均 3.1、中央値 3.0(1.1～12.5)であった。

相談件数の都道府県間差、小児医療圏間差が大きくなる背景には、#8000 実施体制、#8000 の広報、医療提供体制、地理的問題、医療機関アクセス、等があると思われる。

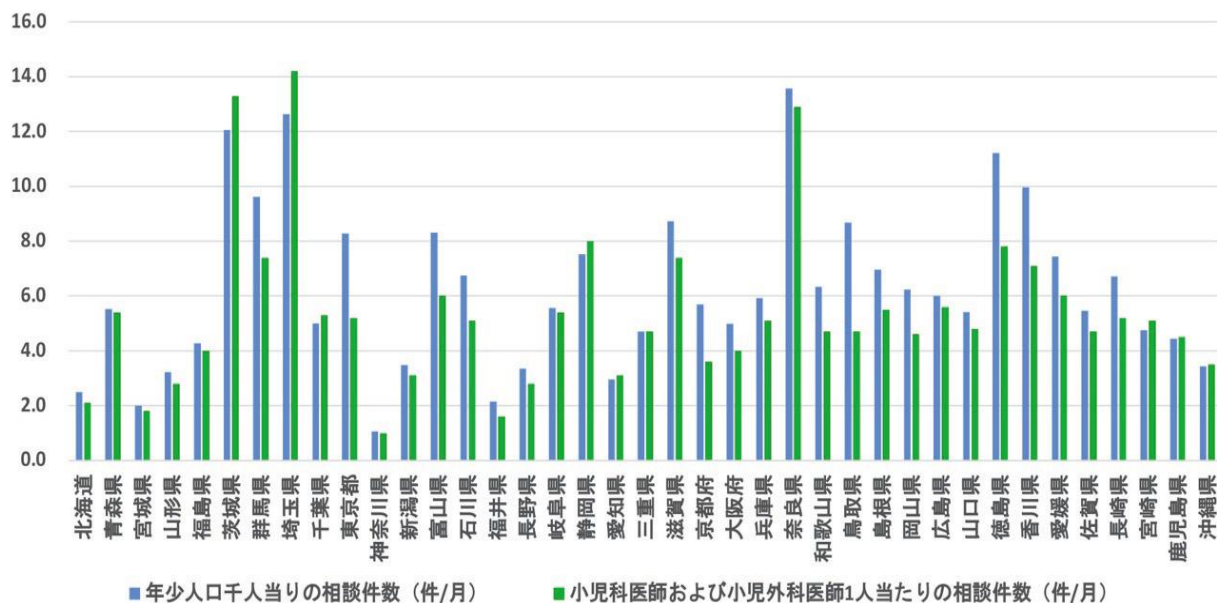
表 10. 都道府県別、年少人口(15 歳未満)千人対(件/月)、小児科または小児外科医師 1 人対相談件数(件/月)

都道府県番号	都道府県名	15 歳未満人口 (令和 2 年 1 月) ⁵⁾	小児科医師・小 児外科医師数	1 か月間の相談 件数	年少人口千人当 りの相談件数 (件/月)	小児科医師およ び小児外科医師 1 人当たりの相 談件数(件/月)
1	北海道	571,826	656	1410.3	2.5	2.1
2	青森県	136,210	136	735.3	5.4	5.4
4	宮城県	276,689	303	543.0	2.0	1.8
6	山形県	123,661	144	397.3	3.2	2.8
7	福島県	181,124	223	900.0	5.0	4.0
8	茨城県	349,688	310	4125.7	11.8	13.3
10	群馬県	235,220	303	2230.0	9.5	7.4
11	埼玉県	900,953	784	11131.7	12.4	14.2
12	千葉県	758,400	693	3697.7	4.9	5.3
13	東京都	1,603,041	2,452	12862.3	8.0	5.2
14	神奈川県	1,120,570	1,144	1177.7	1.1	1.0
15	新潟県	255,662	282	886.0	3.5	3.1
16	富山県	120,606	165	990.3	8.2	6.0
17	石川県	141,624	187	944.7	6.7	5.1
18	福井県	98,759	126	206.3	2.1	1.6
20	長野県	253,294	303	833.3	3.3	2.8
21	岐阜県	252,670	255	1383.7	5.5	5.4
22	静岡県	453,518	421	3366.3	7.4	8.0
23	愛知県	1,008,037	942	2936.7	2.9	3.1
24	三重県	222,037	219	1020.3	4.6	4.7
25	滋賀県	197,873	231	1703.0	8.6	7.4
26	京都府	305,222	476	1703.3	5.6	3.6
27	大阪府	1,068,256	1,290	5197.7	4.9	4.0

28	兵庫県	693,950	778	3986.0	5.7	5.1
29	奈良県	160,337	167	2146.0	13.4	12.9
30	和歌山県	109,139	143	678.7	3.3	4.7
31	鳥取県	70,298	128	607.0	8.6	4.7
32	島根県	83,852	105	578.3	6.9	5.5
33	岡山県	241,950	321	1472.7	6.1	4.6
34	広島県	363,087	385	2148.7	5.9	5.6
35	山口県	159,814	180	855.0	5.4	4.8
36	徳島県	84,464	117	908.0	10.8	7.8
37	香川県	121,117	163	1157.0	9.6	7.1
38	愛媛県	162,018	197	1185.3	7.3	6.0
41	佐賀県	111,690	129	601.0	5.4	4.7
42	長崎県	170,297	215	1121.7	6.6	5.2
45	宮崎県	145,015	133	679.3	4.7	5.1
46	鹿児島県	217,236	208	942.7	4.3	4.5
47	沖縄県	250,107	243	843.7	3.4	3.5
全 国		13,779,311	15,657	80,294	5.8	5.1
宮城、神奈川、福井県を除く					6.4	5.7

※ 年少人口千人当りの相談件数、小児科医師および小児外科医師 1 人当たりの相談件数を算出した。年少人口は、令和元年 10 月の人口を用いている。宮城県、神奈川県、福井県は広域民間事業者データのみで地元事業者データを収集できていないので過小評価になるため、3 県を除いた 36 都道府県県でも算出した。なお、今回の参加都道府県の年少人口は全国の 88.9% である。

図 4. 都道府県別、年少人口千人当たりの相談件数(件/月)、小児科医師および小児外科医師 1 人当たりの相談件数(件/月)



※ 1 か月当たりの年少人口千人対相談件数、小児科医師小児外科医師 1 人対相談件数の平均値は、それぞれ 6.6 件、5.7 件で、都道府県間の変動が大きく、年少人口対で 5.4 倍、小児科小児外科医師対で 6.8 倍の差がある。宮城県、神奈川県、福井県は地元事業者データを収集できていないため、低値である。

表 11 は都道府県二次医療圏別に相談件数を検討した。

表 11-1. 北海道の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
北海道	101	南渡島	309	103.0	33	1	34	36,666	2.8	3.1	3.0
	102	南檜山	7	2.3	2		2	1,884	1.2	1.2	1.2
	103	北渡島檜山	14	4.7	4		4	3,221	1.4	1.2	1.2
	104	札幌	1,642	547.3	327	13	340	269,834	2.0	1.7	1.6
	105	後志	115	38.3	20		20	19,035	2.0	1.9	1.9
	106	南空知	63	21.0	14		14	14,344	1.5	1.5	1.5
	107	中空知	35	11.7	9		9	9,077	1.3	1.3	1.3
	108	北空知	24	8.0	1		1	2,549	3.1	8.0	8.0
	109	西胆振	118	39.3	19		19	17,912	2.2	2.1	2.1
	110	東胆振	131	43.7	22		22	24,524	1.8	2.0	2.0
	111	日高	22	7.3	4		4	7,258	1.0	1.8	1.8
	112	上川中部	236	78.7	81	2	83	42,079	1.9	1.0	0.9
	113	上川北部	20	6.7	7		7	6,340	1.1	1.0	1.0
	114	富良野	13	4.3	4		4	4,549	1.0	1.1	1.1
	115	留萌	7	2.3	3		3	4,238	0.6	0.8	0.8
	116	宗谷	34	11.3	6		6	6,694	1.7	1.9	1.9
	117	北網	94	31.3	22		22	22,815	1.4	1.4	1.4
	118	遠紋	15	5.0	4	1	5	6,663	0.8	1.3	1.0
	119	十勝	228	76.0	29		29	39,652	1.9	2.6	2.6
	120	釧路	141	47.0	22		22	23,569	2.0	2.1	2.1
	121	根室	26	8.7	6		6	8,923	1.0	1.4	1.4
	9999	医療圏未記入	937	312.3							
		計	4,231	1,410.3	639	17	656	571,826	2.5	2.2	2.1

表 11-2. 青森県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
青森県	201	津軽地域	471	157.0	50	1	51	29,570	5.3	3.1	3.1
	202	八戸地域	537	179.0	25	2	27	35,751	5.0	7.2	6.6
	203	青森地域	717	239.0	30		30	32,421	7.4	8.0	8.0
	204	西北五地域	150	50.0	7		7	11,582	4.3	7.1	7.1
	205	上三地域	270	90.0	16		16	19,340	4.7	5.6	5.6
	206	下北地域	48	16.0	5		5	7,546	2.1	3.2	3.2
	9999	医療圏未記入	13	4.3							
		計	2,206	735.3	133	3	136	136,210	5.4	5.5	5.4

表 11-3. 宮城県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
宮城県	401	仙南	94	31.3	15	0	15	18,377	1.7	2.1	2.1
	403	仙台	1,230	410.0	236	18	254	192,468	2.1	1.7	1.6
	406	大崎・栗原	166	55.3	11	0	11	29,641	1.9	5.0	5.0
	409	石巻・登米・気仙沼	133	44.3	22	1	23	36,203	1.2	2.0	1.9
	9999	医療圏未記入	6	2.0							
		計	1,629	543.0	284	19	303	276,689	2.0	1.9	1.8

※ 宮城県は広域民間事業者データのみで、地元事業者データを収集できなかった。

表 11-4. 山形県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 10,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
山形県	601	村山	757	252.3	81	4	85	63,906	39.5	3.1	3.0
	602	最上	59	19.7	6		6	7,793	25.2	3.3	3.3
	603	置賜	175	58.3	22		22	22,918	25.5	2.7	2.7
	604	庄内	199	66.3	30	1	31	29,044	22.8	2.2	2.1
	9999	医療圏未記入	2	0.7							
		計	1,192	397.3	139	5	144	123,661	32.1	2.9	2.8

表 11-5. 福島県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
福島県	701	県北	797	265.7	75	3	78	52,248	5.1	3.5	3.4
	702	県中	937	312.3	66	3	69	63,147	4.9	4.7	4.5
	703	県南	145	48.3	9		9	17,440	2.8	5.4	5.4
	704	会津	219	73.0	21		21	28,108	2.6	3.5	3.5
	705	南会津	7	2.3	4		4	2,357	1.0	0.6	0.6
	706	相双	96	32.0	8		8	17,824	1.8	4.0	4.0
	707	いわき	499	166.3	32	2	34	37,695	4.4	5.2	4.9
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,700	900.0	215	8	223	218,819	4.1	4.2	4.0

表 11-6. 茨城県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
茨城県	801	水戸	2,475	825.0	63	8	71	56,495	14.6	13.1	11.6
	802	日立	596	198.7	15		15	25,821	7.7	13.2	13.2
	803	常陸太田・ひたちなか	1,679	559.7	21		21	42,192	13.3	26.7	26.7
	804	鹿行	872	290.7	12	1	13	32,470	9.0	24.2	22.4
	805	土浦	902	300.7	37	3	40	28,834	10.4	8.1	7.5
	806	つくば	1,892	630.7	70	14	84	52,630	12.0	9.0	7.5
	807	取手・竜ヶ崎	2,055	685.0	34		34	54,442	12.6	20.1	20.1
	808	筑西・下妻	877	292.3	13		13	29,863	9.8	22.5	22.5
	809	古河・坂東	988	329.3	19		19	26,941	12.2	17.3	17.3
	9999	医療圏未記入	41	13.7							
		計	12,377	4,125.7	284	26	310	349,688	11.8	14.5	13.3

表 11-7. 群馬県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
群馬県	1001	前橋	1,300	433.3	97	3	100	40,586	10.7	4.5	4.3
	1002	渋川	359	119.7	33	5	38	13,323	9.0	3.6	3.1
	1003	伊勢崎	1,069	356.3	28		28	32,440	11.0	12.7	12.7
	1004	高崎・安中	1,694	564.7	54		54	53,134	10.6	10.5	10.5
	1005	藤岡	198	66.0	9		9	7,342	9.0	7.3	7.3
	1006	富岡	149	49.7	6		6	7,095	7.0	8.3	8.3
	1007	吾妻	105	35.0	2		2	4,812	7.3	17.5	17.5
	1008	沼田	169	56.3	7		7	8,181	6.9	8.0	8.0
	1009	桐生	450	150.0	30		30	16,627	9.0	5.0	5.0
	1010	太田・館林	1,187	395.7	27	2	29	51,680	7.7	14.7	13.6
	9999	医療圏未記入	10	3.3							
		計	6,690	2,230.0	293	10	303	235,220	9.5	7.6	7.4

表 11-8. 埼玉県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師1 人に対する相 談件数 (1か 月)
埼玉県	1101	南部	4,544	1,514.7	93	1	94	105,199	14.4	16.3	16.1
	1102	南西部	3,979	1,326.3	69	2	71	96,150	13.8	19.2	18.7
	1103	東部	5,696	1,898.7	94	10	104	143,383	13.2	20.2	18.3
	1104	さいたま	5,985	1,995.0	198	13	211	171,890	11.6	10.1	9.5
	1105	県央	2,469	823.0	24	1	25	63,052	13.1	34.3	32.9
	1106	川越比企	2,996	998.7	128	9	137	91,478	10.9	7.8	7.3
	1107	西部	3,171	1,057.0	55	2	57	88,822	11.9	19.2	18.5
	1108	利根	2,331	777.0	44		44	71,650	10.8	17.7	17.7
	1109	北部	1,784	594.7	31	2	33	58,819	10.1	19.2	18.0
	1110	秩父	214	71.3	7	1	8	10,510	6.8	10.2	8.9
	9999	医療圏未記入	229	76.3							
		計	33,398	11,132.7	743	41	784	900,953	12.4	15.0	14.2

表 11-9. 千葉県県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師1 人に対する相 談件数 (1か 月)
千葉県	1201	千葉	2,141	713.7	167	16	183	116,817	6.1	4.3	3.9
	1202	東葛南部	3,270	1,090.0	165	12	177	224,717	4.9	6.6	6.2
	1203	東葛北部	2,527	842.3	127	6	133	176,593	4.8	6.6	6.3
	1204	印旛	1,227	409.0	85		85	91,245	4.5	4.8	4.8
	1205	香取海浜	267	89.0	29		29	26,095	3.4	3.1	3.1
	1206	山武長生夷隅	553	184.3	19	1	20	41,027	4.5	9.7	9.2
	1207	安房	110	36.7	17	2	19	11,363	3.2	2.2	1.9
	1208	君津	578	192.7	22	2	24	38,933	4.9	8.8	8.0
	1209	市原	329	109.7	23		23	31,610	3.5	4.8	4.8
	9999	医療圏未記入	91	30.3							
		計	11,093	3,697.7	654	39	693	758,400	4.9	5.7	5.3

表 11-10. 東京都の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師1 人に対する相 談件数 (1か 月)
東京都	1301	区中央部	0	0.0	355	40	395	114,158	0.0	0.0	0.0
	1302	区南部	0	0.0	154	9	163	127,070	0.0	0.0	0.0
	1303	区西南部	0	0.0	344	12	356	163,969	0.0	0.0	0.0
	1304	区西部	0	0.0	287	15	302	120,979	0.0	0.0	0.0
	1305	区西北部	0	0.0	266	21	287	212,905	0.0	0.0	0.0
	1306	区東北部	0	0.0	135	3	138	157,386	0.0	0.0	0.0
	1307	区東部	0	0.0	186	3	189	185,233	0.0	0.0	0.0
	1308	西多摩	0	0.0	29		29	43,383	0.0	0.0	0.0
	1309	南多摩	0	0.0	161	3	164	172,144	0.0	0.0	0.0
	1310	北多摩西部	0	0.0	88		88	81,237	0.0	0.0	0.0
	1311	北多摩南部	0	0.0	226	7	233	129,831	0.0	0.0	0.0
	1312	北多摩北部	0	0.0	105	1	106	91,775	0.0	0.0	0.0
	1313	島しょ	0	0.0	2		2	2,971	0.0	0.0	0.0
	9999	医療圏未記入	38,587	12,862.3							
		計	38,587	12,862.3	2,338	114	2,452	1,603,041	8.0	5.5	5.2

表 11-11. 神奈川県二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する 相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)
神奈川県	1401	横浜北部	0	0.0	186	4	190	205,950	0.0	0.0	0.0
	1402	横浜西部	0	0.0	114	4	118	133,549	0.0	0.0	0.0
	1403	横浜南部	0	0.0	217	8	225	116,218	0.0	0.0	0.0
	1404	川崎北部	0	0.0	102	8	110	109,906	0.0	0.0	0.0
	1405	川崎南部	0	0.0	80	2	82	84,184	0.0	0.0	0.0
	1406	横須賀・三浦	299	99.7	61		61	78,293	1.3	1.6	1.6
	1407	湘南東部	333	111.0	86	1	87	96,265	1.2	1.3	1.3
	1408	湘南西部	275	91.7	63	3	66	67,319	1.4	1.5	1.4
	1409	県央	313	104.3	75		75	106,126	1.0	1.4	1.4
	1410	相模原	386	128.7	92	4	96	85,850	1.5	1.4	1.3
	1411	県西	127	42.3	33	1	34	36,910	1.1	1.3	1.2
	9999	医療圏未記入	1,800	600.0							
		計	3,533	1,177.7	1,109	35	1,144	1,120,570	1.1	1.1	1.0

※ 神奈川県は広域民間事業者データのみで、地元事業者データを収集できなかった。

表 11-12. 新潟県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する 相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)
新潟県	1501	下越	212	70.7	19		19	22,756	3.1	3.7	3.7
	1502	新潟	1,168	389.3	130	10	140	104,689	3.7	3.0	2.8
	1503	県央	303	101.0	22		22	24,668	4.1	4.6	4.6
	1504	中越	522	174.0	56	2	58	50,437	3.4	3.1	3.0
	1505	魚沼	152	50.7	13		13	17,590	2.9	3.9	3.9
	1506	上越	270	90.0	23	3	26	30,216	3.0	3.9	3.5
	1507	佐渡	28	9.3	4		4	5,306	1.8	2.3	2.3
	9999	医療圏未記入	3	1.0							
		計	2,658	886.0	267	15	282	255,662	3.5	3.3	3.1

表 11-13. 富山県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する 相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)
富山県	1601	新川	246	82.0	8		8	12,587	6.5	10.3	10.3
	1602	富山	1,514	504.7	103	3	106	59,371	8.5	4.9	4.8
	1603	高岡	902	300.7	39		39	34,399	8.7	7.7	7.7
	1604	砺波	275	91.7	12		12	14,249	6.4	7.6	7.6
	9999	医療圏未記入	34	11.3							
		計	2,971	990.3	162	3	165	120,606	8.2	6.1	6.0

表 11-14. 石川県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する 相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か 月)
石川県	1701	南加賀	559	186.3	25		25	29,374	6.3	7.5	7.5
	1702	石川中央	2,064	688.0	136	10	146	95,318	7.2	5.1	4.7
	1703	能登中部	156	52.0	13		13	12,183	4.3	4.0	4.0
	1704	能登北部	36	12.0	3		3	4,749	2.5	4.0	4.0
	9999	医療圏未記入	19	6.3							
		計	2,834	944.7	177	10	187	141,624	6.7	5.3	5.1

表 11-15. 福井県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
福井県	1801	福井・坂井	311	103.7	93	1	94	51,366	2.0	1.1	1.1
	1802	奥越	40	13.3	3		3	5,952	2.2	4.4	4.4
	1803	丹南	181	60.3	13		13	24,101	2.5	4.6	4.6
	1804	嶺南	84	28.0	16		16	17,340	1.6	1.8	1.8
	9999	医療圏未記入	3	1.0							
		計	619	206.3	125	1	126	98,759	2.1	1.7	1.6

※ 福井県は広域民間事業者データのみで、地元事業者データを収集できなかった。

表 11-16. 長野県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
長野県	2001	佐久	227	75.7	27	2	29	25,055	3.0	2.8	2.6
	2002	上小	174	58.0	19		19	23,884	2.4	3.1	3.1
	2003	諏訪	253	84.3	27		27	23,737	3.6	3.1	3.1
	2004	上伊那	233	77.7	14		14	23,353	3.3	5.5	5.5
	2005	飯伊	150	50.0	11		11	20,248	2.5	4.5	4.5
	2006	木曽	15	5.0	2		2	2,467	2.0	2.5	2.5
	2007	松本	645	215.0	127	7	134	53,588	4.0	1.7	1.6
	2008	大北	39	13.0	7		7	5,884	2.2	1.9	1.9
	2009	長野	704	234.7	52	1	53	65,593	3.6	4.5	4.4
	2010	北信	60	20.0	7		7	9,485	2.1	2.9	2.9
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,500	833.3	293	10	303	253,294	3.3	2.8	2.8

表 11-17. 岐阜県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
岐阜県	2101	岐阜	2,085	695.0	137	4	141	103,718	6.7	5.1	4.9
	2102	西濃	695	231.7	41	1	42	45,213	5.1	5.7	5.5
	2103	中濃	686	228.7	27	1	28	47,786	4.8	8.5	8.2
	2104	東濃	500	166.7	33		33	38,993	4.3	5.1	5.1
	2105	飛騨	185	61.7	11		11	16,960	3.6	5.6	5.6
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	4,151	1,383.7	249	6	255	252,670	5.5	5.6	5.4

表 11-18. 静岡県県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏 番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
静岡県	2201	賀茂	76	25.3	5		5	5,017	5.0	5.1	5.1
	2202	熱海伊東	149	49.7	9		9	8,060	6.2	5.5	5.5
	2203	駿東田方	1326	442.0	68	3	71	78,622	5.6	6.5	6.2
	2204	富士	874	291.3	33		33	47,988	6.1	8.8	8.8
	2205	静岡	2455	818.3	101	8	109	80,517	10.2	8.1	7.5
	2206	志太榛原	1265	421.7	46	1	47	57,431	7.3	9.2	9.0
	2207	中東遠	1347	449.0	32	1	33	64,227	7.0	14.0	13.6
	2208	西部	2594	864.7	111	3	114	111,656	7.7	7.8	7.6
	9999	医療圏未記入	13	4.3							
		計	10,099	3,366.3	405	16	421	453,518	7.4	8.3	8.0

表 11-19. 愛知県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
愛知県	2301	名古屋	2598	866.0	359	16	375	285,616	3.0	2.4	2.3
	2302	海部	360	120.0	24		24	42,120	2.8	5.0	5.0
	2303	尾張中部	313	104.3	9	1	10	25,172	4.1	11.6	10.4
	2304	尾張東部	638	212.7	85	7	92	69,195	3.1	2.5	2.3
	2305	尾張西部	578	192.7	53		53	68,261	2.8	3.6	3.6
	2306	尾張北部	858	286.0	71	5	76	99,112	2.9	4.0	3.8
	2307	知多半島	798	266.0	85	5	90	88,625	3.0	3.1	3.0
	2308	西三河北部	247	82.3	45		45	66,531	1.2	1.8	1.8
	2309	西三河南部西	875	291.7	64	4	68	102,018	2.9	4.6	4.3
	2310	西三河南部東	756	252.0	37		37	62,711	4.0	6.8	6.8
	2311	東三河北部	39	13.0	3		3	5,653	2.3	4.3	4.3
	2312	東三河南部	739	246.3	69		69	93,315	2.6	3.6	3.6
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	8,799	2,933.0	904	38	942	1,008,329	2.9	3.2	3.1

表 11-20. 三重県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
三重県	2401	北勢	1698	566.0	69		69	111,010	5.1	8.2	8.2
	2402	中勢伊賀	673	224.3	90	8	98	53,486	4.2	2.5	2.3
	2403	南勢志摩	631	210.3	44	3	47	51,095	4.1	4.8	4.5
	2404	東紀州	59	19.7	5		5	6,446	3.1	3.9	3.9
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	3,061	1,020.3	208	11	219	222,037	4.6	4.9	4.7

表 11-21. 滋賀県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
滋賀県	2501	大津	1261	420.3	80	3	83	46,639	9.0	5.3	5.1
	2502	湖南	1694	564.7	58	1	59	53,211	10.6	9.7	9.6
	2503	甲賀	482	160.7	12		12	19,060	8.4	13.4	13.4
	2504	東近江	744	248.0	30	3	33	31,454	7.9	8.3	7.5
	2505	湖東	435	145.0	14		14	21,878	6.6	10.4	10.4
	2506	湖北	422	140.7	24		24	20,466	6.9	5.9	5.9
	2507	湖西	71	23.7	6		6	5,165	4.6	3.9	3.9
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	5,109	1,703.0	224	7	231	197,873	8.6	7.6	7.4

表 11-22. 京都府の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
京都府	2601	丹後	67	22.3	11		11	10,172	2.2	2.0	2.0
	2602	中丹	395	131.7	28	1	29	24,243	5.4	4.7	4.5
	2603	南丹	148	49.3	20	3	23	15,601	3.2	2.5	2.1
	2604	京都・乙訓	3,395	1,131.7	305	30	335	181,502	6.2	3.7	3.4
	2605	山城北	819	273.0	59	2	61	54,884	5.0	4.6	4.5
	2606	山城南	286	95.3	16	1	17	18,820	5.1	6.0	5.6
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	5,110	1,703.3	439	37	476	305,222	5.6	3.9	3.6

表 11-23. 大阪府の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児外科医師1人に対する相談件数 (1か月)
大阪府	2701	豊能	2,246	748.7	193	16	209	144,409	5.2	3.9	3.6
	2702	三島	1,338	446.0	115	6	121	99,580	4.5	3.9	3.7
	2703	北河内	2,050	683.3	133	4	137	137,064	5.0	5.1	5.0
	2704	中河内	1,508	502.7	68	6	74	95,350	5.3	7.4	6.8
	2705	南河内	802	267.3	95	5	100	69,205	3.9	2.8	2.7
	2706	堺市	1,508	502.7	94	2	96	106,432	4.7	5.3	5.2
	2707	泉州	1,692	564.0	138	11	149	114,607	4.9	4.1	3.8
	2708	大阪市	4,151	1,383.7	384	20	404	301,609	4.6	3.6	3.4
	9999	医療圏未記入	298	99.3							
		計	15,593	5,197.7	1,220	70	1,290	1,068,256	4.9	4.3	4.0

表 11-24. 兵庫県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児外科医師1人に対する相談件数 (1か月)
兵庫県	2801	神戸	3,095	1,031.7	276	19	295	185,384	5.6	3.7	3.5
	2802	阪神南	2,324	774.7	159	7	166	132,377	5.9	4.9	4.7
	2803	阪神北	1,464	488.0	75		75	95,755	5.1	6.5	6.5
	2804	東播磨	2,129	709.7	75	2	77	95,862	7.4	9.5	9.2
	2805	北播磨	788	262.7	28	1	29	31,900	8.2	9.4	9.1
	2806	中播磨	1,258	419.3	67	3	70	76,117	5.5	6.3	6.0
	2807	西播磨	413	137.7	16		16	30,411	4.5	8.6	8.6
	2808	但馬	233	77.7	20		20	19,046	4.1	3.9	3.9
	2809	丹波	101	33.7	15		15	12,324	2.7	2.2	2.2
	2810	淡路	119	39.7	15		15	14,774	2.7	2.6	2.6
	9999	医療圏未記入	34	11.3							
		計	11,958	3,986.0	746	32	778	693,950	5.7	5.3	5.1

表 11-25. 奈良県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児外科医師1人に対する相談件数 (1か月)
奈良県	2901	奈良	1,488	496.0	49		49	40,856	12.1	10.1	10.1
	2902	東和	922	307.3	24		24	23,116	13.3	12.8	12.8
	2903	西和	1,712	570.7	31	6	37	42,932	13.3	18.4	15.4
	2904	中和	1,978	659.3	51	3	54	47,660	13.8	12.9	12.2
	2905	南和	278	92.7	3		3	5,773	16.1	30.9	30.9
	9999	医療圏未記入	60	20.0							
		計	6,438	2,146.0	158	9	167	160,337	13.4	13.6	12.9

表 11-26. 和歌山県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児外科医師1人に対する相談件数 (1か月)
和歌山県	3001	和歌山	1,030	343.3	74	3	77	49,352	7.0	4.6	4.5
	3002	那賀	311	103.7	18		18	14,392	7.2	5.8	5.8
	3003	橋本	193	64.3	7		7	9,271	6.9	9.2	9.2
	3004	有田	149	49.7	4		4	8,353	5.9	12.4	12.4
	3005	御坊	119	39.7	12		12	7,088	5.6	3.3	3.3
	3006	田辺	185	61.7	20		20	14,414	4.3	3.1	3.1
	3007	新宮	49	16.3	5		5	6,269	2.6	3.3	3.3
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,036	678.7	140	3	143	109,139	6.2	4.8	4.7

表 11-27. 鳥取県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)
鳥取県	3101	東部	690	230.0	37		37	28,185	8.2	6.2	6.2
	3102	中部	223	74.3	12		12	12,760	5.8	6.2	6.2
	3103	西部	902	300.7	78	1	79	29,353	10.2	3.9	3.8
	9999	医療圏未記入	6	2.0							
		計	1,821	607.0	127	1	128	70,298	8.6	4.8	4.7

表 11-28. 島根県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)
島根県	3201	松江	757	252.3	34		34	31,087	8.1	7.4	7.4
	3202	雲南	81	27.0	3		3	5,785	4.7	9.0	9.0
	3203	出雲	576	192.0	39	5	44	23,803	8.1	4.9	4.4
	3204	大田	98	32.7	6		6	5,689	5.7	5.4	5.4
	3205	浜田	112	37.3	10		10	8,545	4.4	3.7	3.7
	3206	益田	81	27.0	6		6	6,785	4.0	4.5	4.5
	3207	隠岐	18	6.0	2		2	2,158	2.8	3.0	3.0
	9999	医療圏未記入	12	4.0							
		計	1,735	578.3	100	5	105	83,852	6.9	5.8	5.5

表 11-29. 岡山県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)
岡山県	3301	県南東部	2,666	888.7	171	8	179	115,972	7.7	5.2	5.0
	3302	県南西部	1,364	454.7	111	5	116	93,621	4.9	4.1	3.9
	3303	高梁・新見	58	19.3	6		6	5,530	3.5	3.2	3.2
	3304	真庭	55	18.3	1		1	5,124	3.6	18.3	18.3
	3305	津山・英田	268	89.3	19		19	21,703	4.1	4.7	4.7
	9999	医療圏未記入	7	2.3							
		計	4,418	1,472.7	308	13	321	241,950	6.1	4.8	4.6

表 11-30. 広島県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数 (人)	小児外科医師数 (人)	2科合計医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対する相談件数 (1か月)	小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)	小児科または小児科医師1人に対する相談件数 (1か月)
広島県	3401	広島	3,725	1,241.7	196	16	212	184,752	6.7	6.3	5.9
	3402	広島西	290	96.7	25		25	18,140	5.3	3.9	3.9
	3403	呉	413	137.7	34	1	35	25,816	5.3	4.0	3.9
	3404	広島中央	528	176.0	24		24	30,034	5.9	7.3	7.3
	3405	尾三	294	98.0	28		28	27,185	3.6	3.5	3.5
	3406	福山・府中	1,103	367.7	49	3	52	67,353	5.5	7.5	7.1
	3407	備北	61	20.3	9		9	9,807	2.1	2.3	2.3
	9999	医療圏未記入	32	10.7							
		計	6,446	2,148.7	365	20	385	363,087	5.9	5.9	5.6

表 11-31. 山口県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1 人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1 人に対する相談件数(1か月)
山口県	3501	岩国	226	75.3	15		15	16,436	4.6	5.0	5.0
	3502	柳井	97	32.3	5		5	7,318	4.4	6.5	6.5
	3503	周南	484	161.3	32		32	30,599	5.3	5.0	5.0
	3504	山口・防府	792	264.0	36	2	38	39,752	6.6	7.3	6.9
	3505	宇部・小野田	474	158.0	52	1	53	29,100	5.4	3.0	3.0
	3506	下関	423	141.0	30	1	31	29,106	4.8	4.7	4.5
	3507	長門	30	10.0	2		2	3,118	3.2	5.0	5.0
	3508	萩	39	13.0	4		4	4,385	3.0	3.3	3.3
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,565	855.0	176	4	180	159,814	5.3	4.9	4.8

表 11-32. 徳島県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1 人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1 人に対する相談件数(1か月)
徳島県	3601	東部	2,189	729.7	86	3	89	62,101	11.7	8.5	8.2
	3603	南部	419	139.7	21		21	15,165	9.2	6.7	6.7
	3605	西部	116	38.7	7		7	7,198	5.4	5.5	5.5
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,724	908.0	114	3	117	84,464	10.8	8.0	7.8

表 11-33. 香川県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1 人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1 人に対する相談件数(1か月)
香川県	3701	大川	155	51.7	6		6	7,348	7.0	8.6	8.6
	3702	小豆	38	12.7	3		3	2,572	4.9	4.2	4.2
	3703	高松	2,061	687.0	79	5	84	60,336	11.4	8.7	8.2
	3704	中讃	927	309.0	55	3	58	36,516	8.5	5.6	5.3
	3705	三豊	258	86.0	12		12	14,345	6.0	7.2	7.2
	9999	医療圏未記入	32	10.7							
		計	3,471	1,157.0	155	8	163	121,117	9.6	7.5	7.1

表 11-34. 愛媛県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1 人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1 人に対する相談件数(1か月)
愛媛県	3801	宇摩	170	56.7	6	1	7	10,131	5.6	9.4	8.1
	3802	新居浜・西条	489	163.0	26		26	28,184	5.8	6.3	6.3
	3803	今治	233	77.7	18		18	18,004	4.3	4.3	4.3
	3804	松山	2,395	798.3	113	6	119	81,088	9.8	7.1	6.7
	3805	八幡浜・大洲	149	49.7	12		12	14,078	3.5	4.1	4.1
	3806	宇和島	120	40.0	15		15	10,533	3.8	2.7	2.7
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	3,556	1,185.3	190	7	197	162,018	7.3	6.2	6.0

表 11-35. 佐賀県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1 人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1 人に対する相談件数(1か月)
佐賀県	4101	中部	636	212.0	71	5	76	46,587	4.6	3.0	2.8
	4102	東部	139	46.3	15		15	18,498	2.5	3.1	3.1
	4103	北部	77	25.7	13		13	16,995	1.5	2.0	2.0
	4104	西部	50	16.7	5		5	10,072	1.7	3.3	3.3
	4105	南部	115	38.3	20		20	19,538	2.0	1.9	1.9
	9999	医療圏未記入	786	262.0							
		計	1,803	601.0	124	5	129	111,690	5.4	4.8	4.7

表 11-36. 長崎県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1人に対する相談件数(1か月)
長崎県	4201	長崎	1,618	539.3	94	4	98	62,156	8.7	5.7	5.5
	4202	佐世保県北	826	275.3	36		36	41,617	6.6	7.6	7.6
	4203	県央	675	225.0	64		64	38,288	5.9	3.5	3.5
	4204	県南	173	57.7	7		7	15,666	3.7	8.2	8.2
	4206	五島	21	7.0	3		3	3,801	1.8	2.3	2.3
	4207	上五島	14	4.7	1		1	1,858	2.5	4.7	4.7
	4208	壱岐	18	6.0	3		3	3,373	1.8	2.0	2.0
	4209	対馬	20	6.7	3		3	3,538	1.9	2.2	2.2
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	3,365	1,121.7	211	4	215	170,297	6.6	5.3	5.2

表 11-37. 宮崎県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1人に対する相談件数(1か月)
宮崎県	4501	宮崎東諸県	1,093	364.3	68	2	70	59,183	6.2	5.4	5.2
	4502	都城北諸県	364	121.3	19		19	27,245	4.5	6.4	6.4
	4503	延岡西臼杵	134	44.7	14	1	15	17,478	2.6	3.2	3.0
	4504	日南串間	52	17.3	8		8	8,230	2.1	2.2	2.2
	4505	西諸	127	42.3	4		4	8,661	4.9	10.6	10.6
	4506	西都児湯	144	48.0	12		12	12,650	3.8	4.0	4.0
	4507	日向入郷	122	40.7	5		5	11,568	3.5	8.1	8.1
	9999	医療圏未記入	2	0.7							
		計	2,038	679.3	130	3	133	145,015	4.7	5.2	5.1

表 11-38. 鹿児島県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1人に対する相談件数(1か月)
鹿児島県	4601	鹿児島	763	254.3	111	14	125	92,919	2.7	2.3	2.0
	4602	南薩	51	17.0	7		7	14,457	1.2	2.4	2.4
	4603	川薩	75	25.0	9	1	10	15,402	1.6	2.8	2.5
	4604	出水	52	17.3	7		7	10,695	1.6	2.5	2.5
	4605	姶良・伊佐	232	77.3	30	2	32	33,041	2.3	2.6	2.4
	4606	曾於	38	12.7	3		3	9,429	1.3	4.2	4.2
	4607	肝属	105	35.0	13	1	14	20,971	1.7	2.7	2.5
	4608	熊毛	6	2.0	2		2	5,258	0.4	1.0	1.0
	4609	奄美	42	14.0	7	1	8	15,064	0.9	2.0	1.8
	9999	医療圏未記入	1,464	488.0							
		計	2,828	942.7	189	19	208	217,236	4.3	5.0	4.5

表 11-39. 沖縄県の二次医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	二次医療圏番号	二次医療圏名	相談件数(件) 3か月	相談件数(件) 1か月	小児科医師数(人)	小児外科医師数(人)	2科合計医師数(人)	年少人口(人)	年少人口 1,000人に対する相談件数(1か月)	小児科医師 1人に対する相談件数(1か月)	小児科または小児外科医師 1人に対する相談件数(1か月)
沖縄県	4701	北部	144	48.0	17	2	19	16,290	2.9	2.8	2.5
	4702	中部	772	257.3	65	2	67	89,842	2.9	4.0	3.8
	4703	南部	1,497	499.0	142	2	144	125,463	4.0	3.5	3.5
	4704	宮古	55	18.3	9		9	8,823	2.1	2.0	2.0
	4705	八重山	63	21.0	4		4	9,689	2.2	5.3	5.3
	9999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,531	843.7	237	6	243	250,107	3.4	3.6	3.5

表 12 は都道府県小児医療圏別に相談件数を検討した。

表 12-1. 北海道の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
北海道	01201	南渡島	309	103.0	33	1	34	36,666	2.8	3.1	3.0
	01202	南檜山	7	2.3	2		2	1,884	1.2	1.2	1.2
	01203	北渡島檜山	14	4.7	4		4	3,221	1.4	1.2	1.2
	01204	札幌	1,642	547.3	327	13	340	269,834	2.0	1.7	1.6
	01205	後志	115	38.3	20		20	19,035	2.0	1.9	1.9
	01206	南空知	63	21.0	14		14	14,344	1.5	1.5	1.5
	01207	中空知	35	11.7	9		9	9,077	1.3	1.3	1.3
	01208	北空知	24	8.0	1		1	2,549	3.1	8.0	8.0
	01209	西胆振	118	39.3	19		19	17,912	2.2	2.1	2.1
	01210	東胆振	131	43.7	22		22	24,524	1.8	2.0	2.0
	01211	日高	22	7.3	4		4	7,258	1.0	1.8	1.8
	01212	上川中部	236	78.7	81	2	83	42,079	1.9	1.0	0.9
	01213	上川北部	20	6.7	7		7	6,340	1.1	1.0	1.0
	01214	富良野	13	4.3	4		4	4,549	1.0	1.1	1.1
	01215	留萌	7	2.3	3		3	4,238	0.6	0.8	0.8
	01216	宗谷	34	11.3	6		6	6,694	1.7	1.9	1.9
	01217	北網	94	31.3	22		22	22,815	1.4	1.4	1.4
	01218	遠紋	15	5.0	4	1	5	6,663	0.8	1.3	1.0
	01219	十勝	228	76.0	29		29	39,652	1.9	2.6	2.6
	01220	釧路	141	47.0	22		22	23,569	2.0	2.1	2.1
	01221	根室	26	8.7	6		6	8,923	1.0	1.4	1.4
	99999	医療圏未記入	937	312.3							
		計	4,231	1,410.3	639	17	656	571,826	2.5	2.2	2.1
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	5.7	10.3	10.3

表 12-2. 青森県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
青森県	02201	津軽地域	471	157.0	50	1	51	29,570	5.3	3.1	3.1
	02202	八戸地域	537	179.0	25	2	27	35,751	5.0	7.2	6.6
	02203	青森地域	717	239.0	30		30	32,421	7.4	8.0	8.0
	02204	西北五地域	150	50.0	7		7	11,582	4.3	7.1	7.1
	02205	上十三地域	270	90.0	16		16	19,340	4.7	5.6	5.6
	02206	下北地域	48	16.0	5		5	7,546	2.1	5.1	3.2
	99999	医療圏未記入	13	4.3							
		計	2,206	735.3	133	3	136	136,210	5.4	5.5	5.4
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	3.5	2.5	2.6

表 12-3. 宮城県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
宮城県	04201	仙南	94	31.3	15		15	18,377	1.7	2.1	2.1
	04202	仙台	1,230	410.0	236	18	254	192,468	2.1	1.7	1.6
	04203	大崎・栗原	166	55.3	11		11	29,641	1.9	5.0	5.0
	04204	石巻・登米・気仙沼	133	44.3	22	1	23	36,203	1.2	2.0	1.9
	99999	医療圏未記入	6	2.0							
		計	1,629	543.0	284	19	303	276,689	2.0	1.9	1.8
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.7	2.9	3.1

※ 宮城県は広域民間事業者データのみで、地元事業者データを収集できなかった。

表 12-4. 山形県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
山形県	06201	村山	757	252.3	81	4	85	63,906	3.9	3.1	3.0
	06202	最上	59	19.7	6		6	7,793	2.5	3.3	3.3
	06203	置賜	175	58.3	22		22	22,918	2.5	2.7	2.7
	06204	庄内	199	66.3	30	1	31	29,044	2.3	2.2	2.1
	99999	医療圏未記入	2	0.7							
		計	1,192	397.3	139	5	144	123,661	3.2	2.9	2.8
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	1.7	1.5	1.5

表 12-5. 福島県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
福島県	07201	県北	797	265.7	75	3	78	52,248	5.1	3.5	3.4
	07202	県中	937	312.3	66	3	69	63,147	4.9	4.7	4.5
	07203	県南	145	48.3	9		9	17,440	2.8	5.4	5.4
	07204	相双	96	32.0	8		8	17,824	1.8	4.0	4.0
	07205	いわき	499	166.3	32	2	34	37,695	4.4	5.2	4.9
	07206	会津・南会津	226	75.3	25		25	30,465	2.5	3.0	3.0
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,700	900.0	215	8	198	218,819	4.1	4.2	4.5
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	2.8	1.8	1.8

表 12-6. 茨城県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
茨城県	08201	日立地域	596	198.7	15		15	25,821	7.7	13.2	13.2
	08202	県央・県北地域	3,920	1,306.7	83	8	91	92,674	14.1	15.7	14.4
	08203	土浦広域地域	1,432	477.3	40	3	43	43,158	11.1	11.9	11.1
	08204	鹿行南部地域	576	192.0	10	1	11	24,159	7.9	19.2	17.5
	08205	稲敷地域	1,230	410.0	15		15	31,660	13.0	27.3	27.3
	08206	常総地域	1,369	456.3	23		23	38,182	12.0	19.8	19.8
	08207	茨城西南地域	1,250	416.7	20		20	34,643	12.0	20.8	20.8
	08208	つくば市・筑西地域	1,963	654.3	78	14	92	59,391	11.0	8.4	7.1
	99999	医療圏未記入	41	13.7							
		計	12,377	4,125.7	284	26	310	349,688	11.8	14.5	13.3
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	1.8	3.3	3.8

表 12-7. 群馬県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
群馬県	10201	西毛	2,041	680.3	69	0	69	67,571	10.1	9.9	9.9
	10202	東毛	1,637	545.7	57	2	59	68,307	8.0	9.6	9.2
	10203	中毛	1,069	356.3	28		28	32,440	11.0	12.7	12.7
	10204	北毛	1,933	644.3	139	8	147	66,902	9.6	4.6	4.4
	99999	医療圏未記入	10	3.3							
		計	6,690	2,230.0	293	10	303	235,220	9.5	7.6	7.4
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	1.4	2.7	2.9

表 12-8. 埼玉県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
埼玉県	11201	児玉	448	149.3	3		3	15,573	9.6	49.8	49.8
	11202	熊谷・深谷	1,644	548.0	33	2	35	51,868	10.6	16.6	15.7
	11203	東部北	2,023	674.3	39		39	63,028	10.7	17.3	17.3
	11204	東部南	5,696	1,898.7	94	10	104	143,383	13.2	20.2	18.3
	11205	川口	3,503	1,167.7	66	1	67	76,185	15.3	17.7	17.4
	11206	さいたま市	5,985	1,995.0	198	13	211	171,890	11.6	10.1	9.5
	11207	中央	2,466	822.0	24	1	25	63,052	13.0	34.3	32.9
	11208	戸田・蕨	1,041	347.0	27		27	29,014	12.0	12.9	12.9
	11209	朝霞	2,833	944.3	41	1	42	62,561	15.1	23.0	22.5
	11210	川越	2,796	932.0	99	7	106	79,189	11.8	9.4	8.8
	11211	所沢	2,708	902.7	46	1	47	73,728	12.2	19.6	19.2
	11212	坂戸・飯能	1,150	383.3	53	4	57	40,357	9.5	7.2	6.7
	11213	比企	658	219.3	13		13	20,615	10.6	16.9	16.9
	11214	秩父	214	71.3	7	1	8	10,510	6.8	10.2	8.9
	99999	医療圏未記入	230	76.7							
		計	33,395	11,131.7	743	41	784	900,953	12.4	15.0	14.2
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	2.3	6.9	7.4

表 12-9. 千葉県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
千葉県	12201	千葉	2,141	713.7	167	16	183	116,817	6.1	4.3	3.9
	12202	東葛南部	3,270	1,090.0	165	12	177	224,717	4.9	6.6	6.2
	12203	東葛北部	2,527	842.3	127	6	133	176,593	4.8	6.6	6.3
	12204	印旛	1,227	409.0	85		85	91,245	4.5	4.8	4.8
	12205	香取海浜	267	89.0	29		29	26,095	3.4	3.1	3.1
	12206	山武長生夷隅	553	184.3	19	1	20	41,027	4.5	9.7	9.2
	12207	安房	110	36.7	17	2	19	11,363	3.2	2.2	1.9
	12208	君津	578	192.7	22	2	24	38,933	4.9	8.8	8.0
	12209	市原	329	109.7	23		23	31,610	3.5	4.8	4.8
	99999	医療圏未記入	91	30.3							
		計	11,093	3,697.7	654	39	693	758,400	4.9	5.7	5.3
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	1.9	4.5	4.8

表 12-10. 東京都の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
東京都	13201	区北	0	0.0	401	24	425	370,291	0.0	0.0	0.0
	13202	区東	0	0.0	541	43	584	299,391	0.0	0.0	0.0
	13203	区西南	0	0.0	785	36	821	412,018	0.0	0.0	0.0
	13204	多摩	0	0.0	609	11	620	518,370	0.0	0.0	0.0
	13205	島しょ	0	0.0	2		2	2,971	0.0	0.0	0.0
	99999	医療圏未記入	38,587	12,862.3							
		計	38,587	12,862.3	2,338	114	2,452	1,603,041	8.0	5.5	5.2
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 東京都は居住地のデータが得られていない。

表 12-11. 神奈川県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
神奈川県	14201	川崎北部	0	0.0	102	8	110	109,906	0.0	0.0	0.0
	14202	川崎南部	0	0.0	80	2	82	84,184	0.0	0.0	0.0
	14203	横浜北部	0	0.0	186	4	190	205,950	0.0	0.0	0.0
	14204	横浜西部	0	0.0	114	4	118	133,549	0.0	0.0	0.0
	14205	横浜南部	0	0.0	217	8	225	116,218	0.0	0.0	0.0
	14206	三浦半島	226	75.3	47		47	58,097	1.3	1.6	1.6
	14207	鎌倉	73	24.3	14		14	20,196	1.2	1.7	1.7
	14208	東湘	333	111.0	86	1	87	96,265	1.2	1.3	1.3
	14209	県央	235	78.3	50		50	74,248	1.1	1.6	1.6
	14210	平塚・中郡	192	64.0	15		15	36,892	1.7	4.3	4.3
	14211	西湖	127	42.3	33	1	34	36,910	1.1	1.3	1.2
	14212	秦野・伊勢原	83	27.7	48	3	51	30,427	0.9	0.6	0.5
	14213	厚木	78	26.0	25		25	31,878	0.8	1.0	1.0
	14214	相模原	386	128.7	92	4	96	85,850	1.5	1.4	1.3
	99999	医療圏未記入	1,800	600.0							
		計	3,533	1,177.7	1,109	35	1,144	1,120,570	1.1	1.1	1.0
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	1.4	2.2	2.3

※ 神奈川県は広域民間事業者データのみで、地元事業者データを収集できなかった。

表 12-12. 新潟県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
新潟県	15201	下越	212	70.7	19		19	22,756	3.1	3.7	3.7
	15202	新潟	1,168	389.3	130	10	140	104,689	3.7	3.0	2.8
	15203	県央	303	101.0	22		22	24,668	4.1	4.6	4.6
	15204	中越	522	174.0	56	2	58	50,437	3.4	3.1	3.0
	15205	魚沼	152	50.7	13		13	17,590	2.9	3.9	3.9
	15206	上越	270	90.0	23	3	26	30,216	3.0	3.9	3.5
	15207	佐渡	28	9.3	4		4	5,306	1.8	2.3	2.3
	99999	医療圏未記入	3	1.0							
		計	2,658	886.0	267	15	282	255,662	3.5	3.3	3.1
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	2.3	2.0	2.0

表 12-13. 富山県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
富山県	16201	新川	246	82.0	8		8	12,587	6.5	10.3	10.3
	16202	富山	1,514	504.7	103	3	106	59,371	8.5	4.9	4.8
	16203	高岡	902	300.7	39		39	34,399	8.7	7.7	7.7
	16204	砺波	275	91.7	12		12	14,249	6.4	7.6	7.6
	99999	医療圏未記入	34	11.3							
		計	2,971	990.3	162	3	165	120,606	8.2	6.1	6.0
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	1.4	2.1	2.2

表 12-14. 石川県的小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
石川県	17201	南加賀	559	186.3	25		25	29,374	6.3	7.5	7.5
	17202	石川中央	2,064	688.0	136	10	146	95,318	7.2	5.1	4.7
	17203	能登中部	156	52.0	13		13	12,183	4.3	4.0	4.0
	17204	能登北部	36	12.0	3		3	4,749	2.5	4.0	4.0
	99999	医療圏未記入	19	6.3							
		計	2,834	944.7	177	10	187	141,624	6.7	5.3	5.1
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	2.9	1.9	1.9

表 12-15. 福井県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
福井県	18201	嶺北	532	177.3	109	1	110	81,419	2.2	1.6	1.6
	18202	嶺南	84	28.0	16		16	17,340	1.6	1.8	1.8
	99999	医療圏未記入	3	1.0							
		計	619	206.3	125	1	126	98,759	2.1	1.7	1.6
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	1.3	1.1	1.1

※ 福井県は広域民間事業者データのみで、地元事業者データを収集できなかった。

表 12-16. 長野県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計医 師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口1,000 人に対する相談 件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相談 件数 (1か月)	小児科または小 児科医師 1 人 に対する相談件 数 (1か月)
長野県	20201	佐久	227	75.7	27	2	29	25,055	3.0	2.8	2.6
	20202	上小	174	58.0	19		19	23,884	2.4	3.1	3.1
	20203	諏訪	253	84.3	27		27	23,737	3.6	3.1	3.1
	20204	上伊那	233	77.7	14		14	23,353	3.3	5.5	5.5
	20205	飯伊	150	50.0	11		11	20,248	2.5	4.5	4.5
	20206	木曽	15	5.0	2		2	2,467	2.0	2.5	2.5
	20207	松本	645	215.0	127	7	134	53,588	4.0	1.7	1.6
	20208	大北	39	13.0	7		7	5,884	2.2	1.9	1.9
	20209	長野	704	234.7	52	1	53	65,593	3.6	4.5	4.4
	20210	北信	60	20.0	7		7	9,485	2.1	2.9	2.9
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,500	833.3	293	10	303	253,294	3.3	2.8	2.8
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	1.9	3.3	3.5

表 12-17. 岐阜県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計医 師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
岐阜県	21201	岐阜圏域	2,771	923.7	164	5	169	151,504	6.1	5.6	5.5
	21202	西濃	695	231.7	41	1	42	45,213	5.1	5.7	5.5
	21203	東濃	500	166.7	33		33	38,993	4.3	5.1	5.1
	21204	飛騨	185	61.7	11		11	16,960	3.6	5.6	5.6
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	4,151	1,383.7	249	6	255	252,670	5.5	5.6	5.4
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	1.7	1.0	1.0

表 12-18. 静岡県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計医 師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
静岡県	22201	賀茂	76	25.3	5		5	5,017	5.0	5.1	5.1
	22202	熱海	50	16.7	4		4	2,234	7.5	4.2	4.2
	22203	伊東	99	33.0	5		5	5,826	5.7	6.6	6.6
	22204	駿豆	1,166	388.7	64	2	66	64,442	6.0	6.1	5.9
	22205	御殿場	160	53.3	4	1	5	14,180	3.8	13.3	10.7
	22206	富士	874	291.3	33		33	47,988	6.1	8.8	8.8
	22207	清水	0	0.0	18		18	55,025	0.0	0.0	0.0
	22208	静岡	2,455	818.3	83	8	91	25,492	32.1	9.9	9.0
	22209	志太榛原	1,265	421.7	46	1	47	57,431	7.3	9.2	9.0
	22210	中東遠	1,347	449.0	32	1	33	64,227	7.0	14.0	13.6
	22211	北遠	0	0.0	1		1	2,136	0.0	0.0	0.0
	22212	西遠	2,594	864.7	110	3	113	109,520	7.9	7.9	7.7
	99999	医療圏未記入	13	4.3							
		計	10,099	3,366.3	405	16	421	453,518	7.4	8.3	8.0
		医療圏最大と最小の較差 (倍)	-	-	-	-	-	-	8.5	3.4	3.3

表 12-19. 愛知県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
愛知県	23202	海部	360	120.0	24		24	42,120	2.8	5.0	5.0
	23204	尾張東部	638	212.7	85	7	92	69,195	3.1	2.5	2.3
	23205	尾張西部	578	192.7	53		53	68,261	2.8	3.6	3.6
	23206	尾張北部	858	286.0	71	5	76	99,112	2.9	4.0	3.8
	23207	知多半島	798	266.0	85	5	90	88,625	3.0	3.1	3.0
	23208	西三河北部	247	82.3	45		45	66,531	1.2	1.8	1.8
	23209	西三河南部西	875	291.7	64	4	68	102,018	2.9	4.6	4.3
	23210	西三河南部東	756	252.0	37		37	62,711	4.0	6.8	6.8
	23211	東三河北部	39	13.0	3		3	5,653	2.3	4.3	4.3
	23212	東三河南部	739	246.3	69		69	93,315	2.6	3.6	3.6
	23213	名古屋・尾張中部	2911	970.3	368	17	385	310,788	3.1	2.6	2.5
	99999	医療圏未記入	11	3.7							
		計	8,810	2,936.7	904	38	942	1,008,329	2.9	3.2	3.1
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	3.2	3.7	3.7

表 12-20. 三重県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
三重県	24201	北勢	1698	566.0	69		69	111,010	5.1	8.2	8.2
	24202	中勢伊賀	673	224.3	90	8	98	53,486	4.2	2.5	2.3
	24203	南勢志摩	631	210.3	44	3	47	51,095	4.1	4.8	4.5
	24204	東紀州	59	19.7	5		5	6,446	3.1	3.9	3.9
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	3,061	1,020.3	208	11	219	222,037	4.6	4.9	4.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.7	3.3	3.6

表 12-21. 滋賀県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
滋賀県	25201	大津・湖西	1,332	444.0	86	3	89	51,804	8.6	5.2	5.0
	25202	湖南・甲賀	2,176	725.3	70	1	71	72,271	10.0	10.4	10.2
	25203	東近江	744	248.0	30	3	33	31,454	7.9	8.3	7.5
	25204	湖東・湖北	857	285.7	38		38	42,344	6.7	7.5	7.5
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	5,109	1,703.0	224	7	231	197,873	8.6	7.6	7.4
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.5	2.0	2.0

表 12-22. 京都府の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小外科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
京都府	26201	丹後	67	22.3	11		11	10,172	2.2	2.0	2.0
	26202	中丹	395	131.7	28	1	29	24,243	5.4	4.7	4.5
	26203	南丹	148	49.3	20	3	23	15,601	3.2	2.5	2.1
	26204	京都・乙訓	3,395	1,131.7	305	30	335	181,502	6.2	3.7	3.4
	26205	山城北	819	273.0	59	2	61	54,884	5.0	4.6	4.5
	26206	山城南	286	95.3	16	1	17	18,820	5.1	6.0	5.6
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	5,110	1,703.3	439	37	476	305,222	5.6	3.9	3.6
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.8	2.9	2.8

表 12-23. 大阪府の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
大阪府	27201	豊能	2,246	748.7	193	16	209	144,409	5.2	3.9	3.6
	27202	三島	1,338	446.0	115	6	121	99,580	4.5	3.9	3.7
	27203	北河内	2,050	683.3	133	4	137	137,064	5.0	5.1	5.0
	27204	中河内	1,508	502.7	68	6	74	95,350	5.3	7.4	6.8
	27205	南河内	802	267.3	95	5	100	69,205	3.9	2.8	2.7
	27206	堺市	1,508	502.7	94	2	96	106,432	4.7	5.3	5.2
	27207	泉州	1,692	564.0	138	11	149	114,607	4.9	4.1	3.8
	27208	大阪市	4,151	1,383.7	384	20	404	301,609	4.6	3.6	3.4
	99999	医療圏未記入	298	99.3							
		計	15,593	5,197.7	1,220	70	1,290	1,068,256	4.9	4.3	4.0
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.4	2.6	2.5

表 12-24. 兵庫県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
兵庫県	28201	神戸・三田	3,368	1,122.7	286	19	305	199,899	5.6	3.9	3.7
	28202	阪神	3,515	1,171.7	224	7	231	213,617	5.5	5.2	5.1
	28203	東播磨	2,129	709.7	75	2	77	95,862	7.4	9.5	9.2
	28204	北播磨	788	262.7	28	1	29	31,900	8.2	9.4	9.1
	28205	播磨姫路	1,671	557.0	83	3	86	106,528	5.2	6.7	6.5
	28206	但馬	233	77.7	20		20	19,046	4.1	3.9	3.9
	28207	丹波	101	33.7	15		15	12,324	2.7	2.2	2.2
	28208	淡路	119	39.7	15		15	14,774	2.7	2.6	2.6
	99999	医療圏未記入	34	11.3							
		計	11,958	3,986.0	746	32	778	693,950	5.7	5.3	5.1
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.8	4.2	4.1

表 12-25. 奈良県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
奈良県	29201	奈良	1,488	496.0	49		49	40,856	12.1	10.1	10.1
	29202	東和	922	307.3	24		24	23,116	13.3	12.8	12.8
	29203	西和	1,712	570.7	31	6	37	42,932	13.3	18.4	15.4
	29204	中和	1,978	659.3	51	3	54	47,660	13.8	12.9	12.2
	29205	南和	278	92.7	3		3	5,773	16.1	30.9	30.9
	99999	医療圏未記入	60	20.0							
		計	6,438	2,146.0	158	9	167	160,337	13.4	13.6	12.9
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.3	3.1	3.1

表 12-26. 和歌山県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
和歌山県	30201	和歌山	1,030	343.3	74	3	77	49,352	7.0	4.6	4.5
	30202	那賀	311	103.7	18		18	14,392	7.2	5.8	5.8
	30203	橋本	193	64.3	7		7	9,271	6.9	9.2	9.2
	30204	有田	149	49.7	4		4	8,353	5.9	12.4	12.4
	30205	御坊	119	39.7	12		12	7,088	5.6	3.3	3.3
	30206	田辺	185	61.7	20		20	14,414	4.3	3.1	3.1
	30207	新宮	49	16.3	5		5	6,269	2.6	3.3	3.3
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,036	678.7	140	3	143	109,139	6.2	4.8	4.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.8	4.0	4.0

表 12-27. 鳥取県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
鳥取県	31201	東部	690	230.0	37		37	28,185	8.2	6.2	6.2
	31202	中部	223	74.3	12		12	12,760	5.8	6.2	6.2
	31203	西部	902	300.7	78	1	79	29,353	10.2	3.9	3.8
	99999	医療圏未記入	6	2.0							
		計	1,821	607.0	127	1	128	70,298	8.6	4.8	4.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.8	1.6	1.6

表 12-28. 島根県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
島根県	32201	松江	757	252.3	34		34	31,087	8.1	7.4	7.4
	32202	雲南	81	27.0	3		3	5,785	4.7	9.0	9.0
	32203	出雲	576	192.0	39	5	44	23,803	8.1	4.9	4.4
	32204	大田	98	32.7	6		6	5,689	5.7	5.4	5.4
	32205	浜田	112	37.3	10		10	8,545	4.4	3.7	3.7
	32206	益田	81	27.0	6		6	6,785	4.0	4.5	4.5
	32207	隠岐	18	6.0	2		2	2,158	2.8	3.0	3.0
	99999	医療圏未記入	12	4.0							
		計	1,735	578.3	100	5	105	83,852	6.9	5.8	5.5
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.9	3.0	3.0

表 12-29. 岡山県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
岡山県	33201	県南東部	2,666	888.7	171	8	179	115,972	7.7	5.2	5.0
	33202	県南西部	1,364	454.7	111	5	116	93,621	4.9	4.1	3.9
	33203	高梁・新見	58	19.3	6		6	5,530	3.5	3.2	3.2
	33204	真庭	55	18.3	1		1	5,124	3.6	18.3	18.3
	33205	津山・英田	268	89.3	19		19	21,703	4.1	4.7	4.7
	99999	医療圏未記入	7	2.3							
		計	4,418	1,472.7	308	13	321	241,950	6.1	4.8	4.6
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.2	5.7	5.7

表 12-30. 広島県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
広島県	34201	広島	3,725	1,241.7	196	16	212	184,752	6.7	6.3	5.9
	34202	広島西	290	96.7	25		25	18,140	5.3	3.9	3.9
	34203	呉	413	137.7	34	1	35	25,816	5.3	4.0	3.9
	34204	広島中央	528	176.0	24		24	30,034	5.9	7.3	7.3
	34205	尾三	294	98.0	28		28	27,185	3.6	3.5	3.5
	34206	福山・府中	1,103	367.7	49	3	52	67,353	5.5	7.5	7.1
	34207	備北	61	20.3	9		9	9,807	2.1	2.3	2.3
	99999	医療圏未記入	32	10.7							
		計	6,446	2,148.7	365	20	385	363,087	5.9	5.9	5.6
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	3.2	3.3	3.1

表 12-31. 山口県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
山口県	35201	岩国	226	75.3	15		15	16,436	4.6	5.0	5.0
	35202	柳井・周南	581	193.7	37		37	37,917	5.1	5.2	5.2
	35203	山口・防府・萩	831	277.0	40	2	42	44,137	6.3	6.9	6.6
	35204	宇部・小野田	474	158.0	52	1	53	29,100	5.4	3.0	3.0
	35205	下関・長門	453	151.0	32	1	33	32,224	4.7	4.7	4.6
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,565	855.0	176	4	180	159,814	5.3	4.9	4.8
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	1.4	2.3	2.2

表 12-32. 徳島県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
徳島県	36201	東部	2,189	729.7	86	3	89	62,101	11.7	8.5	8.2
	36202	南部	419	139.7	21		21	15,165	9.2	6.7	6.7
	36203	西部	116	38.7	7		7	7,198	5.4	5.5	5.5
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,724	908.0	114	3	117	84,464	10.8	8.0	7.8
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.2	1.5	1.5

表 12-33. 香川県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
香川県	37201	大川	155	51.7	6		6	7,348	7.0	8.6	8.6
	37202	小豆	38	12.7	3		3	2,572	4.9	4.2	4.2
	37203	高松	2,061	687.0	79	5	84	60,336	11.4	8.7	8.2
	37204	中讃	927	309.0	55	3	58	36,516	8.5	5.6	5.3
	37205	三豊	258	86.0	12		12	14,345	6.0	7.2	7.2
	99999	医療圏未記入	32	10.7							
		計	3,471	1,157.0	155	8	163	121,117	9.6	7.5	7.1
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.3	2.1	2.0

表 12-34. 愛媛県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
愛媛県	38201	宇摩・新居浜・西条	659	219.7	32	1	33	38,315	5.7	6.9	6.7
	38202	今治	233	77.7	18		18	18,004	4.3	4.3	4.3
	38203	松山・八幡浜・大洲	2,544	848.0	125	6	131	95,166	8.9	6.8	6.5
	38204	宇和島	120	40.0	15		15	10,533	3.8	2.7	2.7
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	3,556	1,185.3	190	7	197	162,018	7.3	6.2	6.0
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	2.3	2.6	2.5

表 12-35. 佐賀県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
佐賀県	41201	中部+東部	775	258.3	86	5	91	27,067	9.5	3.0	2.8
	41202	北部+西部	127	42.3	18		18	65,085	0.7	2.4	2.4
	41203	南部	115	38.3	20		20	19,538	2.0	1.9	1.9
	99999	医療圏未記入	786	262.0							
		計	1,803	601.0	124	5	129	111,690	5.4	4.8	4.7
		医療圏最大と最小の較差(倍)	-	-	-	-	-	-	14.7	1.6	1.5

表 12-36. 長崎県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
長崎県	42201	長崎	1,618	539.3	94	4	98	62,156	8.7	5.7	5.5
	42202	佐世保・県北	826	275.3	36		36	41,617	6.6	7.6	7.6
	42203	県央	675	225.0	64		64	38,288	5.9	3.5	3.5
	42204	県南	173	57.7	7		7	15,666	3.7	8.2	8.2
	42205	五島	21	7.0	3		3	3,801	1.8	2.3	2.3
	42206	上五島	14	4.7	1		1	1,858	2.5	4.7	4.7
	42207	壱岐	18	6.0	3		3	3,373	1.8	2.0	2.0
	42208	対馬	20	6.7	3		3	3,538	1.9	2.2	2.2
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	3,365	1,121.7	211	4	215	170,297	6.6	5.3	5.2
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	4.9	4.1	2.8

表 12-37. 宮崎県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
宮崎県	45201	県央	1,237	412.3	80	2	82	71,833	5.7	5.2	5.0
	45202	県西	491	163.7	23		23	35,906	4.6	7.1	7.1
	45203	県北	256	85.3	19	1	20	29,046	2.9	4.5	4.3
	45204	県南	52	17.3	8		8	8,230	2.1	2.2	2.2
	99999	医療圏未記入	2	0.7							
		計	2,038	679.3	130	3	133	145,015	4.7	5.2	5.1
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	2.7	3.3	3.3

表 12-38. 鹿児島県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
鹿児島県	46201	薩摩	814	271.3	118	14	132	107,376	2.5	2.3	2.1
	46202	北薩	127	42.3	16	1	17	26,097	1.6	2.6	2.5
	46203	姶良・伊佐	232	77.3	30	2	32	33,041	2.3	2.6	2.4
	46204	大隅	143	47.7	16	1	17	30,400	1.6	3.0	2.8
	46205	熊毛	6	2.0	2		2	5,258	0.4	1.0	1.0
	46206	奄美	42	14.0	7	1	8	15,064	0.9	2.0	1.8
	99999	医療圏未記入	1,464	488.0							
		計	2,828	942.7	189	19	208	217,236	4.3	5.0	4.5
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	6.6	3.0	2.8

表 12-39. 沖縄県の小児医療圏別相談件数(令和元年 12 月～令和 2 年 2 月の 1 か月平均)

都道府県名	小児医療圏 番号	小児医療圏名	相談件数 (件) 3か月	相談件数 (件) 1か月	小児科医 師数 (人)	小児外科 医師数 (人)	2科合計 医師数 (人)	年少人口 (人)	年少人口 1,000人に対 する相談件数 (1か月)	小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)	小児科または 小児科医師 1 人に対する相 談件数 (1か 月)
沖縄県	47201	北部	144	48.0	17	2	19	16,290	2.9	2.8	2.5
	47202	中部	772	257.3	65	2	67	89,842	2.9	4.0	3.8
	47203	南部	1,497	499.0	142	2	144	125,463	4.0	3.5	3.5
	47204	宮古	55	18.3	9		9	8,823	2.1	2.0	2.0
	47205	八重山	63	21.0	4		4	9,689	2.2	5.3	5.3
	99999	医療圏未記入	0	0.0							
		計	2,531	843.7	237	6	243	250,107	3.4	3.6	3.5
		医療圏最大と最小の較差(倍)	—	—	—	—	—	—	1.9	2.6	2.6

Ⅳ-2-3. 都道府県別未記入項目と未記入率の検討

Ⅲ集計結果で未記入率が高い項目があるため、都道府県別に未記入項目と未記入率を検討した(表 13)。相談対象児年齢では、100%未記入が1か月未満で30都府県、1歳未満で15都県と多数であった。その理由は本システムの0～1か月未満、1～3か月未満、3～6か月未満、6か月～1歳未満と異なるカテゴリー分類でデータを収集していて突合が出来なかったためであり、都道府県が相談対象児年齢データを収集していなかった訳ではない。そこで今回は、1歳未満の細分類をせずに1歳未満を一括して考察することにした(表 16)。

相談対象児年齢以外で未記入率が30%を超える項目は、相談の分類 48.6%、兄姉の有無 96.5%、発症時期 65.0%、相談前の受診 46.3%、医師の対応 55.5%、相談者の満足度(相談対応者からの印象) 31.8%、相談対応者が受診すべきと考えた診療科 55.1%、相談対応者の相談業務経験年数 72.3%、相談対応者の対応感想 76.2%、計9項目であった。今回はそれぞれの調査項目において未記入値を除いて検討を行う方針とした。未記入率 100%の項目がなく、データ収集が良好なのは、北海道、青森県、山形県、福島県、埼玉県、奈良県、鳥取県、島根県、広島県の9道県であった(福井県は地元データを収集できなかった)。北海道、埼玉県、広島県は地元業者、広域民間事業者双方を用いている。未記入 100%が7項目以上であるのは1都6県であった。

#8000事業は、過去15年間以上都道府県事業として発達してきたために、調査項目・選択枝の全国統一は直ぐには不可能である。しかし、今後の#8000事業の均てん化を進めるためには、統一性を高める努力が必要であるので、未記入 30%未満を目標として改善をめざすようにした。未記入率が高い調査項目を除外する案もあったが、今回はそれぞれの調査項目の意義を知るために、未記入を除く処理を行って分析した。未記入を除いた場合は明確にわかるように、その都度「未記入を除いて」と記載した。

兄姉の有無、発症時期、相談対応者の対応感想は、電話相談時に保護者から得られにくい情報であると、相談員からの指摘がある。相談対応者の相談業務経験年数については、個々のデータとは別に相談対応者に紐付けるデータであって、改善の余地がある。

表 13. 都道府県別未記入項目と未記入率の検討

都道府県番号	都道府県名	広域民 事業 者デ ータ	地元 業 者デ ータ	2.二 次医 療相 談件 数の 未記 入	4.相 談対 象児 の年 齢の 未記 入	4.相 談対 象児 の年 齢の 未記 入率	1か 月未 満が 突合 不全	1歳 未満 が突 合不 全	6歳 以上 が突 合不 全	4.相 談対 象男 女	6.相 談の 分類	7.相 談者 の続 柄の 未	8.相 談者 年齢	9.兄 姉の 有無	10.発 症時 期	11.相 談前 の受 診の 有無	12.相 談対 応時 間	13.相 談対 応者 による緊急度判定	14.医 師の 対応	15.相 談者 の満足度 (相 談対 応者 からの 印象)	18.相 談対 応者 が受 診す べき と考 えた 診療 科	19.相 談対 応者 の相 談業 務経 験年 数	20.相 談対 応者 の対 応感 想	未記 入 100% の項 目数
	39都道府県の未記入率					9.5%				23.5%	42.9%	1.3%	48.6%	96.5%	65.0%	46.3%	1.6%	6.4%	55.5%	31.8%	55.1%	72.3%	76.2%	
	未記入100%の都道府県数			1			30	15	4	2	16	0	9	29	27	11	0	0	8	6	10	23	29	
1	北海道	A	地	◎	○	58.7%				◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	0
2	青森	A		◎	◎	24.3%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
4	宮城	A	(地)	◎	◎	22.1%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	1
6	山形	A		◎	◎	23.8%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
7	福島	B		◎	◎	1.1%				◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
8	茨城	C		◎	○	41.0%	■	■		■	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	◎	■	■	■	9
10	群馬	C		◎	○	39.9%	■	■		◎	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	▲	■	■	■	■	7
11	埼玉	A	地	◎	◎	19.9%				◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
12	千葉		地	◎	◎	0.1%				◎	■	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■	6
13	東京		地	■	○	39.3%	■	■	■	■	▲	◎	■	■	■	■	▲	◎	◎	▲	■	■	■	8
14	神奈川	B	(地)	○	◎	1.6%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
15	新潟	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
16	富山	D		◎	◎	3.0%	■			◎	○	◎	◎	■	■	■	◎	◎	■	◎	◎	■	■	6
17	石川	D		◎	◎	2.0%	■			◎	○	◎	◎	■	■	■	◎	◎	■	◎	◎	■	■	6
18	福井	A	(地)	◎	◎	25.7%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
20	長野	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
21	岐阜	B		◎	◎	1.4%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
22	静岡	C		◎	○	40.1%	■	■	■	◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	▲	■	■	■	■	7
23	愛知	C		◎	◎	26.6%	■	■		◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	▲	◎	■	■	■	6
24	三重	B		◎	◎	0.9%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
25	滋賀	B		◎	◎	1.0%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
26	京都	B		◎	◎	1.2%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
27	大阪		地	◎	◎	1.5%	■			◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	■	◎	▲	■	■	5
28	兵庫	C		◎	▲	86.4%	■	■	■	◎	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	■	■	■	■	9
29	奈良	A		◎	◎	18.6%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
30	和歌山	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
31	鳥取	A		◎	◎	23.8%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
32	島根	A		◎	◎	23.9%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
33	岡山	C		◎	◎	24.6%	■	■		◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	■	◎	■	■	■	7
34	広島	A	地	◎	◎	14.9%				◎	◎	◎	○	▲	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	0
35	山口	B		◎	◎	1.1%				◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	5
36	徳島	B		◎	◎	1.5%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
37	香川	D		◎	◎	2.2%	■			◎	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	■	◎	■	■	8
38	愛媛	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
41	佐賀	C	地	○	○	36.7%	■	■		○	○	○	○	■	■	○	◎	○	○	■	○	■	■	5
42	長崎	B		◎	◎	0.9%				◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
45	宮崎	C		◎	◎	25.4%			■	◎	■	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	◎	■	■	■	9
46	鹿児島	D		○	◎	1.9%				○	○	○	■	■	■	■	○	◎	○	○	○	■	■	6
47	沖縄	B		◎	◎	1.9%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5

9.兄弟の有無の12相談対応時間の「その他」、相談者の満足度の「不明」、相談対応者の対応感想の「その他」は未記入に含めた。

ABCD: 広域民事業業者4社 (地): 地元業者データ未収

◎未記入率30%未満

○未記入率30%以上70%未満

▲未記入率70%以上100%未満

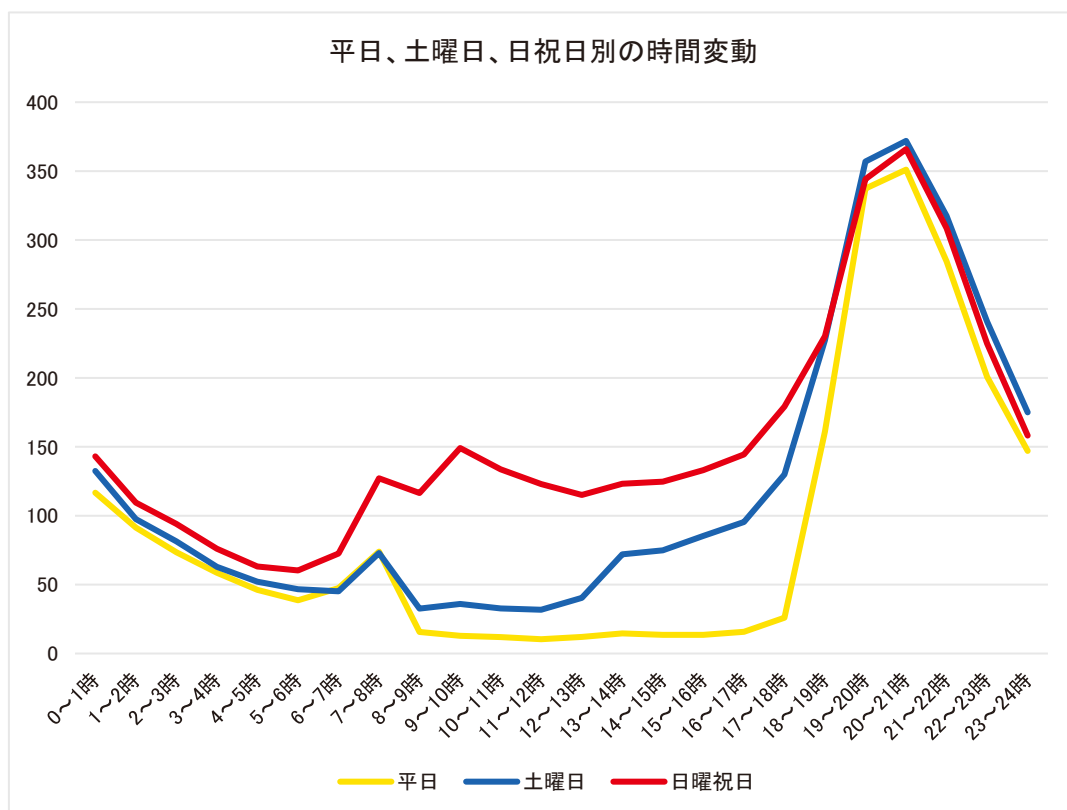
■未記入率100%

IV-2-4. 曜日別の相談件数の時間変動

39 都道府県の相談対応時間帯(p.14 図 3)は、深夜帯(0～8 時)は 37 都道府県 94.9%、日曜祝日日勤帯(0～8 時)は 20 都県 51.3%(青森県、茨城県、群馬県、埼玉県、東京都、富山県、福井県、岐阜県、静岡県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、徳島県、愛媛県、長崎県、鹿児島県、沖縄県)で実施され、年少人口に対しては深夜帯に全国の 91.0%、日曜祝日日勤帯に 45.5%に対して#8000 事業を行っている。

曜日別相談時間帯別相談件数の変動パターンから曜日別時間帯別の#8000 ニーズを知ることが目的に、以下の検討を行った。p.19 の曜日別相談時間帯別相談件数のグラフは、平日に祝日が含まれており、調査期間が 12 月～2 月であることから、今年度は平日 57 日、土曜日 13 日、日曜祝日 21 日で、祝日が多い。そこで、全ての祝日を日曜祝日に編入する処理を行った。平日(祝日を除く月～金曜日)、土曜日、日曜祝日 3 群の 1 日当たりの相談件数を求めた(表 13、図 5)。準夜帯 19～21 時をピークとして、以後漸減して 0 時に 1/3 に、5 時に 1/7 にまで減少し、7～8 時に小さな山がある時間変動を示し、休日日勤帯はピーク時の 1/3 で一定している。

図 5 平日、土曜日、日曜祝日 3 群の相談時間帯別相談件数の時間変動



※ 平日(祝日を除く)、土曜日、日曜祝日の 1 日当たりの相談件数を求めて、平日、土曜日、日曜祝日 3 群の相談件数の時間変動が明らかになった。準夜帯 19～21 時をピークとして、以後漸減して 0 時に 1/3 に、5 時に 1/7 にまで減少し、7～8 時に小さな山がある時間変動を示し、休日日勤帯はピーク時の 1/3 で一定している。

表 14. 平日、土曜日、日曜祝日 3 群の相談時間帯別相談件数

【全国】

時間帯	平日	土曜日	日曜祝日	未記入	計	割合
0～1 時	6,653	1,722	3,003	0	11,378	4.7%
1～2 時	5,209	1,268	2,300	0	8,777	3.6%
2～3 時	4,189	1,058	1,975	0	7,222	3.0%
3～4 時	3,338	818	1,597	0	5,753	2.4%
4～5 時	2,634	677	1,326	0	4,637	1.9%
5～6 時	2,201	607	1,266	0	4,074	1.7%
6～7 時	2,706	587	1,523	0	4,816	2.0%
7～8 時	4,218	948	2,670	0	7,836	3.2%
8～9 時	892	424	2,446	0	3,762	1.6%
9～10 時	732	468	3,131	0	4,331	1.8%
10～11 時	677	425	2,807	0	3,909	1.6%
11～12 時	592	413	2,583	0	3,588	1.5%
12～13 時	688	525	2,415	0	3,628	1.5%
13～14 時	835	935	2,586	0	4,356	1.8%
14～15 時	776	973	2,618	0	4,367	1.8%
15～16 時	775	1,109	2,794	0	4,678	1.9%
16～17 時	901	1,241	3,033	0	5,175	2.1%
17～18 時	1,479	1,689	3,763	0	6,931	2.9%
18～19 時	9,180	2,956	4,836	0	16,972	7.0%
19～20 時	19,228	4,641	7,229	0	31,098	12.9%
20～21 時	20,010	4,835	7,685	0	32,530	13.5%
21～22 時	16,217	4,127	6,479	0	26,823	11.1%
22～23 時	11,445	3,131	4,723	1	19,300	8.0%
23～24 時	8,381	2,275	3,321	0	13,977	5.8%
未記入	897	241	331	0	1,469	0.6%
計	124,853	38,093	78,440	1	241,387	100.0%

※ 月～金曜日の祝日を日曜祝日に算入する調整を行って、平日、土曜日、日曜祝日の 3 群に分けた。平日 57 日、土曜日 13 日、日曜祝日 21 日になった。

平日、土曜日、日曜祝日 3 群、準夜帯、深夜帯、日勤帯 3 時間帯、計 9 群での相談件数について比較した(表 15)。平日準夜帯の件数を 1 とすると、土曜日・日曜祝日の準夜帯件数は 1.2 倍で、日曜祝日日勤帯の件数は 0.8 倍である。日曜祝日は実施都道府県が 51.3%であることを考慮すると、日曜祝日日勤帯のニーズは準夜帯を超えると予想される。

この曜日別相談件数の解析により得られた時間変動パターン(図 5)は、曜日別相談時間帯別の#8000 のニーズを示しており、今後の#8000 実施体制整備、回線数の調整のための重要な資料になる。#8000 にはアクセスの制限となる話中問題があり、この対応のために参考になる。最大 7 倍の時間変動があることは、ニーズが高まる時間帯の回線数の調整だけでは限界があり、利用者側の変化を進めるため、あるいは話中時の代替として、他の小児救急医療情報ツールの普及啓発や家庭看護力醸成(p,113-114)の必要性を示唆する。

表 15 平日、土曜日、日曜祝日 3 群の相談時間帯別相談件数の比較

時間帯	平日(祝日を除く)	土曜日	日曜祝日
準夜帯(17～0 時)	100%	121%	120%
深夜帯(0～8 時)	36%	39%	49%
日勤帯(8～17 時)	8%	33%	77%

※ 平日準夜帯の件数を 1 とし、土曜日・日曜祝日の準夜帯件数は 1.2 倍で、日曜祝日日勤帯の件数は 0.8 倍である。日曜祝日日勤帯は 39 都道府県の実施率が 51.3%であることを考慮すれば、日曜祝日日勤帯のニーズは準夜帯を超えると予想される。

IV-2-5. 相談対象児の年齢分布と男女比

相談対象児年齢は1歳未満で突合不全のために未記入が多くなった(p.20-21)ので、今年度は1歳未満を一括して検討した(表16、図6)。相談対象児の年齢分布は、1歳未満23.0%、2歳未満44.7%、3歳未満57.0%、5歳未満73.7%、6歳未満79.1%となり、低年齢児が多い。これは、過去の小児救急外来受診患者の調査で³⁾、3歳未満41.0%、6歳未満68.2%であることから、#8000の対象児は救急外来受診よりも低年齢である。3歳未満は、感染症や家庭内事故が多いこと、子ども自らの訴えが少なく、保護者の不安が強いことが背景にあると思われる。子育ての初期にあたるこの時期のニーズの高さは、小児医療政策としての重症性を示す。

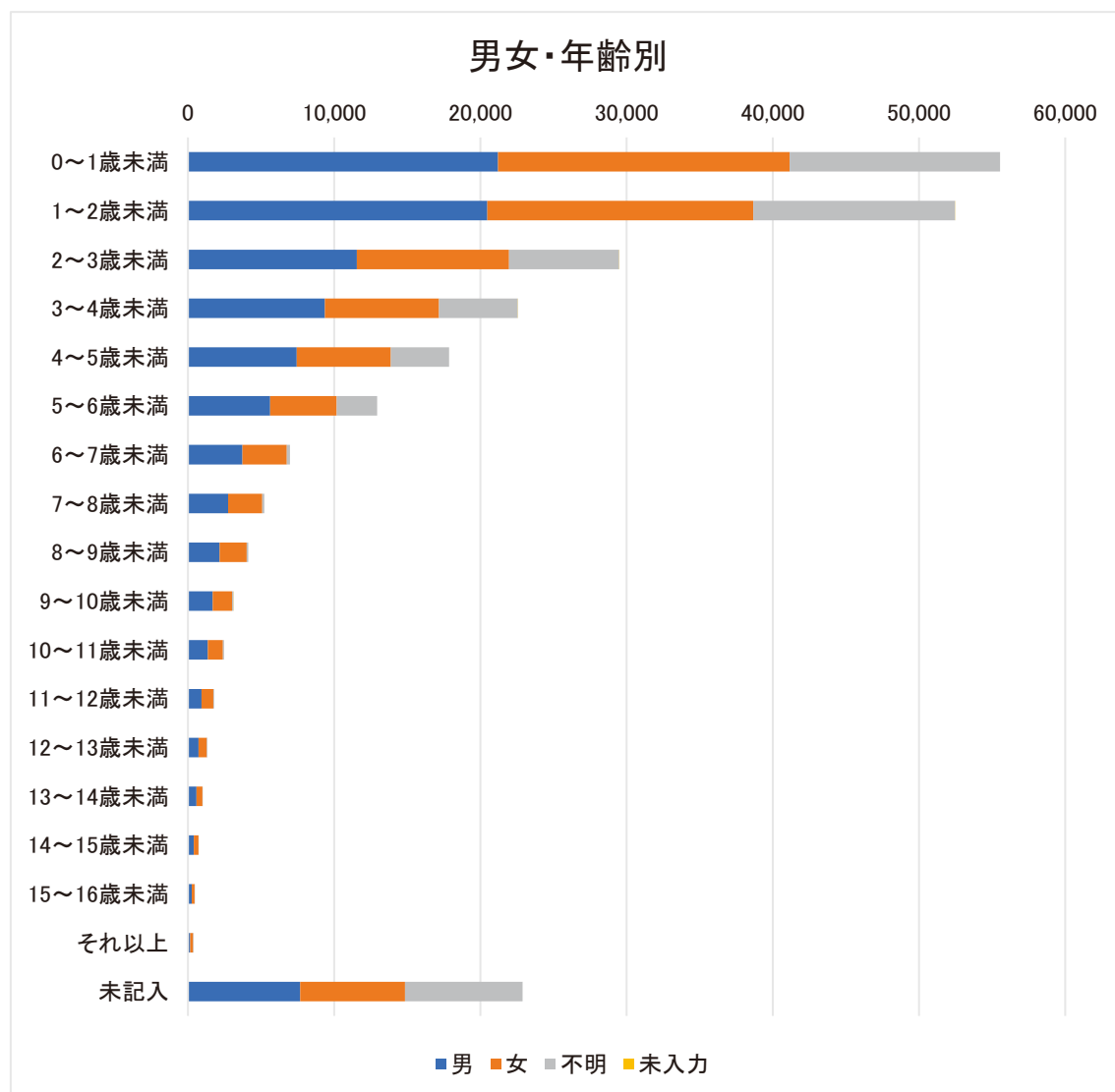
男女比は1.13であった。総務省統計局データ⁴⁾では同年齢の男女比は1.05であるので、#8000では男子の割合が高い。

表16. 相談対象児の年齢分布と男女比

相談対象児年齢	男	女	不明	未記入	計	割合
1歳未満	21,206	19,951	14,388	0	55,545	23.0%
1～2歳未満	20,478	18,191	13,797	1	52,467	21.7%
2～3歳未満	11,551	10,414	7,523	1	29,489	12.2%
3～4歳未満	9,363	7,807	5,386	1	22,557	9.3%
4～5歳未満	7,439	6,437	3,983	0	17,859	7.4%
5～6歳未満	5,619	4,554	2,765	0	12,938	5.4%
6～7歳未満	3,722	3,039	215	0	6,976	2.9%
7～8歳未満	2,748	2,334	141	0	5,223	2.2%
8～9歳未満	2,161	1,859	109	0	4,129	1.7%
9～10歳未満	1,687	1,330	97	1	3,115	1.3%
10～11歳未満	1,359	1,032	76	0	2,467	1.0%
11～12歳未満	932	800	56	0	1,788	0.7%
12～13歳未満	727	569	40	0	1,336	0.6%
13～14歳未満	584	406	24	0	1,014	0.4%
14～15歳未満	397	322	19	0	738	0.3%
15～16歳未満	260	199	18	0	477	0.2%
それ以上	148	208	30	0	386	0.2%
未記入	7,677	7,173	8,033	0	22,883	9.5%
計(件数)	98,058	86,625	56,700	4	241,387	—
計(割合)	40.6%	35.9%	23.5%	0.0%	—	100.0%

※ 本システムの0～1か月未満、1～3か月未満、3～6か月未満、6か月～1歳未満と異なるカテゴリー分類であるために、1歳未満の未記入が多くなったので、考察では1歳未満を一括して扱うことにした。1歳未満23.0%、2歳未満44.7%、3歳未満57.0%、5歳未満73.7%、6歳未満79.1%と、低年齢児が多い。男女比=1.13。

図 6. 相談対象者の年齢と男女比



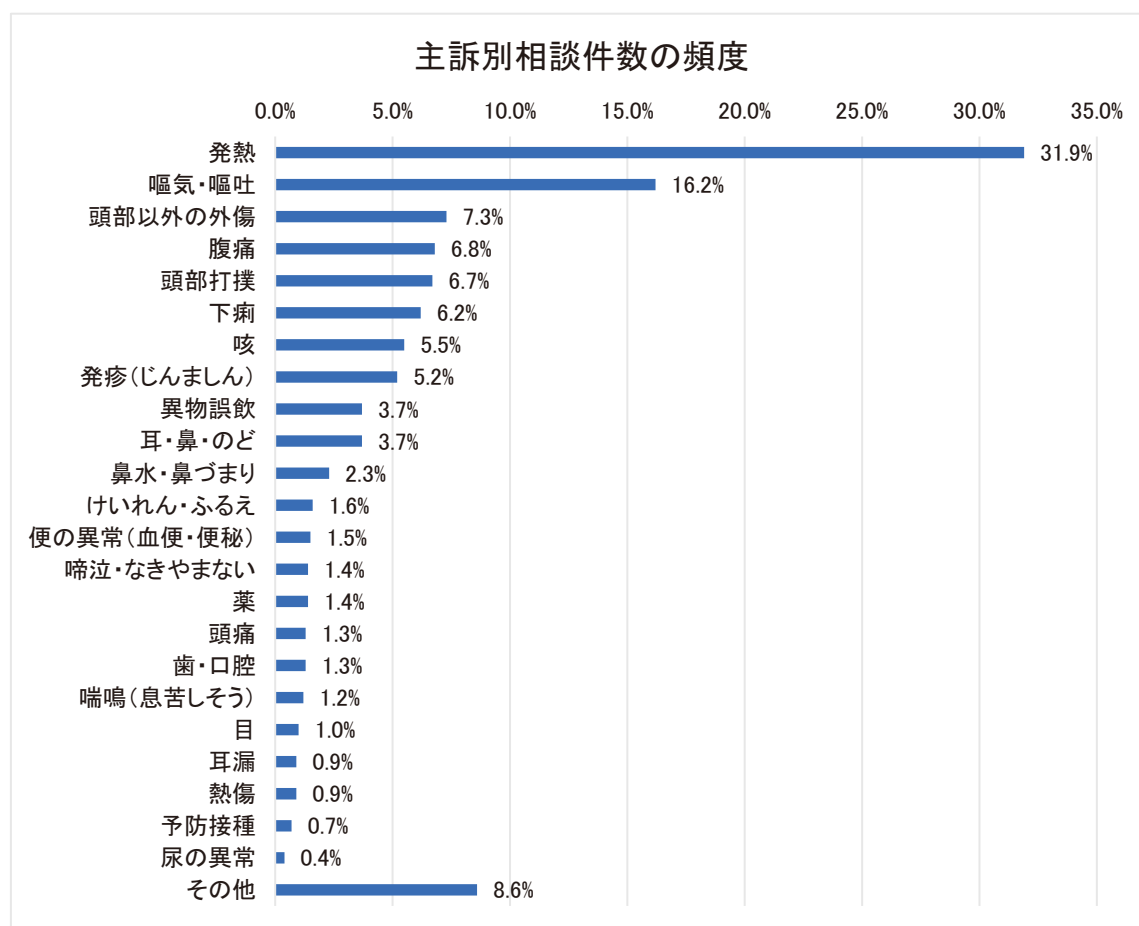
※ 1 歳未満 23.0%、2 歳未満 44.7%、3 歳未満 57.0%、5 歳未満 73.7%、6 歳未満 79.1%で、低年齢児が多い。男女比=1.13 で男子が多い。

IV-2-6. 主訴別相談件数の頻度

主訴について(p.22-23)、相談件数が多い順に示した(図 7)。10%以上は発熱と嘔気・嘔吐の 2 つで、5%以上は加えて頭部以外の外傷 7.3%、腹痛 6.8%、頭部打撲 6.7%、下痢 6.2%、咳 5.5%、発疹(じんましん)5.2%、の計 7 つであった。系統別にわけると、呼吸器系は咳、耳・のど、鼻汁・鼻づまり、喘鳴(息苦しう)で計 12.7%、消化器系は嘔気・嘔吐、腹痛、下痢、便の異常で計 30.7%(嘔気・嘔吐は腹部以外の原因もある)、外因系は頭部以外の外傷、頭部打撲、異物誤飲、熱傷で計 18.6%であった(これらは、複数回答のため重複があることに注意)。すなわち、発熱と消化器系が 3 割ずつ、外因系 2 割、呼吸器系 1 割である。

以上の所見は、電話相談で対応すべき症候の傾向を示しており、電話相談対応、小児救急啓発資料作成、家庭看護力醸成活動において参考になる。

図 7. 主訴別相談件数の頻度



※ 呼吸器系は咳、耳・のど、鼻汁・鼻づまり、喘鳴(息苦しう)で計 12.7%、消化器系は嘔気・嘔吐、腹痛、下痢、便の異常で計 30.7%(嘔気・嘔吐は腹部以外の原因もある)、外因系は頭部以外の外傷、頭部打撲、異物誤飲、熱傷で計 18.6%であった。複数回答のため重複があることに注意。

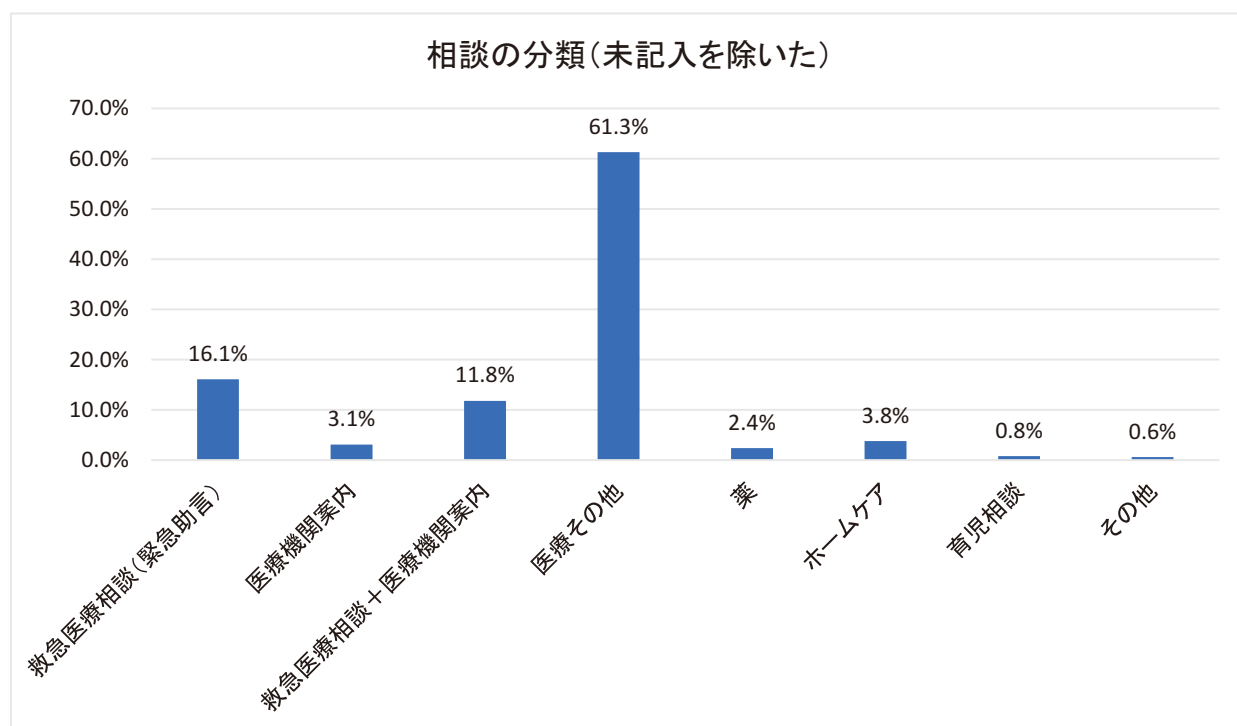
IV-2-7. 相談の分類

相談の分類(p.24)は未記入率が高いので(42.9% > 30%)、未記入を除いて検討した(図 8)。「救急医療相談(緊急助言)」16.1%、「医療機関案内」3.1%、「救急医療相談＋医療機関案内」11.8%、「医療その他」61.3%、「薬」2.4%、「ホームケア」3.8%、「育児相談」0.8%で、救急医療相談合計(「救急医療相談」と「救急医療相談＋医療機関案内」を合わせて)は 27.9%、医療機関案内合計(「医療機関案内」と「救急医療相談＋医療機関案内」を合わせて)は 15.0%であった。

「医療その他」が 60%以上と高くなったが、「その他」を付けたために、緊急性がないと判断されたものや、ホームケア、育児相談、その他の相談など、様々なケースが多く含まれると思われる。選択枝の再検討が必要である。

医療機関案内が 3.1%+11.8%=14.9%で、そのニーズは高くない。電話相談以外の方法で医療機関を知る手段として、こども救急ガイドブック、救急医療情報システム、地方自治体の救急医療広報、医療機関のホームページの救急対応情報などが充実してきているため、電話相談における医療機関案内のニーズが低下してきていると思われる。

図 8. 相談目的の分類(未記入を除いた検討)



※ 救急医療相談合計(救急医療相談と救急医療相談＋医療機関案内を合わせて)27.9%、医療機関案内合計(医療機関案内と救急医療相談＋医療機関案内を合わせて)15.0%。「医療その他」は 60.3%と多いが、緊急性がないと判断されたものや、ホームケア、育児相談、その他の相談の多くが含まれたと思われる。

IV-2-8. 相談者の続柄・年齢

相談者の続柄は(p.25)、母親 83.8%、父親 13.8%、祖母 0.3%、祖父 0.05%、家族複数名 0.2%、その他 0.5%、未記入 1.3%で(p.25)、母親がほとんどである。その他は両親(電話の途中で代わった)、親戚、本人などである。

相談者の年齢は(p.26)、未記入が多い(未記入率 48.6% > 30%)ため未記入を除いた割合を求めて、母親の出産年齢と比較した(表 17)。相談者年齢は 10 代 0.1%、20 代 15.5%、30 代 68.6%、40 代 14.6%、50 代 0.7%、60 代以上 0.4%で、2018～2019 年度の出産年齢は、10 代 1.9%、20 代 33.4%、30 代 60.8%、40 代 3.9%であるので⁴⁾、#8000 相談者は、20 代が少なく 40 代が多い。出産年齢と子育てする年齢にはずれがあるものの、電話相談では 20 代よりも 30～40 代とくに 40 代が多くなる傾向があると言える。

相談時間帯別に父親/母親比をみると(表 18、図 9)、平均 0.16、0.11～0.21 で、父親/母親比が高くなる、すなわち父親の参加が増える(+1sd 以上)のは 21～2 時である。

表 17. 相談者の年齢(未記入を除いた検討)

年齢	件数	未記入を含んだ割合	未記入を除いた割合	2018-2019 年度母親の出産年齢
10 代	184	0.1%	0.1%	1.9%
20 代	19,276	8.0%	15.5%	33.4%
30 代	85,115	35.3%	68.6%	60.8%
40 代	18,073	7.5%	14.6%	3.9%
50 代	891	0.4%	0.7%	
60 代以上	462	0.2%	0.4%	
未記入	117,386	48.6%		
計	241,387	100.0%		

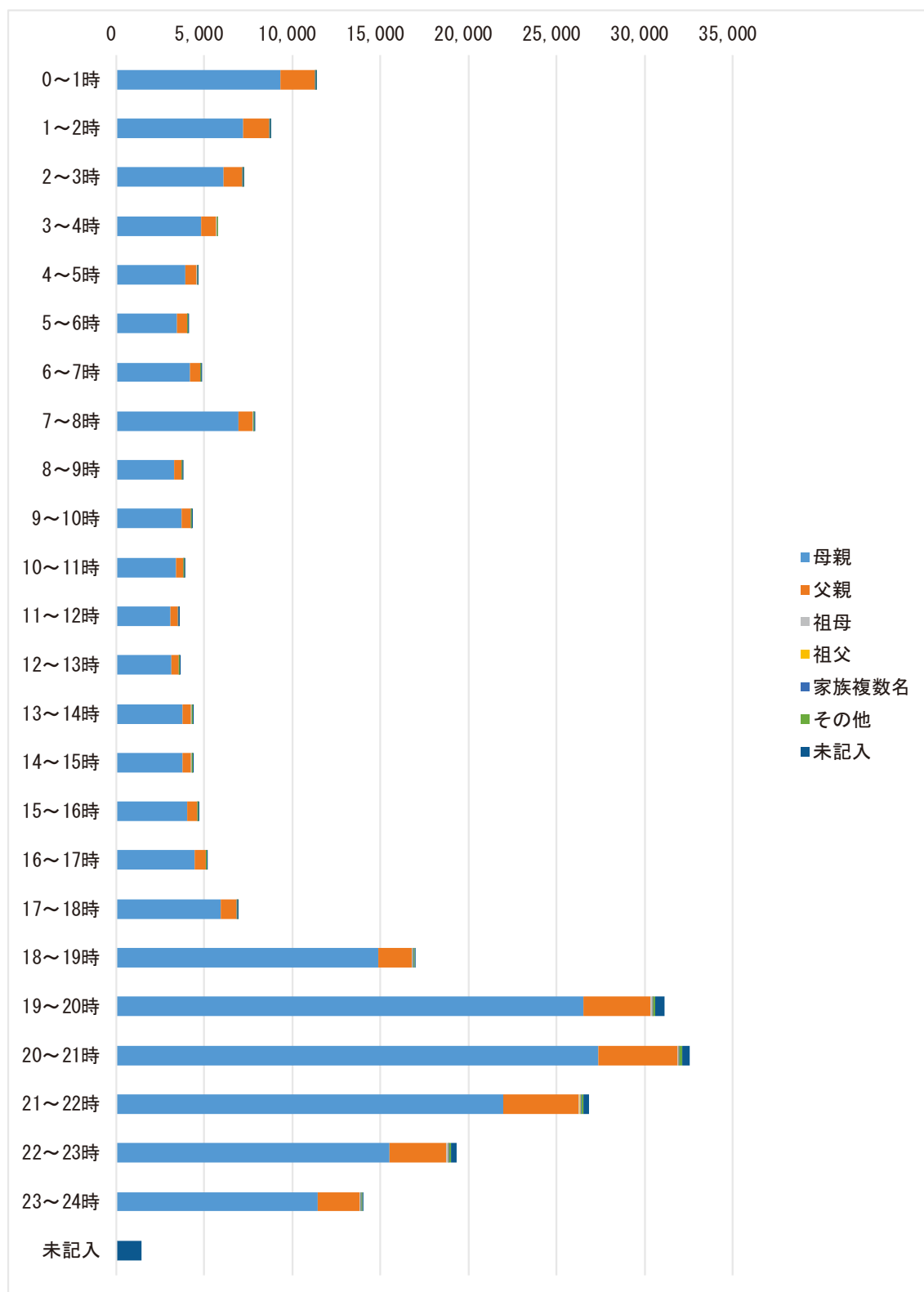
※ 未記入率が高い(未記入率 48.6 % > 30%)ので、未記入を除いて再検討した。10 代 0.1%、20 代 15.5%、30 代 68.6%、40 代 14.6%、50 代 0.7%、60 代以上 0.4%であった。

表 18.相談時間帯別相談者続柄

時間帯	母親	父親	祖母	祖父	家族複数名	その他	未記入	計	父親/母親
0～1 時	9,330	1,931	22	2	26	51	16	11,378	0.21
1～2 時	7,225	1,457	33	2	16	37	7	8,777	0.20
2～3 時	6,085	1,069	20	4	14	28	2	7,222	0.18
3～4 時	4,846	856	9	2	7	33	0	5,753	0.18
4～5 時	3,927	665	9	1	8	23	4	4,637	0.17
5～6 時	3,459	576	10	1	7	18	3	4,074	0.17
6～7 時	4,191	565	14	2	10	31	3	4,816	0.13
7～8 時	6,959	789	31	2	17	33	5	7,836	0.11
8～9 時	3,284	440	10	2	5	20	1	3,762	0.13
9～10 時	3,732	503	14	2	9	44	27	4,331	0.13
10～11 時	3,387	433	19	1	6	34	29	3,909	0.13
11～12 時	3,077	422	28	3	9	22	27	3,588	0.14
12～13 時	3,130	422	20	3	5	43	5	3,628	0.13
13～14 時	3,758	513	20	1	10	39	15	4,356	0.14
14～15 時	3,783	489	19	7	13	32	24	4,367	0.13
15～16 時	4,042	554	17	6	8	31	20	4,678	0.14
16～17 時	4,463	622	15	3	10	42	20	5,175	0.14
17～18 時	5,942	884	26	6	13	46	14	6,931	0.15
18～19 時	14,858	1,930	44	7	40	81	12	16,972	0.13
19～20 時	26,540	3,805	87	14	54	112	486	31,098	0.14
20～21 時	27,350	4,492	75	12	44	159	398	32,530	0.16
21～22 時	21,969	4,275	84	13	48	122	312	26,823	0.19
22～23 時	15,505	3,263	74	10	37	113	298	19,300	0.21
23～24 時	11,418	2,416	45	5	23	57	13	13,977	0.21
未記入	14	2	0	0	0	0	1,453	1,469	0.14
計	202,274	33,373	745	111	439	1,251	3,194	241,387	0.16

※ 父親/母親比は平均 0.16、0.11～0.21 で、父親/母親比が高くなる、すなわち父親の参加が増える(+1sd 以上)のは 21～2 時であった。

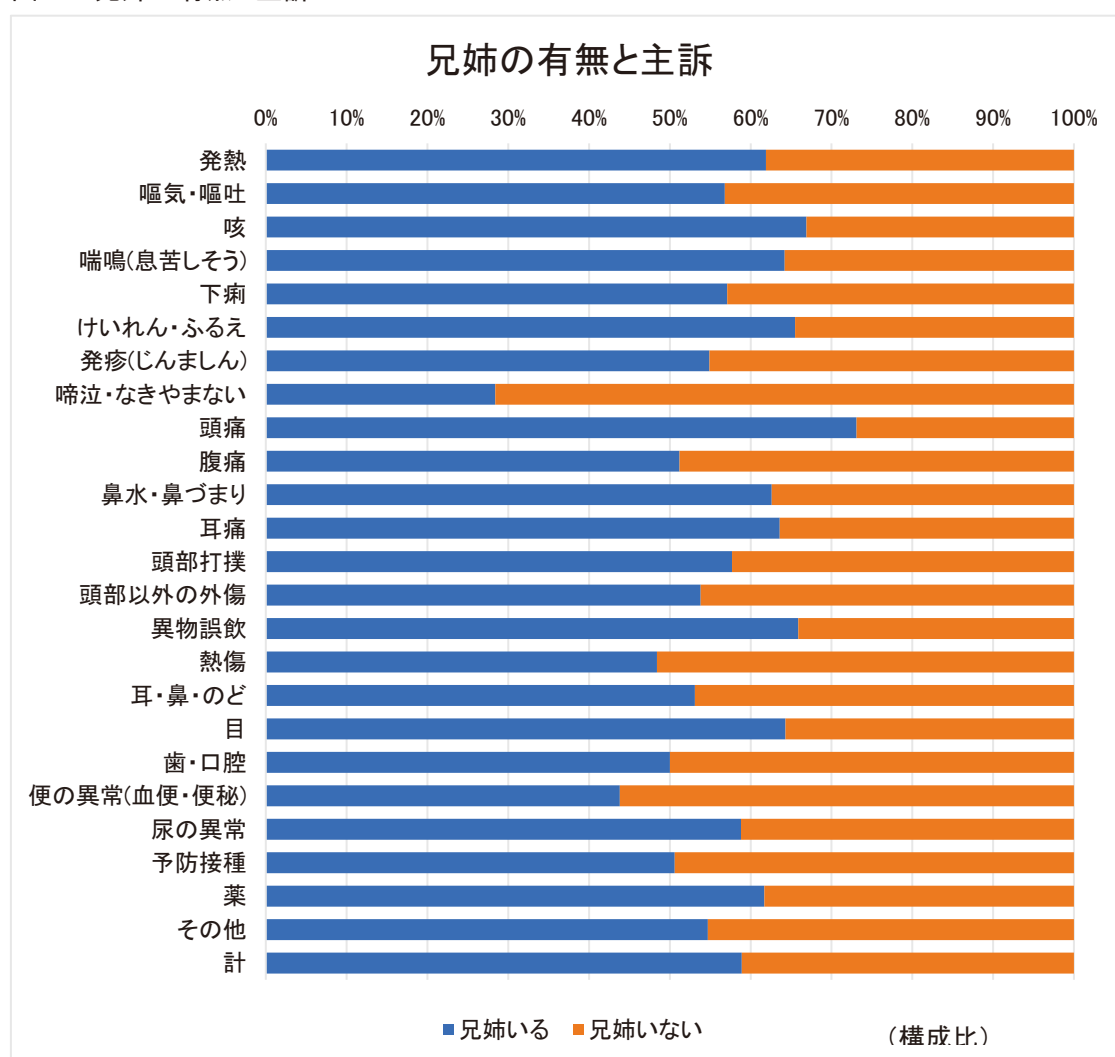
図 9. 相談時間帯別相談者続柄



IV-2-9. 兄弟の有無

兄弟の有無から「いない/(いる+いない)」を算出した。これは、第1子あるいは子ども一人の割合を示し、42.2%であった(p.27)。この項目は不明が多く未記入率が高いが、前述の割合には影響しない。兄弟の有無と主訴を検討すると(図10、表19)、兄弟がいない、すなわち相談対象児が第1子あるいは子ども一人の家庭の割合は、主訴全体では41.1%で、その割合が高い主訴(相談対象児が第1子あるいは子ども一人の家庭で多くなる主訴)は、啼泣・泣きやまない71.6%、便の異常(血便・便秘)56.2%、熱傷51.6%、歯・口腔50.0%、予防接種49.4%であった。これらの主訴は、子育ての経験が少ない保護者が不慣れな項目であり、啓発活動の参考になる。逆に割合が低いのは、頭痛、咳、異物誤飲、けいれん・ふるえ、などである。なお、主訴は複数選択可のため、件数自体とは一致しない。

図10. 兄弟の有無と主訴



※ 兄弟がいない=第1子あるいは子ども一人家庭では、啼泣・なきやまない、便の異常(血便・便秘)、熱傷、予防接種などの主訴が多くなる。頭痛、咳、異物誤飲、けいれん・ふるえが少ない。

表 19. 兄姉の有無と主訴

主訴	兄姉の有無				
	いる		いない		計
	件数	割合	件数	割合	件数
発熱	1,904	61.9%	1,171	38.1%	3,075
嘔気・嘔吐	746	56.8%	567	43.2%	1,313
咳	357	66.9%	177	33.1%	534
喘鳴(息苦しそう)	106	64.2%	59	35.8%	165
下痢	145	57.1%	109	42.9%	254
けいれん・ふるえ	135	65.5%	71	34.5%	206
発疹(じんましん)	247	54.9%	203	45.1%	450
啼泣・なきやまない	19	28.4%	48	71.6%	67
頭痛	98	73.1%	36	26.9%	134
腹痛	147	51.2%	140	48.8%	287
鼻水・鼻づまり	112	62.6%	67	37.4%	179
耳漏	7	63.6%	4	36.4%	11
頭部打撲	361	57.7%	265	42.3%	626
頭部以外の外傷	280	53.8%	240	46.2%	520
異物誤飲	203	65.9%	105	34.1%	308
熱傷	30	48.4%	32	51.6%	62
耳・鼻・のど	172	53.1%	152	46.9%	324
目	74	64.3%	41	35.7%	115
歯・口腔	70	50.0%	70	50.0%	140
便の異常(血便・便秘)	81	43.8%	104	56.2%	185
尿の異常	20	58.8%	14	41.2%	34
予防接種	44	50.6%	43	49.4%	87
薬	142	61.7%	88	38.3%	230
その他	275	54.7%	228	45.3%	503
計	5,775	58.9%	4,034	41.1%	9,809

※ 兄姉がいない=第1子あるいは子ども一人家庭では、啼泣・なきやまない、便の異常(血便・便秘)、熱傷、予防接種などの主訴が多くなる。頭痛、咳、異物誤飲、けいれん・ふるえが少ない。

IV-2-10. 都道府県別緊急度判定、および民間事業者群比較

相談対応者（看護師）による緊急度判定は、「119 番をすすめた」0.9%、「直ぐに病院に行くようにすすめた」21.9%、「翌日に受診することをすすめた」16.6%、「何かあれば受診することをすすめた」39.4%、「受診をする必要はない」14.7%、「その他」4.7%、未記入 1.7%であった（p.32）。直ぐ受診（「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」）は 22.8%、少し様子を見る（「翌日に受診することをすすめた」+「何かあれば受診することをすすめた」）は 56.0%で、前者は小児救急医療体制の対応が関連し、後者は保護者の家庭看護力が関連する。

緊急度判定を都道府県間で比較したところ（表 20、図 11）、都道府県間で差異を認めた。この差異の背景には、小児医療提供体制、地理、アクセスの違いが影響していると思われる。実際の小児医療提供でここまでの差異は出ていないので、#8000 と救急外来受診の対象者の差（たとえば、今までの検討で相談対象児の年齢の相違がわかっている）、相談結果と受診行動の差、等の要因があると思われる。

都道府県別緊急度判定について民間事業者分別に検討したところ（図 12）、民間事業者ごとに一定の傾向が見られた。事業者ごとに、#8000 事業の運用方針やマニュアルの相違の可能性があるかも知れない。次年度はこの点について検討を加える予定である。

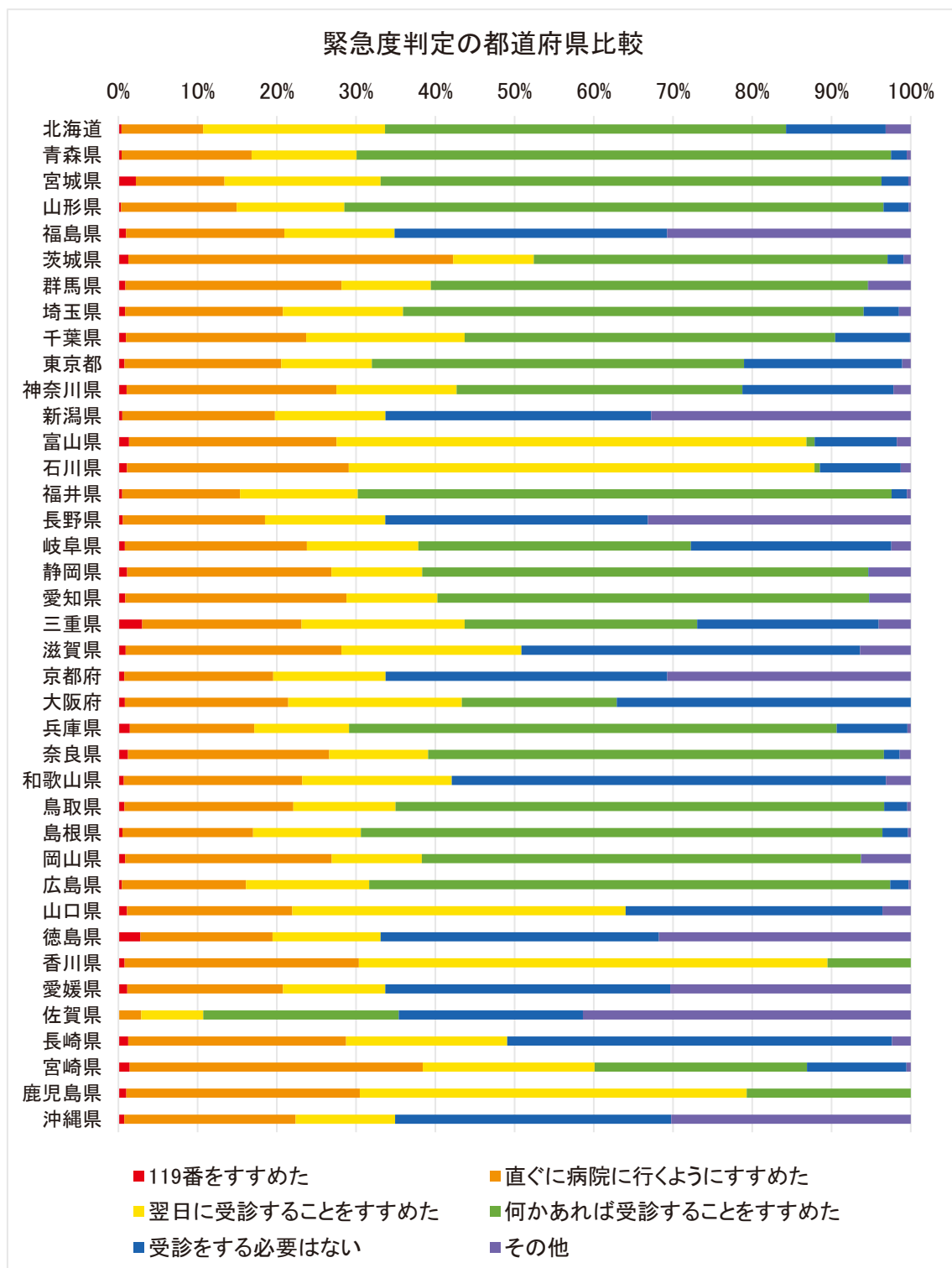
表 20. 都道府県別緊急度判定

都道府県	相談対応者（看護師）による緊急度判定							
	119 番をすすめた	直ぐに病院に行くようにすすめた	翌日に受診することをすすめた	何かあれば受診することとをすすめた	受診をする必要はない	その他	未記入	計
北海道	16	419	934	2,059	511	129	163	4,231
青森県	9	362	292	1,488	44	11	0	2,206
宮城県	36	182	321	1,030	55	5	0	1,629
山形県	4	174	162	811	38	3	0	1,192
福島県	26	540	376	0	929	831	0	2,702
茨城県	155	5,074	1,259	5,527	249	113	0	12,377
群馬県	54	1,672	691	3,382	2	329	560	6,690
埼玉県	284	6,678	5,088	19,502	1,495	501	308	33,856
千葉県	105	2,524	2,218	5,189	1,046	11	0	11,093
東京都	298	7,622	4,404	18,094	7,690	415	64	38,587
神奈川県	37	937	537	1,277	675	77	0	3,540
新潟県	13	512	371	0	891	871	0	2,658

富山県	40	778	1,761	31	308	52	0	2,970
石川県	31	793	1,666	19	289	36	0	2,834
福井県	3	92	92	417	12	3	0	619
長野県	14	449	380	0	829	830	0	2,502
岐阜県	34	955	584	1,430	1,051	102	0	4,156
静岡県	102	2,393	1,062	5,223	7	490	822	10,099
愛知県	71	2,278	936	4,445	5	423	652	8,810
三重県	92	616	631	899	702	124	0	3,064
滋賀県	47	1,392	1,162	0	2,186	327	0	5,114
京都府	38	963	726	0	1,820	1,574	0	5,121
大阪府	125	3,186	3,381	3,020	5,729	0	152	15,593
兵庫県	172	1,879	1,431	7,358	1,068	50	0	11,958
奈良県	78	1,635	804	3,703	128	90	0	6,438
和歌山県	14	459	385	0	1,117	64	0	2,039
鳥取県	14	388	235	1,123	53	8	0	1,821
島根県	9	286	236	1,142	56	6	0	1,735
岡山県	35	1,074	468	2,282	1	258	300	4,418
広島県	27	947	940	3,977	141	16	398	6,446
山口県	28	536	1,082	0	833	92	0	2,571
徳島県	76	454	372	0	957	866	0	2,725
香川県	27	1,014	2,029	360	0	0	41	3,471
愛媛県	40	699	459	0	1,279	1,080	0	3,557
佐賀県	1	51	141	445	419	746	0	1,803
長崎県	42	925	684	0	1,634	80	0	3,365
宮崎県	29	754	442	546	256	11	0	2,038
鹿児島県	21	618	1,024	434	0	0	731	2,828
沖縄県	19	547	318	0	882	765	0	2,531
海外	0	0	0	0	0	0	0	0
未記入	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2,266	52,857	40,084	95,213	35,387	11,389	4,191	241,387

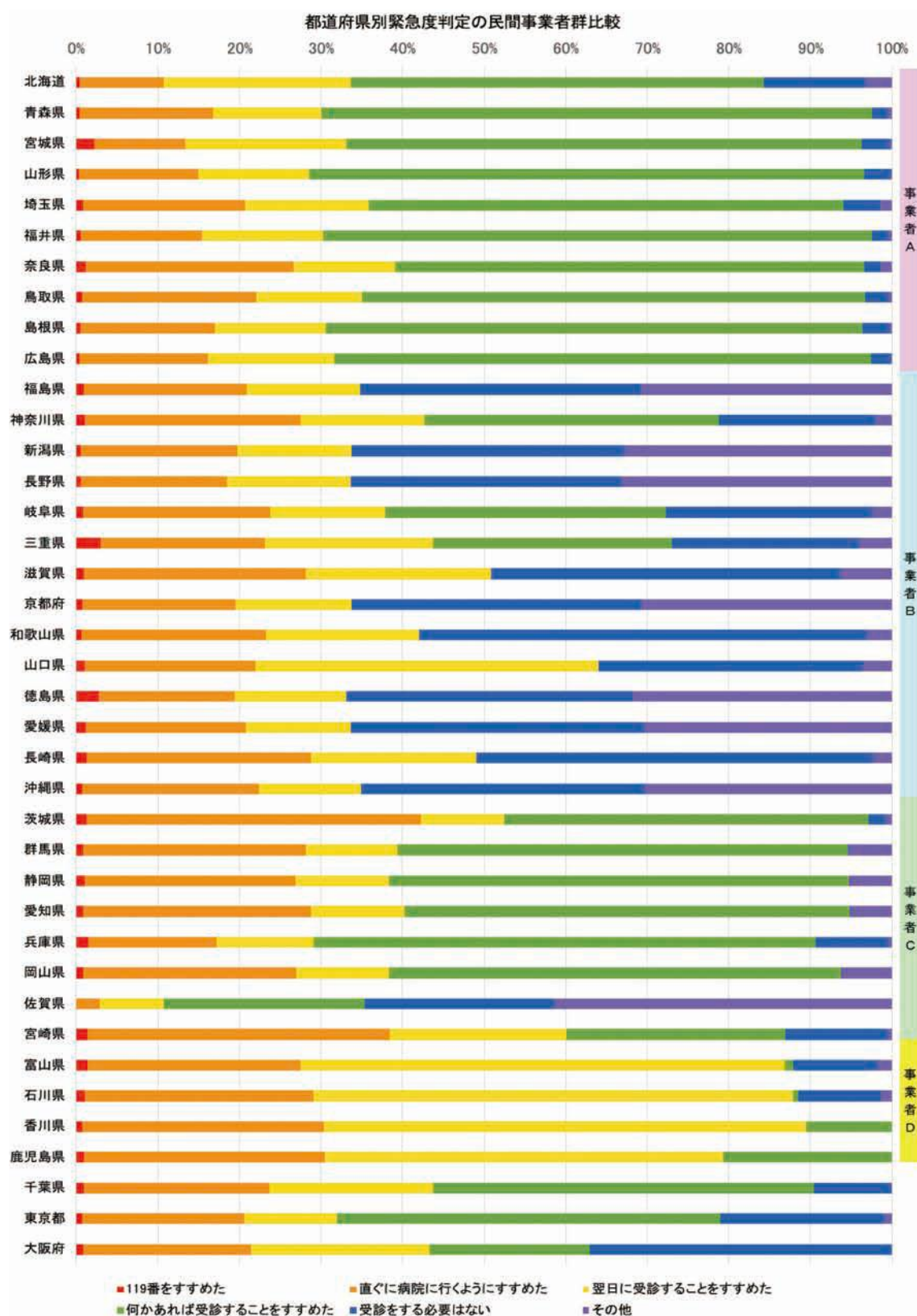
※ 緊急度判定は都道府県間で差異がある、かつ、民間事業者別に一定の傾向がある。

図 11.都道府県別緊急度判定



※ 緊急度判定は都道府県間の差がある。かつ、民間事業者別に一定の傾向がある。「119番をすすめた」+「すぐに病院に行くようにすすめた」は、全体で 22.8%、最小 2.9%、最大 42.2%であった。

図 12. 都道府県別緊急度判定の民間事業者群比較



※ 広域民間事業者を事業者 A、B、C、D とした。

IV-2-11. 主訴と緊急度判定

主訴と緊急度判定をクロス集計して(表 21)、直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)の頻度を主訴別に比較した。直ぐに受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は平均 23.6%で、とくに高い(+1sd 以上)のは喘鳴(息苦しう)、けいれん・ふるえ、熱傷、尿の異常であった。とくに低い(-1sd 以下)のは耳漏、薬であった。

表 21.主訴と緊急度判定

主訴	緊急度判定	119 番をすすめた	直ぐに病院に行くようにすすめた	翌日に受診することをすすめた	何かあれば受診することをすすめた	受診を必要はない	その他	未記入	計	119 番をすすめた+直ぐに病院に行くようにすすめた
発熱	件数	420	13,481	16,282	30,287	11,376	4,104	1,088	77,038	13,901
	割合	0.5%	17.5%	21.1%	39.3%	14.8%	5.3%	1.4%	100.0%	18.0%
嘔気・嘔吐	件数	172	8,846	4,698	18,437	5,136	1,398	458	39,145	9,018
	割合	0.4%	22.6%	12.0%	47.1%	13.1%	3.6%	1.2%	100.0%	23.0%
咳	件数	144	4,237	1,941	4,961	1,366	389	162	13,200	4,381
	割合	1.1%	32.1%	14.7%	37.6%	10.3%	2.9%	1.2%	100.0%	33.2%
喘鳴(息苦しう)	件数	128	1,525	196	893	109	68	46	2,965	1,653
	割合	4.3%	51.4%	6.6%	30.1%	3.7%	2.3%	1.6%	100.0%	55.8%
下痢	件数	28	3,015	2,007	7,276	2,236	226	113	14,901	3,043
	割合	0.2%	20.2%	13.5%	48.8%	15.0%	1.5%	0.8%	100.0%	20.4%
けいれん・ふるえ	件数	655	1,430	343	1,089	322	102	27	3,968	2,085
	割合	16.5%	36.0%	8.6%	27.4%	8.1%	2.6%	0.7%	100.0%	52.5%
発疹(じんましん)	件数	76	3,362	2,418	4,739	1,345	359	188	12,487	3,438
	割合	0.6%	26.9%	19.4%	38.0%	10.8%	2.9%	1.5%	100.0%	27.5%
啼泣・なきやまない	件数	18	1,233	319	2,130	633	166	52	4,551	1,251
	割合	0.4%	27.1%	7.0%	46.8%	13.9%	3.6%	1.1%	100.0%	27.5%
頭痛	件数	19	843	479	1,285	351	130	49	3,156	862
	割合	0.6%	26.7%	15.2%	40.7%	11.1%	4.1%	1.6%	100.0%	27.3%
腹痛	件数	92	4,644	1,476	7,838	2,129	266	89	16,534	4,736
	割合	0.6%	28.1%	8.9%	47.4%	12.9%	1.6%	0.5%	100.0%	28.6%
鼻水・鼻づまり	件数	6	734	1,375	2,250	937	135	65	5,502	740
	割合	0.1%	13.3%	25.0%	40.9%	17.0%	2.5%	1.2%	100.0%	13.4%
耳漏	件数	1	228	774	679	402	41	3	2,128	229

	割合	0.0%	10.7%	36.4%	31.9%	18.9%	1.9%	0.1%	100.0%	10.8%
頭部打撲	件数	164	3,802	1,211	8,189	2,068	573	226	16,233	3,966
	割合	1.0%	23.4%	7.5%	50.4%	12.7%	3.5%	1.4%	100.0%	24.4%
頭部以外の外傷	件数	157	5,289	2,426	5,497	2,910	1,237	151	17,667	5,446
	割合	0.9%	29.9%	13.7%	31.1%	16.5%	7.0%	0.9%	100.0%	30.8%
異物誤飲	件数	95	1,827	435	4,113	1,864	497	137	8,968	1,922
	割合	1.1%	20.4%	4.9%	45.9%	20.8%	5.5%	1.5%	100.0%	21.4%
熱傷	件数	69	981	338	594	194	34	29	2,239	1,050
	割合	3.1%	43.8%	15.1%	26.5%	8.7%	1.5%	1.3%	100.0%	46.9%
耳鼻咽喉科	件数	59	1,334	2,953	2,868	1,209	389	141	8,953	1,393
	割合	0.7%	14.9%	33.0%	32.0%	13.5%	4.3%	1.6%	100.0%	15.6%
眼科系	件数	25	412	661	1,043	182	40	28	2,391	437
	割合	1.0%	17.2%	27.6%	43.6%	7.6%	1.7%	1.2%	100.0%	18.3%
歯科・口腔外科	件数	19	386	894	1,234	363	99	63	3,058	405
	割合	0.6%	12.6%	29.2%	40.4%	11.9%	3.2%	2.1%	100.0%	13.2%
便の異常(血便・便秘)	件数	6	770	585	1,746	363	121	70	3,661	776
	割合	0.2%	21.0%	16.0%	47.7%	9.9%	3.3%	1.9%	100.0%	21.2%
尿の異常	件数	6	429	128	418	37	16	13	1,047	435
	割合	0.6%	41.0%	12.2%	39.9%	3.5%	1.5%	1.2%	100.0%	41.5%
予防接種	件数	2	307	369	449	375	97	4	1,603	309
	割合	0.1%	19.2%	23.0%	28.0%	23.4%	6.1%	0.2%	100.0%	19.3%
薬	件数	8	265	713	854	1,206	176	140	3,362	273
	割合	0.2%	7.9%	21.2%	25.4%	35.9%	5.2%	4.2%	100.0%	8.1%
その他	件数	320	5,164	3,127	8,053	2,531	608	887	20,690	5,484
	割合	1.5%	25.0%	15.1%	38.9%	12.2%	2.9%	4.3%	100.0%	26.5%
計	件数	2,689	64,544	46,148	116,922	39,644	11,271	4,229	285,447	67,233
	割合	0.9%	22.6%	16.2%	41.0%	13.9%	3.9%	1.5%	100.0%	23.6%

※ 直ぐに受診(「119番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は平均23.6%で、とくに高い(+1sd)のは喘鳴(息苦しそう)55.8%、けいれん・ふるえ52.5%、熱傷46.9%、尿の異常41.5%で、とくに低い(-1sd)は耳漏、薬であった。緊急度判定件数が、表18より多いのは、主訴は複数選択を可としているためである。

IV-2-12. 発症時期

発症時期(p.28)について、未記入が多い(未記入率 65/0% > 30%)ため未記入を除いて再検討した。未記入を除いて、1 時間前 63.8%、6 時間前から 7.5%、12 時間前から 10.8%、1 日前から 3.5%、それ以前から 14.3%で、6 割以上が発症後すぐに相談している。2 割弱が発症後 1 日以上経過している。

発症時期と緊急度について(表 22)、直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は、1 時間前 21.4%、6 時間前から 21.1%、12 時間前から 20.7%、1 日前から 17.3%、それ以前から 17.0%で、1 日以上経つと少し減少するが、大きな差はない。

表 22. 発症時期と相談対応者(看護師)による緊急度判定

相談対応者(看護師)による緊急度判定		1 時間前 から	6 時間前 から	12 時間 前から	1 日前 から	それ以前 から	不明	計
119 番をすすめた	件数	592	19	47	11	29	1,568	2,266
	割合	1.1%	0.3%	0.5%	0.4%	0.2%	1.0%	0.9%
直ぐに病院に行くように すすめた	件数	10,874	1,310	1,823	488	2,012	36,350	52,857
	割合	20.2%	20.6%	20.1%	16.4%	16.6%	23.2%	21.9%
翌日に受診することを すすめた	件数	8,108	1,474	1,706	785	2,043	25,968	40,084
	割合	15.0%	23.2%	18.8%	26.4%	16.9%	16.5%	16.6%
何かあれば受診すること をすすめた	件数	28,566	2,496	4,290	676	6,766	52,419	95,213
	割合	53.0%	39.3%	47.2%	22.7%	55.9%	33.4%	39.4%
受診をする必要はない	件数	5,033	972	1,115	894	1,074	26,299	35,387
	割合	9.3%	15.3%	12.3%	30.1%	8.9%	16.8%	14.7%
その他	件数	403	40	45	29	106	10,766	11,389
	割合	0.7%	0.6%	0.5%	1.0%	0.9%	6.9%	4.7%
不明	件数	305	40	66	89	63	3,628	4,191
	割合	0.6%	0.6%	0.7%	3.0%	0.5%	2.3%	1.7%
計	件数	53,881	6,351	9,092	2,972	12,093	156,998	241,387
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は、1 時間前 21.4%、6 時間前から 21.1%、12 時間前から 20.7%、1 日前から 17.3%、それ以前から 17.0%。

IV-2-13. 相談前の受診の有無

昨年度よりも多く回答が得られた(本年度未記入率 46.3%、昨年度未記入率 63.6%)。相談前受診あり/(相談前受診あり+なし)は 21.3%で(p.29)、昨年(24.9%)とほぼ同じであった。

相談前受診と緊急度の検討(表 23)で、直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)の割合は、相談前受診ありでは 15.6%、相談前受診なしでは 20.9%で、相談前受診ありが少ない。相談前受診=受診後電話相談は、緊急度が高いからではなく、保護者因子(保護者の不安が大きい)によると思われる。従って、医療機関受診時に、保護者の不安を減らす対応が必要である。

相談前受診と主訴をクロス集計(表 24)したところ、相談前受診あり/(相談前受診あり+なし)が多い(+1sd 以上、32.9%)のは、発熱 34.8%、咳 37.8%、薬 45.4%である。これらの主訴は受診後も保護者の不安が取れにくいと、診療時にこのことを念頭において丁寧な指導をする、あるいは薬局の服薬指導の充実が必要と思われる。

表 23. 相談前受診の有無と相談対応者(看護師)による緊急度判定

相談対応者(看護師)による緊急度判定	あり		なし		不明		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	計	割合
119 番をすすめた	160	0.6%	1,038	1.0%	1,068	1.0%	2,266	0.9%
直ぐに病院に行くようにすすめた	4,389	15.9%	21,750	21.3%	26,718	23.9%	52,857	21.9%
翌日に受診することをすすめた	4,428	16.0%	17,320	17.0%	18,336	16.4%	40,084	16.6%
何かあれば受診することをすすめた	9,453	34.3%	36,452	35.7%	49,308	44.1%	95,213	39.4%
受診をする必要はない	7,390	26.8%	18,208	17.8%	9,789	8.8%	35,387	14.7%
その他	1,710	6.2%	7,202	7.1%	2,477	2.2%	11,389	4.7%
不明	63	0.2%	131	0.1%	3,997	3.6%	4,191	1.7%
計	27,593	100.0%	102,101	100.0%	111,693	100.0%	241,387	100.0%

※ 相談前受診あり/(相談前受診あり+なし)は「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」を合わせた、すなわち直ぐに受診をすすめた場合は、1 時間前 13.4%、6 時間前から 16.8%、12 時間前から 20.7%、1 日前から 17.3%、それ以前から 17.0%。

表 24. 主訴と相談前の受診の有無

主訴	相談前の受診の有無						
	あり		なし		未記入		計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数
発熱	15,845	20.6%	29,748	38.6%	31,445	40.8%	77,038
嘔気・嘔吐	2,965	7.6%	16,160	41.3%	20,020	51.1%	39,145
咳	2,852	21.6%	4,695	35.6%	5,653	42.8%	13,200
喘鳴(息苦しそう)	492	16.6%	1,308	44.1%	1,165	39.3%	2,965
下痢	1,005	6.7%	2,800	18.8%	11,096	74.5%	14,901
けいれん・ふるえ	614	15.5%	1,754	44.2%	1,600	40.3%	3,968
発疹(じんましん)	966	7.7%	5,248	42.0%	6,273	50.2%	12,487
啼泣・なきやまない	151	4.4%	1,033	29.9%	2,275	65.8%	3,459
頭痛	430	13.6%	1,583	50.2%	1,143	36.2%	3,156
腹痛	622	3.8%	4,023	24.3%	11,889	71.9%	16,534
鼻水・鼻づまり	956	17.4%	2,320	42.2%	2,226	40.5%	5,502
耳漏	54	2.5%	339	15.9%	1,735	81.5%	2,128
頭部打撲	178	1.1%	7,922	48.8%	8,133	50.1%	16,233
頭部以外の外傷	268	1.5%	10,231	57.9%	7,168	40.6%	17,667
異物誤飲	149	1.7%	4,756	53.0%	4,063	45.3%	8,968
熱傷	26	1.2%	1,114	49.8%	1,099	49.1%	2,239
耳・鼻・のど	667	7.5%	4,828	53.9%	3,458	38.6%	8,953
目	77	3.2%	1,003	41.9%	1,311	54.8%	2,391
歯・口腔	102	3.3%	1,655	54.1%	1,301	42.5%	3,058
便の異常(血便・便秘)	217	5.9%	1,959	53.5%	1,485	40.6%	3,661
尿の異常	116	11.1%	446	42.6%	485	46.3%	1,047
予防接種	145	9.0%	1,355	84.5%	103	6.4%	1,603
薬	1,377	41.0%	1,659	49.3%	326	9.7%	3,362
その他	1,356	6.6%	6,048	29.2%	13,286	64.2%	20,690
計	31,630	11.1%	113,987	40.1%	138,738	48.8%	284,355

※ 相談前受診あり/(相談前受診あり+なし)が 32.9%(+1sd)を超える主訴は、発熱 34.8%、咳 37.8%、薬 45.4%である。

IV-2-14. 相談対応時間

4分台(4～5分未満)が28.4%で最も多く、3～6分台(3～7分未満)が66.6%、2/3を占める。15分以上は1.2%であった(p.30-31)。

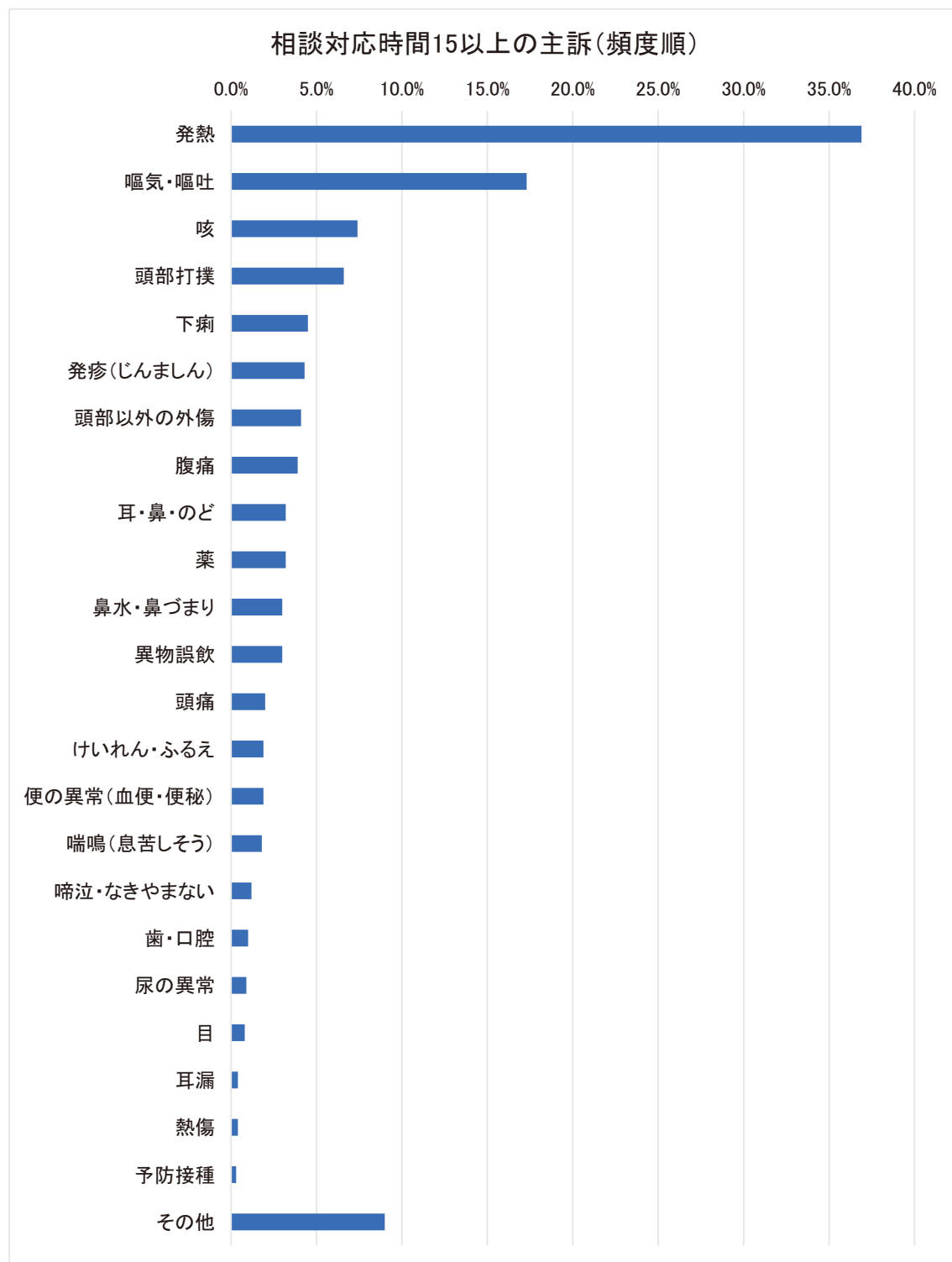
15分以上の相談対応時間を要した主訴の分析では(表25、図13)、その他を除いて発熱33.6%、嘔気・嘔吐15.7%、咳6.7%、喘鳴(苦しそう)1.6%、下痢4.1%、けいれん・ふるえ1.7%、発疹(じんましん)3.9%、啼泣・泣きやまない1.1%、頭痛1.8%、腹痛3.5%、鼻汁・鼻づまり2.8%、耳漏0.4%、頭部打撲6.0%、頭部以外の外傷3.7%、異物誤飲2.7%、熱傷0.4%、耳・鼻・のど2.9%、目0.7%、歯・口腔0.9%、便の異常(血便・便秘)1.7%、尿の異常0.8%、予防接種0.3%、薬2.9%であった。相談対応時間15分以上で頻度が増える主訴は、発熱(+7.7%)、嘔気・嘔吐(+2.5%)、咳(+2.4%)、喘鳴(苦しそう)(+0.7%)、けいれん・ふるえ(+0.4%)、頭痛(+0.8%)、鼻汁・鼻づまり(+0.9%)、頭部打撲(+0.4%)、便の異常(血便・便秘)(+0.5%)、尿の異常(+0.5%)、薬(+1.9%)であった。増加率が高い(増加率+1.0%以上)のは、発熱、嘔気・嘔吐、咳、薬で、これらは保護者の不安が大きい主訴と思われる(図13)。

表 25. 相談対応時間 15 分以上の主訴

主訴	回答数	割合	相談件数
発熱	1,059	36.9%	—
嘔気・嘔吐	496	17.3%	—
咳	211	7.4%	—
喘鳴(息苦しそう)	51	1.8%	—
下痢	129	4.5%	—
けいれん・ふるえ	54	1.9%	—
発疹(じんましん)	122	4.3%	—
啼泣・なきやまない	35	1.2%	—
頭痛	57	2.0%	—
腹痛	111	3.9%	—
鼻水・鼻づまり	87	3.0%	—
耳漏	12	0.4%	—
頭部打撲	189	6.6%	—
頭部以外の外傷	117	4.1%	—
異物誤飲	86	3.0%	—
熱傷	12	0.4%	—
耳・鼻・のど	93	3.2%	—
目	23	0.8%	—
歯・口腔	29	1.0%	—
便の異常(血便・便秘)	54	1.9%	—
尿の異常	26	0.9%	—
予防接種	10	0.3%	—
薬	91	3.2%	—
その他	257	9.0%	—
計	3,411	119.0%	2,867
計	284,355	117.8%	241,387

※ 複数回答あり。その他を除いて発熱 33.6%、嘔気・嘔吐 15.7%、咳 6.7%、喘鳴(苦しそう) 1.6%、下痢 4.1%、けいれん・ふるえ 1.7%、発疹(じんましん) 3.9%、啼泣・泣きやまない 1.1%、頭痛 1.8%、腹痛 3.5%、鼻汁・鼻づまり 2.8%、耳漏 0.4%、頭部打撲 6.0%、頭部以外の外傷 3.7%、異物誤飲 2.7%、熱傷 0.4%、耳・鼻・のど 2.9%、目 0.7%、歯・口腔 0.9%、便の異常(血便・便秘) 1.7%、尿の異常 0.8%、予防接種 0.3%、薬 2.9%。

図 13. 主訴(相談対応時間 15 分以上)



※ 相談対応時間 15 分以上で全体よりも頻度が増える主訴は、発熱(+7.7%)、嘔気・嘔吐(+2.5%)、咳(+2.4%)、喘鳴(苦しそう)(+0.7%)、けいれん・ふるえ(+0.4%)、頭痛(+0.8%)、鼻汁・鼻づまり(+0.9%)、頭部打撲(+0.4%)、便の異常(血便・便秘)(+0.5%)、尿の異常(+0.5%)、薬(+1.9%)で、増加+1.0%以上の発熱、嘔気・嘔吐、咳、薬が目される。

IV-2-15. 医師の対応、医師の対応を要した主訴

医師の助言あるいは対応を要した例は非常に少ない(p.33)。未記入を除いた場合(未記入率 55.5%)、医師の対応無し 99.8%、医師から助言を受けた 0.2%、医師が対応 0.1%で、医師の助言あるいは対応ありは 256 件、0.2%であった。

医師の対応を要した 256 件について、主訴の頻度を検討した(表 26)。頻度が高い主訴は、薬 21.6%、発熱 20.4%、異物誤飲 14.0%、咳 7.0%、発疹(じんましん)6.7%、嘔気・嘔吐 4.6%、頭部以外の外傷 4.0%、下痢 2.4%であった。主訴別で、医師の助言あるいは対応を要する率が高い主訴は、薬 3.9%、異物誤飲 1.1%、咳 0.4%、喘鳴(息苦しそう)0.4%、発疹(じんましん)0.4%であった。

この結果は、#8000 マニュアル、小児プライマリケア、こども救急ガイドブック、家庭看護力醸成などで、今後充実すべき項目を示している。医師の対応では薬が最も高率である。処方した医師および薬剤師からの説明・服薬指導が不足している可能性がある。小児救急で使用する薬についての情報の整備を、小児救急医療情報のひとつとして、今後検討する。

表 26. 医師の対応を要した主訴

主訴	医師の助言									(医師から助言 +医師が対応) 割合
	医師から		医師が対応		医師の助言なし		未記入		計	
	助言を受けた									
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	
発熱	44	0.10%	23	0.00%	37,658	48.90%	39,313	51.00%	77,038	0.2%
嘔気・嘔吐	7	0.00%	8	0.00%	15,697	40.10%	23,433	59.90%	39,145	0.1%
咳	17	0.10%	6	0.00%	5,864	44.40%	7,313	55.40%	13,200	0.4%
喘鳴(息苦しそう)	2	0.10%	3	0.10%	1,402	47.30%	1,558	52.50%	2,965	0.4%
下痢	6	0.00%	2	0.00%	3,015	20.20%	11,878	79.70%	14,901	0.3%
けいれん・ふるえ	2	0.10%	1	0.00%	2,063	52.00%	1,902	47.90%	3,968	0.1%
発疹(じんましん)	17	0.10%	5	0.00%	4,900	39.20%	7,565	60.60%	12,487	0.4%
啼泣・なきやまない	1	0.00%	1	0.00%	700	20.20%	2,757	79.70%	3,459	0.3%
頭痛	3	0.10%	1	0.00%	1,557	49.30%	1,595	50.50%	3,156	0.3%
腹痛	4	0.00%	1	0.00%	3,681	22.30%	12,848	77.70%	16,534	0.1%
鼻水・鼻づまり	6	0.10%	0	0.00%	2,516	45.70%	2,980	54.20%	5,502	0.2%
耳漏	0	0.00%	0	0.00%	380	17.90%	1,748	82.10%	2,128	0.0%
頭部打撲	3	0.00%	1	0.00%	6,829	42.10%	9,400	57.90%	16,233	0.1%
頭部以外の外傷	6	0.00%	7	0.00%	9,103	51.50%	8,551	48.40%	17,667	0.1%
異物誤飲	33	0.40%	13	0.10%	4,273	47.60%	4,649	51.80%	8,968	1.1%
熱傷	0	0.00%	0	0.00%	1,017	45.40%	1,222	54.60%	2,239	0.0%
耳・鼻・のど	3	0.00%	1	0.00%	4,568	51.00%	4,381	48.90%	8,953	0.1%
目	0	0.00%	0	0.00%	954	39.90%	1,437	60.10%	2,391	0.0%
歯・口腔	0	0.00%	0	0.00%	1,633	53.40%	1,425	46.60%	3,058	0.0%
便の異常(血便・便秘)	0	0.00%	0	0.00%	2,010	54.90%	1,651	45.10%	3,661	0.0%
尿の異常	0	0.00%	0	0.00%	535	51.10%	512	48.90%	1,047	0.0%
予防接種	1	0.10%	1	0.10%	1,102	68.70%	499	31.10%	1,603	0.2%
薬	56	1.70%	15	0.40%	1,764	52.50%	1,527	45.40%	3,362	3.9%
その他	28	0.10%	1	0.00%	4,954	23.90%	15,707	75.90%	20,690	0.6%
計	239	0.10%	90	0.00%	118,175	41.60%	165,851	58.30%	284,355	0.3%

※ 複数回答あり。その他を除いて、発熱 20.4%、嘔気・嘔吐 4.6%、咳 7.0%、喘鳴(苦しう) 1.5%、下痢 2.4%、けいれん・ふるえ 0.9%、発疹(じんましん) 6.7%、啼泣・泣きやまない 0.6%、頭痛 1.2%、腹痛 1.5%、鼻汁・鼻づまり 1.8%、頭部打撲 1.2%、頭部以外の外傷 4.0%、異物誤飲 14.0%、耳・鼻・のど 1.2%、予防接種 0.6%、薬 21.6%。全体に比べて、医師対応ありで割合が増える主訴は、薬 3.9%、異物誤飲 1.1%、咳 0.4%、喘鳴(息苦しそう) 0.4%、発疹(じんましん) 0.4%である。

IV-2-16. 相談者の満足度(相談対応者からの印象)

未記入が多い(未記入率 31.8% > 30%)ため、未記入を除いて再検討した。未記入を除いた割合は、満足した 71.5%、普通 28.4%、不満気 0.1%(154 件)、不明 0.04%であった。#8000 事業に多くの保護者が満足している。(p.34)

緊急度判定と相談者の満足度の検討で(表 27)、満足した+普通の割合は、未記入を除いて「119 番をすすめた」99.6%、「119 番をすすめた」以外は全て 99.9%で満足度は高い。相談者の続柄別の満足度の検討で(表 28)、満足した+普通の割合は、未記入を除いて母親 99.9%、父親 99.8%、祖母 99.9%、祖父 98.1%、家族複数名 99.4%で、いずれも満足度は高い。

不満気 161 件であった。今回は不満気についてさらなる解析は加えていない。

表 27. 相談対応者による緊急度判定と相談者の満足度(相談対応者からの印象)

		満足した	普通	不満気	不明	未記入	計
119 番をすすめた	件数	945	527	6	2	524	2,004
	割合	47.2%	26.3%	0.3%	0.1%	26.1%	100.0%
直ぐに病院に行くようにすすめた	件数	24,159	9,936	39	7	11,309	45,450
	割合	53.2%	21.9%	0.1%	0.0%	24.9%	100.0%
翌日に受診することをすすめた	件数	19,276	8,299	19	1	9,360	36,955
	割合	52.2%	22.5%	0.1%	0.0%	25.3%	100.0%
何かあれば受診することをすすめた	件数	47,815	4,622	33	13	27,447	79,930
	割合	59.8%	5.8%	0.0%	0.0%	34.3%	100.0%
受診をする必要はない	件数	11,251	14,852	32	5	9,250	35,390
	割合	31.8%	42.0%	0.1%	0.0%	26.1%	100.0%
その他	件数	13,368	8,433	28	23	17,949	39,801
	割合	33.6%	21.2%	0.1%	0.1%	45.1%	100.0%
不明	件数	941	55	4	17	840	1,857
	割合	50.7%	3.0%	0.2%	0.9%	45.2%	100.0%
計	件数	117,755	46,724	161	68	76,679	241,387
	割合	48.8%	19.4%	0.1%	0.0%	31.8%	100.0%

※ 満足した+普通の割合は、未記入を除いて「119 番をすすめた」99.6%、「119 番をすすめた」以外は全て 99.9%。

表 28. 相談者続柄別の満足度(相談対応者からの印象)

		満足した	普通	不満気	不明	未記入	計
母親	件数	98,397	39,449	112	43	64,273	202,274
	割合	48.6%	19.5%	0.1%	0.0%	31.8%	100.0%
父親	件数	16,592	6,572	41	15	10,153	33,373
	割合	49.7%	19.7%	0.1%	0.0%	30.4%	100.0%
祖母	件数	457	261	1	0	26	745
	割合	61.3%	35.0%	0.1%	0.0%	3.5%	100.0%
祖父	件数	69	34	2	0	6	111
	割合	62.2%	30.6%	1.8%	0.0%	5.4%	100.0%
家族複数名	件数	137	18	1	0	283	439
	割合	31.2%	4.1%	0.2%	0.0%	64.5%	100.0%
その他	件数	431	298	3	5	514	1,251
	割合	34.5%	23.8%	0.2%	0.4%	41.1%	100.0%
未記入	件数	1,672	92	1	5	1,424	3,194
	割合	52.3%	2.9%	0.0%	0.2%	44.6%	100.0%
計	件数	117,755	46,724	161	68	76,679	241,387
	割合	48.8%	19.4%	0.1%	0.0%	31.8%	100.0%

※ 満足した+普通は、未記入を除いて母親 99.9%、父親 99.8%、祖母 99.9%、祖父 98.1%、家族複数名 99.4%。

IV-2-17. 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科と緊急度判定

未記入が多い(未記入率 55.1% > 30%)ため、未記入を除いて再検討した(表 29、図 13-1、図 13-2)。相談対応者が受診すべきと考えた診療科は、「未記入」を除いて、小児科 76.1%、他科 23.9%で、(多い順)脳神経外科 6.1%、耳鼻科 5.0%、小児外科・一般外科 3.2%、皮膚科 2.4%、整形外科 2.4%、歯科・口腔外科 1.5%、眼科 1.3%であった。診療科別緊急度は緊急度が直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)である割合は、全体 23.2%、小児科 23.2%、眼科 18.0%、耳鼻科 18.8%、歯科・口腔外科 12.6%、小児外科・一般外科 35.6%、整形外科 45.0%、皮膚科 33.7%、脳神経外科 22.1%で、整形外科、小児外科・一般外科、皮膚科は緊急度が高い。緊急度が直ぐ受診(「119 番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)の中で診療科の割合は、小児科 76.8%、眼科 1.5%、耳鼻科 5.5%、歯科・口腔外科 1.9%、小児外科・一般外科 2.1%、整形外科 2.1%、皮膚科 1.9%、脳神経外科 6.6%で、小児科、脳神経外科、耳鼻科の順である。

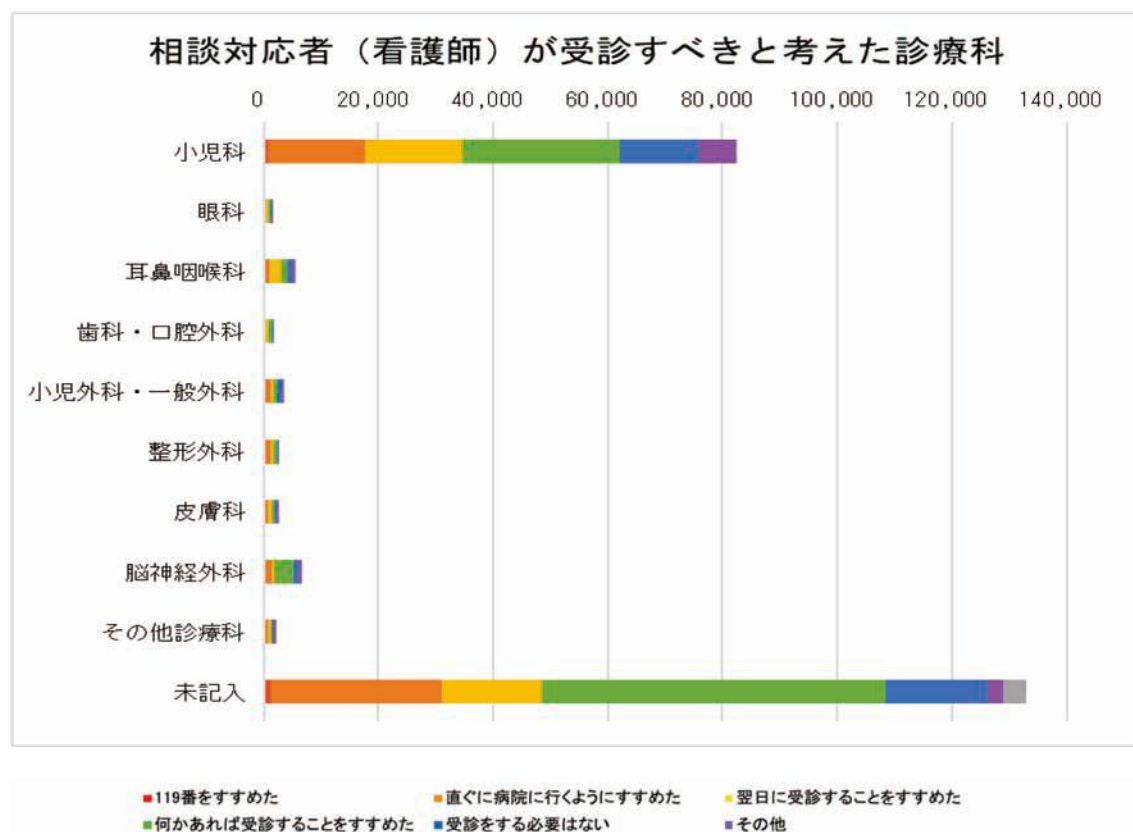
なお、宮城県の診療科データは、処理の問題で、今年度は解析できなかった(データ提供は受けており、当方の処理の問題であった。お詫びする)。

表 29. 相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科と緊急度判定

		119番をすすめた	直ぐに病院に行くようにすすめた	翌日に受診することをすすめた	何かあれば受診することをすすめた	受診をする必要はない	その他	不明	計
小児科	件数	738	16,864	17,015	27,447	13,753	6,506	75	82,398
	割合	0.9%	20.5%	20.6%	33.3%	16.7%	7.9%	0.1%	100.0%
眼科	件数	21	203	469	427	196	74	0	1,390
	割合	1.5%	14.6%	33.7%	30.7%	14.1%	5.3%	0.0%	100.0%
耳鼻咽喉科	件数	68	876	2,055	1,149	874	348	1	5,371
	割合	1.3%	16.3%	38.3%	21.4%	16.3%	6.5%	0.0%	100.0%
歯科・口腔外科	件数	14	184	513	607	252	70	1	1,641
	割合	0.9%	11.2%	31.3%	37.0%	15.4%	4.3%	0.1%	100.0%
小児外科・一般外科	件数	37	1,068	615	627	759	383	3	3,492
	割合	1.1%	30.6%	17.6%	18.0%	21.7%	11.0%	0.1%	100.0%
整形外科	件数	17	1,091	497	705	150	85	4	2,549
	割合	0.7%	42.8%	19.5%	27.7%	5.9%	3.3%	0.2%	100.0%
皮膚科	件数	23	789	633	487	477	239	2	2,650
	割合	0.9%	29.8%	23.9%	18.4%	18.0%	9.0%	0.1%	100.0%
脳神経外科	件数	83	1,266	538	3,288	937	539	3	6,654
	割合	1.2%	19.0%	8.1%	49.4%	14.1%	8.1%	0.0%	100.0%
その他診療科	件数	24	664	452	368	171	505	1	2,185
	割合	1.1%	30.4%	20.7%	16.8%	7.8%	23.1%	0.0%	100.0%
未記入	件数	1,241	29,852	17,297	60,108	17,818	2,640	4,101	133,057
	割合	0.9%	22.4%	13.0%	45.2%	13.4%	2.0%	3.1%	100.0%
計		2,266	52,857	40,084	95,213	35,387	11,389	4,191	241,387

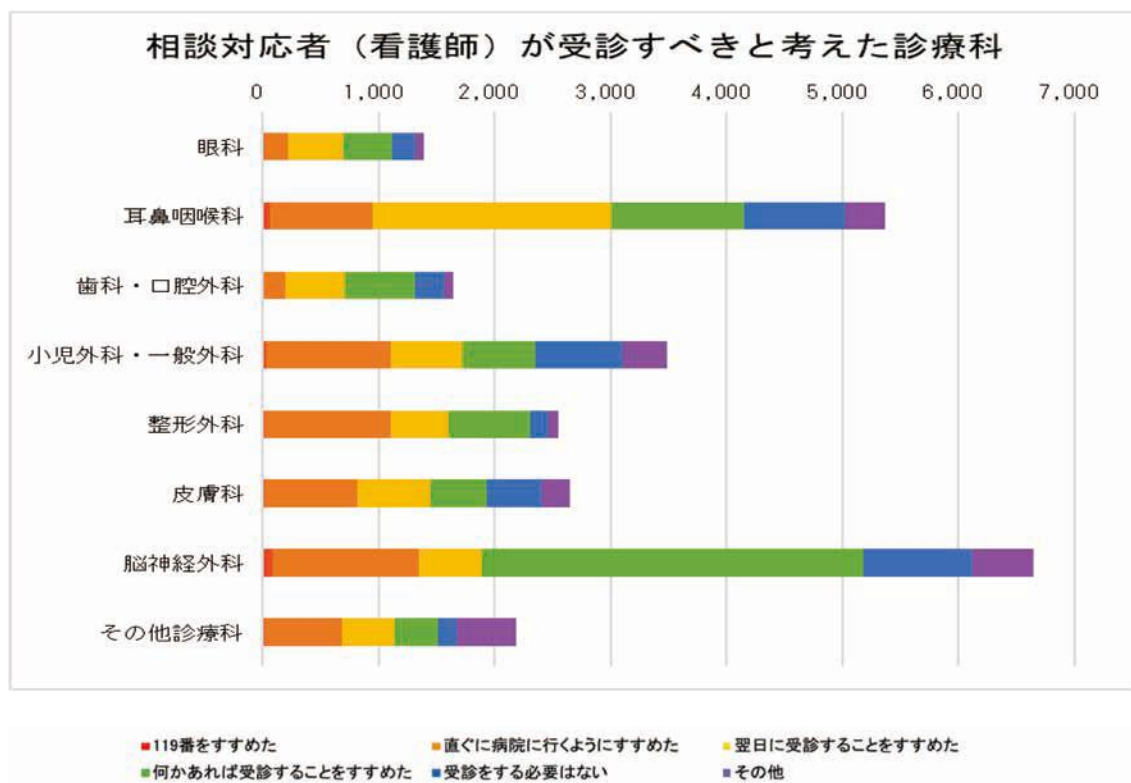
※ 未記入を除いた診療科割合は、小児科 76.1%、眼科 1.3%、耳鼻科 5.0%、歯科・口腔外科 1.5%、小児外科・一般外科 3.2%、整形外科 2.4%、皮膚科 2.4%、脳神経外科 6.1%。緊急度が直ぐ受診(「119番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)である割合は、全体 23.2%、小児科 23.2%、眼科 18.0%、耳鼻科 18.8%、歯科・口腔外科 12.6%、小児外科・一般外科 35.6%、整形外科 45.0%、皮膚科 33.7%、脳神経外科 22.1%で、緊急度が高いのは整形外科、小児外科・一般外科、皮膚科であった。なお、宮城県の相談対応者(看護師)が受診すべきと考えた診療科は、処理の過程で取り込めなかった。

図 13-1. 相談対応者（看護師）が受診すべきと考えた診療科と緊急度



※ 未記入を除いた診療科割合は、多い順に、小児科 76.1%、脳神経外科 6.1%、耳鼻科 5.0%、小児外科・一般外科 3.2%、皮膚科 2.4%、整形外科 2.4%、歯科・口腔外科 1.5%、眼科 1.3%。なお、宮城県の相談対応者（看護師）が受診すべきと考えた診療科は、処理の過程で取り込めなかった。

図 13-2. 相談対応者（看護師）が受診すべきと考えた診療科（小児科以外）と緊急度



※ 未記入を除いた診療科割合は、多い順に、小児科 76.1%、脳神経外科 6.1%、耳鼻科 5.0%、小児外科・一般外科 3.2%、皮膚科 2.4%、整形外科 2.4%、歯科・口腔外科 1.5%、眼科 1.3%。なお、宮城県の相談対応者（看護師）が受診すべきと考えた診療科は、処理の過程で取り込めなかった。

IV-2-18. 相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定

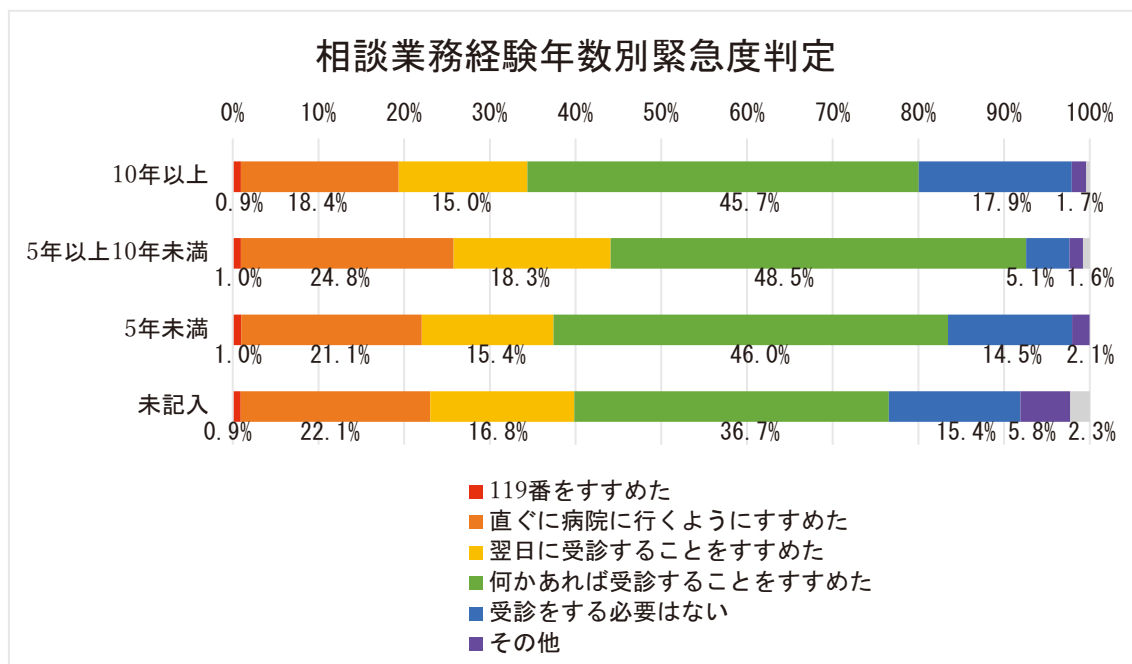
相談業務経験年数のデータは 72.3%で得られておらず、未調査の都道府県が多い。未記入を除いた検討を行った(表 30、図 14)。経験年数 3 群の相談員数の割合は、経験年数 5 年未満 45.8%、5 年以上 10 年未満 26.9%、10 年以上 27.3%で、3 割近くが 10 年間電話相談業務経験を持つ。経験年数別に、緊急度判定の割合を求めると(図 14)、直ぐ受診(119 番をすすめた+直ぐに受診をすすめた)は、経験 10 年以上の相談対応者が 19.4%、10 年未満(5 年未満+5 年以上 10 年未満)の相談対応者が 22.4%で、経験 10 年以上の相談対応者が少ない傾向がある。

表 30 相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定

相談対応者(看護師)による緊急度判定	相談業務経験年数	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上	未記入	計
119 番をすすめた	件数	304	172	172	1,618	2,266
	割合	1.0%	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%
直ぐに病院に行くようにすすめた	件数	6,444	4,468	3,358	38,587	52,857
	割合	21.1%	24.8%	18.4%	22.1%	21.9%
翌日に受診することをすすめた	件数	4,709	3,297	2,740	29,338	40,084
	割合	15.4%	18.3%	15.0%	16.8%	16.6%
何かあれば受診することとをすすめた	件数	14,092	8,727	8,327	64,067	95,213
	割合	46.0%	48.5%	45.7%	36.7%	39.4%
受診をする必要はない	件数	4,426	910	3,258	26,793	35,387
	割合	14.5%	5.1%	17.9%	15.4%	14.7%
その他	件数	634	284	307	10,164	11,389
	割合	2.1%	1.6%	1.7%	5.8%	4.7%
未記入	件数	2	143	76	3,970	4,191
	割合	0.0%	0.8%	0.4%	2.3%	1.7%
計	件数	30,611	18,001	18,238	174,537	241,387

※ 経験年数 3 群の相談員数の割合は、経験年数 5 年未満 45.8%、5 年以上 10 年未満 26.9%、10 年以上 27.3%であった。経験年数別に、緊急度判定の割合を求めると(図 14)、直ぐ受診(119 番をすすめた+直ぐに受診をすすめた)は、経験 10 年以上の相談対応者が 19.4%、10 年未満(5 年未満+5 年以上 10 年未満)の相談対応者が 22.4%で、経験 10 年以上の相談対応者が少ない傾向がある。

図 14 相談業務経験年数別の相談対応者(看護師)による緊急度判定



※ 経験年数3群の相談員数の割合は、経験年数5年未満45.8%、5年以上10年未満26.9%、10年以上27.3%であった。直ぐ受診(119番をすすめた+直ぐに受診をすすめた)は、経験10年以上の相談対応者が19.4%、10年未満(5年未満+5年以上10年未満)の相談対応者が22.4%で、経験10年以上の相談対応者が少ない傾向がある。(p.42 再掲)

IV-2-19. 相談対応者(看護師)の対応感想

未記入が多い(未記入率 76.2% > 30%)ため、未記入を除いて再検討した。(表 31-32)。未記入を除いて、「対応困難や不安がなかった」98.9%、対応困難や不安があった 0.2%、わからない 0.1%、その他 0.8%で、ほとんどが対応困難や不安がなかった。

それぞれの緊急度において「対応困難や不安がなかった」の割合は(表 32)、未記入を除いて(未記入率は 76.2%)、「119 番をすすめた」98.3%、「直ぐに病院に行くようにすすめた」99.2%、「翌日に受診することをすすめた」98.3%、「何かあれば受診することをすすめた」99.1%、「受診をする必要はない」99.1%で、いずれでも良好であった。

表 31 相談対応者(看護師)の対応感想

相談対応者(看護師)の対応感想	件数	割合
対応困難や不安がなかった	56,744	23.5%
対応困難や不安があった	138	0.1%
わからない	73	0.0%
その他	438	0.2%
未記入	183,994	76.2%
計	241,387	100.0%

※ 未記入を除いて(未記入率 44.9%)、「対応困難や不安がなかった」98.9%、対応困難や不安があった 0.2%、わからない 0.1%、その他 0.8%。

表 32. 相談対応者(看護師)による緊急度判定と対応感想

相談対応者(看護師)の対応感想	119番をすすめた	直ぐに病院に行くようにすすめた	翌日に受診することをすすめた	何かあれば受診することをすすめた	受診をする必要はない	その他	未記入	計	割合
対応困難や不安がなかった	464	10,696	8,399	33,864	2,443	674	204	56,744	23.5%
対応困難や不安があった	7	27	28	51	6	17	2	138	0.1%
わからない	1	13	9	33	2	15	0	73	0.0%
その他	0	49	104	239	14	26	6	438	0.2%
未記入	1,794	42,072	31,544	61,026	32,922	10,657	3,979	183,994	76.2%
計	2,266	52,857	40,084	95,213	35,387	11,389	4,191	241,387	100

※ 未記入を除いて(未記入率は 76.2%)、それぞれの緊急度において「対応困難や不安がなかった」の割合は、「119 番をすすめた」98.3%、「直ぐに病院に行くようにすすめた」99.2%、「翌日に受診することをすすめた」98.3%、「何かあれば受診することをすすめた」99.1%、「受診をする必要はない」99.1%。

IV-2-20. 諸状況によって頻度が高くなる主訴の分析

主訴と諸状況について検討した。兄弟の有無と主訴(p.80-81)、主訴と緊急度判定(p.86-87)、主訴と相談前受診の有無(p.90)、相談対応時間 15 分以上の主訴(p.92-93)、医師の対応を要した主訴(p.94-95)等の諸状況で、頻度が高くなる主訴が明らかになった(表 33)。相談対象児が第 1 子あるいは子ども一人の家庭(兄弟がいない)では啼泣・なきやまない、熱傷、便の異常(血便・便秘)、歯・口腔、予防接種で、緊急度判定で受診を勧めるのはけいれん・ふるえ、喘鳴(息苦しう)、熱傷、尿の異常で、相談前受診(受診後#8000)では発熱、咳、薬で、相談時間が長くなる(15 分間以上)のは発熱、咳、嘔気・嘔吐、薬で、医師の対応を要するのは咳、喘鳴(息苦しう)、異物誤飲、発疹(じんましん)、薬であった。

これらは、電話相談対応、小児救急啓発資料作成、家庭看護力醸成活動において、配慮すべき主訴である。薬については、薬剤師会との連携協力が必要である。

表 33. 諸状況によって頻度が高くなる主訴

	相談対象児が第 1 子あるいは子ども一人の家庭、が多い	119 番をすすめる+直ぐ受診をすすめる、が多い	相談前受診(受診後#8000)、が多い	相談時間 15 分以上で、頻度が増える	医師の対応を要すること、が多い
発熱			○	○	
けいれん・ふるえ		○			
咳			○	○	○
喘鳴(息苦しう)		○			○
嘔気・嘔吐				○	
便の異常(血便・便秘)	○				
尿の異常		○			
熱傷	○	○			
異物誤飲					○
発疹(じんましん)					○
啼泣・なきやまない	○				
歯・口腔	○				
予防接種	○				
薬			○	○	○

※ 相談対象児が第 1 子あるいは子ども一人の家庭は兄・姉がいないを示す。119 番をすすめる+直ぐ受診をすすめるが多いは緊急度判定による。相談前受診はすなわち受診した後で#8000 に相談する場合を示す。これらの諸状況によって、頻度が高くなる主訴を示した。

IV-2-21. 調査項目未記入率の都道府県間差

都道府県別未記入率は民間事業者ごとに一定の傾向が見られたので(p.69 表 13)、民間事業者群別に並べ替えた(表 34)。民間事業者による差異が見られるが、これは、データが収集されていない場合と、調査項目・選択枝が異なるために、本システムとの突合がうまく行かなかった場合が考えられる。現在、突合作業に多くの時間を費やす状況であり、できれば調査項目・選択枝をある程度揃えていただくように都道府県に依頼していく。

相談対象児の年齢においても、表 35 のように民間事業者別の差異があるが、これについては各事業者がデータを収集していないのではない。連続変数ではなく、名義変数(カテゴリー)として収集しているため、カテゴリー範囲の違いによって、未記入に算入されていた。そこで、今年度は1歳未満を細分類せずに、一括して検討することにした(p.73-74、表 16、図 6)。

未記入の改善のためには、この情報収集分析事業の結果を周知すること、本システム NDS-8000-1 を普及させること、保護者と都道府県に調査の意義を理解してもらうこと、の3点が必要である。都道府県#8000 担当者会議、#8000 事業関連団体との会議を行って、前述の点を進めていく。

表 34. 民間事業者群別の都道府県未記入率

都道府県番号	都道府県名	広域民間事業者データ	地元業者データ	2.二次医療圏相談件数の未記入	4.相談対象児の年齢の未記入	4.相談対象児の年齢の未記入率	1か月未満が突合不全	1歳未満が突合不全	6歳以上が突合不全	4.相談対象児男女	6.相談者の分類	7.相談者の続柄の未	8.相談者の年齢	9.兄弟の有無	10.発症時期	11.相談前の受診の有無	12.相談対応時間	13.相談対応者による緊急度判定	14.医師の対応	15.相談者の満足度(相談対応者からの印象)	18.相談対応者が受診すべきと考えた診療科	19.相談対応者の相談業務経験年数	20.相談対応者の対応感想	未記入100%の項目数
	39都道府県の未記入率					9.5%				23.5%	42.9%	1.3%	48.6%	96.5%	65.0%	46.3%	1.6%	6.4%	55.5%	31.8%	55.1%	72.3%	76.2%	
	未記入100%の都道府県数			1			30	15	4	2	16	0	9	29	27	11	0	0	8	6	10	23	29	
1	北海道	A	地	◎	○	58.7%				◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	0
2	青森	A		◎	◎	24.3%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
4	宮城	A	(地)	◎	◎	22.1%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	◎	◎	1
6	山形	A		◎	◎	23.8%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
11	埼玉	A	地	◎	◎	19.9%				◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
18	福井	A	(地)	◎	◎	25.7%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
29	奈良	A		◎	◎	18.6%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
31	鳥取	A		◎	◎	23.8%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
32	島根	A		◎	◎	23.9%	■	■		◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0
34	広島	A	地	◎	◎	14.9%				◎	◎	◎	○	▲	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	0
7	福島	B		◎	◎	1.1%				◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
14	神奈川	B	(地)	○	◎	1.6%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
15	新潟	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
20	長野	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
21	岐阜	B		◎	◎	1.4%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
24	三重	B		◎	◎	0.9%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
25	滋賀	B		◎	◎	1.0%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
26	京都	B		◎	◎	1.2%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
30	和歌山	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
35	山口	B		◎	◎	1.1%				◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	5
36	徳島	B		◎	◎	1.5%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
38	愛媛	B		◎	◎	1.3%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
42	長崎	B		◎	◎	0.9%				◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	■	4
47	沖縄	B		◎	◎	1.9%	■			◎	■	◎	◎	■	■	◎	◎	○	◎	◎	◎	■	■	5
8	茨城	C		◎	○	41.0%	■	■		■	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	◎	■	■	■	9
10	群馬	C		◎	○	39.9%	■	■		◎	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	▲	■	■	■	■	7
22	静岡	C		◎	○	40.1%	■	■	■	◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	▲	■	■	■	■	7
23	愛知	C		◎	◎	26.6%	■	■		◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	▲	◎	■	■	■	6
28	兵庫	C		◎	▲	86.4%	■	■	■	◎	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	■	■	■	■	9
33	岡山	C		◎	◎	24.6%	■	■		◎	◎	◎	◎	■	■	■	◎	◎	■	◎	■	■	■	7
41	佐賀	C	地	○	○	36.7%	■	■		○	○	○	○	■	■	○	◎	○	○	■	○	■	■	5
45	宮崎	C		◎	◎	25.4%			■	◎	■	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	◎	■	■	■	9
16	富山	D		◎	◎	3.0%	■			◎	○	◎	◎	■	■	■	◎	◎	■	◎	◎	■	■	6
17	石川	D		◎	◎	2.0%	■			◎	○	◎	◎	■	■	■	◎	◎	■	◎	◎	■	■	6
37	香川	D		◎	◎	2.2%	■			◎	◎	◎	■	■	■	■	◎	◎	■	■	◎	■	■	8
46	鹿児島	D		○	◎	1.9%				○	○	○	■	■	■	■	○	◎	○	○	○	■	■	6
12	千葉		地	◎	◎	0.1%				◎	■	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■	6
13	東京		地	■	○	39.3%	■	■	■	■	▲	◎	■	■	■	■	▲	◎	◎	▲	■	■	■	8
27	大阪		地	◎	◎	1.5%	■			◎	◎	◎	■	■	◎	◎	◎	◎	■	◎	▲	■	■	5

9.兄弟の有無の12相談対応時間の「その他」、相談者の満足度の「不明」、相談対応者の対応感想の「その他」は未記入に含めた。

ABCD: 広域民間事業者4社 (地): 地元業者データ未収

◎未記入率30%未満

○未記入率30%以上70%未満

▲未記入率70%以上100%未満

■未記入率100%

表 35. 民間事業者と相談対象児年齢データ

	事業者 A	事業者 B	事業者 C	事業者 D	千葉	東京	大阪
1 か月未満	×	×	×	×	○	×	×
1～3 か月未満	×	○	×	○	○	×	○
3 か月～6 か月未満	×	○	×	○	○	×	○
6 か月～1 歳未満	×	○	×	○	○	○	○
1～2 歳未満	○	○	○	○	○	○	○
2～3 歳未満	○	○	○	○	○	○	○
3～4 歳未満	○	○	○	○	○	○	○
4～5 歳未満	○	○	○	○	○	○	○
5～6 歳未満	○	○	○	○	○	○	○
6～7 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
7～8 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
8～9 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
9～10 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
10～11 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
11～12 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
12～13 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
13～14 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
14～15 歳未満	○	○	×	○	○	×	○
15～16 歳未満	○	○	×	○	○	×	○

※ 1 か月未満、1 歳未満は、カテゴリーの不一致のための突合不全。事業者 C と東京都では 6 歳以上は一括したデータのた
めに突合できなかった。

V. #8000 情報収集分析事業から得られた課題

V-1. #8000 実施状況

《相談件数の時間変動》

平日、土曜日、日曜祝日の 1 日あたりの時間帯別相談件数は、準夜帯 19～21 時をピークとして、以後漸減して 0 時に 1/3 に、5 時に 1/7 にまで減少し、7～8 時に小さな山があり、休日日勤帯はピーク時の 1/3 で一定している。時間変動が大きいという特徴が話中(つながらない)に影響している。回線数、相談対応者の数のニーズに合わせた調整、(救急外来受診時の救急トリアージに似た)電話相談員が受ける前の短時間の選別法、電話をかける前の他の小児救急医療情報ツールの活用(こども救急 ONLINE、こども救急ガイドブック、救急医療情報システム)、家庭看護力醸成が今後必要である。

準夜帯、深夜帯、日勤帯別の相談件数は、平日準夜帯の件数を 1 として、土曜日・日曜祝日の準夜帯件数は 1.2 倍で、日曜祝日日勤帯の件数は 0.8 倍で、日曜祝日日勤帯実施率が約 1/2 であることを考慮すると日曜祝日日勤帯のニーズはより高い。今後、日曜祝日日勤帯の#8000 の整備が必要と考える。

《広域民間事業者利用の増加》

千葉県、東京都、大阪府 3 府県以外の 36 道府県 92.3%が広域民間事業者を利用し、広域民間事業者は 4 社に限られる。地元事業者利用は 11 都道府県 28.2%で、うち 8 道県は広域民間事業者を併用している。

V-2. #8000 情報収集分析システム

《入力システム、在宅対応》

全国の#8000 データをクラウドで入力、あるいは CSV 形式で取込んで、一括して解析するシステム、NDS-8000-1 を開発した。令和元年度は 39 都道府県が参加して、対象年少人口は全国の 88.9%となった。NDS-8000-1 はクラウドを用いた入力により、集計を自動化して迅速に閲覧できることをめざしている。しかし、現在までのところ、直接入力ではなく、CSV 形式データ取込が多いために、上記の利点が生かされていない。そこで、電話相談員が事業所に集まらないで自宅で#8000 対応が出来る、タブレット入力在宅#8000 事業システムを開発した。

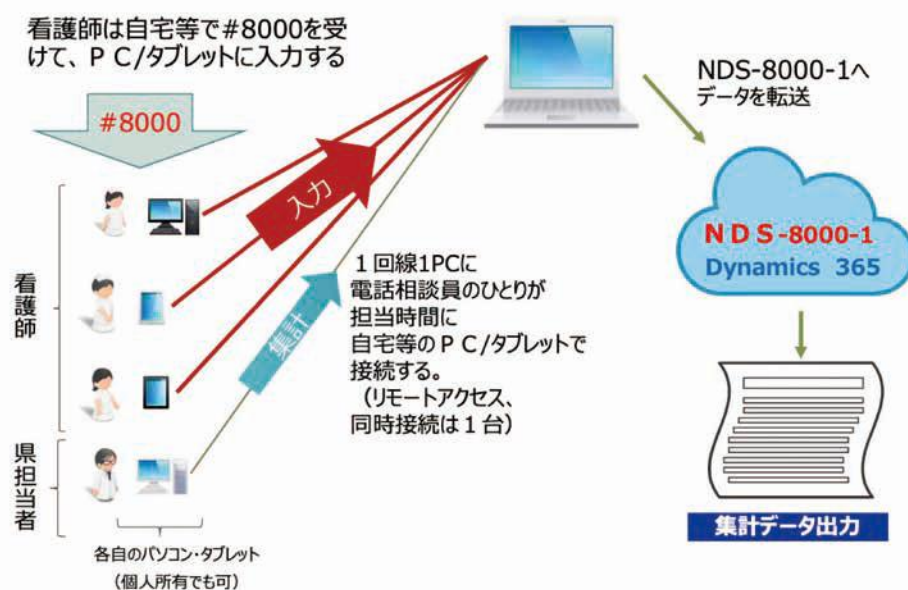
このシステムは、各電話相談員にタブレット PC (iPad) を配付して在宅で#8000 対応をしていたが、クラウドシステムでリアルタイムに NDS-8000-1 にデータを収集する(図 16)。2019 年度は埼玉県でこのシステムをモデル事業として行った。電話相談員が一箇所に集まらなくてよいシステムであり、広域な地域での地域医療人材の活用の点で、今後活用されると想われる。各電話相談員にライセンスを付与する形式と、リモートアクセスシステムを用いる形式(図 16)がある。

《#8000 情報収集分析事業の費用》

この事業の費用は、NDS-8000-1 システム開発、タブレット入力在宅#8000 システム開発、それらの維持費、Dynamics365 ライセンス料金、通信費、データ解析費、等である。

NDS-8000-1 (Dynamics365) ライセンス料金、通信料金は将来的に都道府県負担になるため、前述のリモートシステムを導入したが、埼玉県から、各電話相談員が NDS-8000-1 システム (Dynamics365) に直接通信できる方が安定性・使い勝手が良いと報告があり、各相談員にライセンスを付与する形式がよいかもしれない。いわゆるデジタル化の推進とデジタル費用の軽減化が今後の課題である。

図 16 タブレット入力在宅#8000 事業システム



※ 相談対応者（電話相談員）が、自宅等で#8000を受けて、PC/タブレットに入力し、それをリモートアクセスでホストPCに転送することで、NDS-8000-1システムにデータを収集する。

V-3. 情報分析内容について

《相談件数・#8000 利用の都道府県間差・地域差》

都道府県別年少人口（15歳未満）千人に対する1か月当たりの相談件数は平均6.4、小児科医師および小児外科医師1人に対する1か月当たりの相談件数は平均5.7で、都道府県間では5.4倍、6.8倍の差がある。都道府県内の小児医療圏間にも差があり、最大7.4倍の差を認める県がある。すなわち#8000利用は都道府県間差、地域差がある。その背景には、#8000実施体制以外に、#8000の広報、小児医療提供体制、地理的問題、アクセス問題、等があるが、小児救急医療サービスの都道府県格差是正の観点から改善が望ましい。

《相談対象児についての解析》

相談対象児の年齢は3歳未満57.0%、6歳未満79.1%で、低年齢児が多く、救急外来受診より低年齢である。兄弟の有無のデータから求めた、相談対象児が第1子あるいは子ども一人の家庭は41.1%であった。#8000相談の主訴は、頻度順で発熱、嘔気・嘔吐、頭部以外の外傷、腹痛、頭部打撲、下痢、咳、発疹（じんましん）、異物誤飲、耳・鼻・のど、鼻水・鼻づまり、けいれん・ふる

え、便の異常(血便・便秘)、啼泣・なきやまない、薬、頭痛、歯・口腔、喘鳴(息苦しそう)、目、耳漏、熱傷、予防接種、尿の異常である。消化器症状(嘔気・嘔吐、腹痛、下痢、便の異常)30.7%、外科系症状(頭部打撲、頭部以外の外傷、異物誤飲、熱傷、耳・鼻・のどなど耳鼻科系、目、歯科・口腔)24.6%が注目される。

《主訴と諸状況》

相談対象児が第1子あるいは子ども一人の家庭(兄弟がいない)で多くなる主訴は、啼泣・なきやまない、熱傷、便の異常(血便・便秘)、歯・口腔、予防接種であった。緊急度判定で受診を勧めるが多くなる主訴は、けいれん・ふるえ、喘鳴(息苦しそう)、熱傷、尿の異常であった。相談前受診(受診後#8000)で多くなる主訴は、発熱、咳、薬であった。相談時間が15分間以上に長くなる主訴は、発熱、咳、嘔気・嘔吐、薬であった。医師の対応を要することが多くなる主訴は、咳、喘鳴(息苦しそう)、異物誤飲、発疹(じんましん)、薬であった。

これらに対応する小児救急医療の研究、啓発資料の開発・活動を今後進める必要がある(家庭看護力醸成後述)。小児救急に関する服薬指導の情報提供ツールを整備する必要があり、次年度の課題とする。

《相談者(保護者)についての解析》

相談者は母親が83.8%、父親13.8%であった。相談者の年齢は30代が主だが、40代が比較的多い。相談前受診あり21.3%で、その場合の緊急度は高くない。受診しても不安が解消しない、保護者の強い不安と医療提供者側の説明不足が背景にあると思われる。兄弟の有無のデータから求めた、相談対象児が第1子あるいは子ども一人の家庭(42.2%)では、主訴の前述のような特徴があり、#8000のニーズの一面を示している。相談者の満足度(相談対応者からの印象)は、満足した71.5%、普通28.4%で、多くの保護者が満足している。発症時期は1時間前が63.8%、6時間以内7.5%で、7割が発症後すぐに電話相談している。

相談の分類の分析では、救急医療相談は27.9%、医療機関案内の相談は14.9%で、これらは比較的少なく、様々な医療相談が61.3%と多い。救急と言えない、あるいは救急かどうか悩むような場合の相談が多いと考えられる。

《相談対応者(電話相談員)についての解析、緊急度判定》

「119番をすすめた」0.9%、「直ぐに病院に行くようにすすめた」21.9%、「翌日に受診することをすすめた」16.6%、「何かあれば受診することをすすめた」39.4%、「受診をする必要はない」14.7%、「その他」4.7%、未記入1.7%で、直ぐ受診(「119番をすすめた」+「直ぐに病院に行くようにすすめた」)は22.8%、少し様子を見る(「翌日に受診をすすめた」+「何かあれば受診することをすすめた」)は56.0%であった。直ぐ受診は医療提供体制・アクセスと、少し様子を見るは家庭看護力と関連する。緊急度判定は都道府県間で差が大きかった。民間事業者ごとに傾向がある。これについては、今後マニュアルの検証や、相談対応者との合同の話し合いなどが必要である。

経験年数3群の相談員数の割合は、経験年数5年未満45.8%、5年以上10年未満26.9%、10年以上27.3%であった。経験年数別に、緊急度判定の割合を求めると(図14)、直ぐ受診(119番をすすめた+直ぐに受診をすすめた)は、経験10年以上の相談対応者が19.4%、10年未満(5年

未満+5 年以上 10 年未満)の相談対応者が 22.4%で、経験 10 年以上の相談対応者で、直ぐ受診が少ない傾向がある。

V-4 民間事業者間の相違点と均てん化

《調査項目、緊急度判定の民間事業者間の差》

調査項目の未記入率の都道府県間の差異は、民間事業者ごとに特徴がある(表32)。民間事業者の調査項目の有無と選択枝・カテゴリー分類の相違が背景にある。民間事業者は都道府県に求められたデータを収集していると回答しており、都道府県側と民間事業者側の双方と今後話し合う必要がある。

緊急度判定の都道府県間の差異を民間事業者群で比較すると(図15)、民間事業者ごとの特徴がある。緊急度判定は、都道府県の小児医療体制、地理的問題・アクセスが関与していると思われるが、民間事業者との協議も必要であって、#8000の均てん化に向けての大きな課題である。

《年齢 緊急度 相談の分類(目的)は優先して均てん化》

年齢、とくに 1 歳未満のカテゴリー分類が民間事業者ごとに異なっていて、突合が困難であった。これは次年度には改善したい。調査項目の中で、年齢、緊急度、相談の分類(相談目的)は、できるだけ未記入を減らしたい。

V-5. 都道府県との連携

《#8000 都道府県担当者会議》

#8000 事業の都道府県担当者を集めて、2019 年 10 月 2 日に全国会議を行った。19 都道府県の参加があった。2018 年度#8000 情報収集分析事業の報告、cloud 入力システム NDS-8000-1 の紹介、電話相談員が自宅で#8000 対応を行うシステムの紹介を行い、参加県全ての意見を述べていただき、今後の事業展開を話し合った。YouTube の紹介ビデオの URL を示す。都道府県がお互いの情報を知りたがっていることがわかり、この会議は、 有用な情報交換の場となった。

cloud 入力システム NDS-8000-1

<https://youtu.be/D8piA-w6U5I>

電話相談員が自宅で#8000 対応を行うシステム

<https://youtu.be/aP2B67fOLgY>

事業の報告

前述のタブレット入力在宅#8000 システム(埼玉モデル)を紹介した。

《本事業に不参加の理由》

今回参加できなかった 8 県のうち 6 県は地元事業者利用のみで、デジタル化出来ていないためであった。2 県は広域民間事業者の協力が得られなかった。これらの県は可能なら参加したいという意思があり、環境を整えていきたい。

V-6. #8000 の目的、家庭看護力醸成

《#8000 の目的と今後の方向性》

#8000 事業が 2004 年に開始された背景には、2000 年前後の小児救急医療における需要と供給のアンバランスによる小児患者・小児科医双方の複数の悲しい事件がある。小児救急外来受診行動調査⁴⁾によって、子どもの急病に対する保護者の不安が大きいこと(保護者の不安 89%、小児科医の診察希望 31%、仕事で時間内に受診できない 27%)、電話相談への保護者の期待が大きいこと(77%)が明らかになった。今までの 15 年間の#8000 事業から、家庭看護の大切さが指摘されている。#8000 の目的と機能についての最近の考え方を表 36 に示す。

近年、各都道府県で、地元業者や地元の看護師から、広域民間事業者委託への変更が進んでいる。がある。地元の医療資源を使わなくなるよりも、準夜帯や日曜祝日日勤帯に地元看護師を活用するなど、地域小児医療の育成(#8000 の目的と機能⑦)を勧める施策を考えて欲しい。地元看護師の電話相談員には、こども救急ガイドブックや後述する家庭看護力醸成の普及啓発に参加するなど、活動の拡大をお願いしたい。

《#8000 以外の子小児救急医療情報ツール》

保護者に小児救急医療情報を提供するためのツールで、救急情報システム(都道府県が作成する。Web による救急医療情報、救急医療機関情報を含む。)、こども救急 ONLINE(6 歳未満の子どもの急病時に、受診の判断を行う Web システム)、こども救急ガイドブック(都道府県が作成する、子どもの急病対応についての情報冊子で、地元の小児救急医療機関情報を含む。pdf 化してありダウンロード可能。)の 3 つがある。今回の検討で、小児救急に関する服薬指導の情報提供ツールの必要性を認識した。

《家庭看護力醸成》

電話相談をスムーズに行うためには、保護者が子どもの状態を観察して、以上に築いてそれを言葉で表現する作業が必要である。救急受診の判断や家庭療養において、家庭看護力は必要である。家庭トリアージは、保護者にその能力を身につけてもらう必要がある。小児救急医療のレベル向上のために、家庭看護力を育てる必要がある。そのような考えから家庭看護力醸成が生まれた。家庭看護力醸成という概念は市川が考案したもので⁵⁾、日本小児科医会は、家庭看護力醸成マニュアルを作成して、この活動に取り組んでいる。医療者と保護者が子どもの救急に関する共通言語で話し合っ、保護者が自ら、子どもの異常を見つけ出して判断すること、#8000 を初めとする小児救急医療情報ツールを保護者が使いやすくする、相談しやすくするためのものである。救急受診の目安と判断のチェックリスト(市川のチェックリスト)を掲載する(図 18)。

家庭看護力醸成マニュアルを、日本小児科医会 HP に掲載予定である。

表 36 #8000 の目的と機能

- ① 診療機能と相談機能の分離
- ② 保護者の(子どもの急病に対する)不安の軽減
- ③ 受診の適正化、必要時迅速な受診、不要不急の受診の是正
- ④ 様々な育児の問題の相談
- ⑤ (家庭での)受診判断、子どもの観察の支援
- ⑥ 家庭療法のアドバイス(受診後も含む)

⑦ 地域小児医療の育成図 18. 救急受診の目安と判断のチェックリスト

救急受診の目安・判断チェックリスト(受診遅れを防ごう!)

「いつもと違う場合」が救急受診の目安です！必ず「違う点」を診察医に伝えましょう！

《外観》

- ☐視線が合わない時がある・目つきがおかしい
- ☐無表情であやしても笑わない
(好きなおもちゃなどにも興味を示さない)
- ☐機嫌が悪く、何をしても機嫌が良くならない
- ☐グッタリしている、何をしても反応が乏しい・悪い
- ☐泣き方が弱い・苦しそうに泣く・呼びかけに反応しない・喋らない

《呼吸》

- ☐呼吸が苦しそう！
◇ゼーゼー言って横になれない
(横になって眠れない)
- ◇呼吸のたびに肩があがる
- ◇小鼻がヒクヒクしている
- ◇呼吸のたびに胸がペコペコ凹む
- ◇呼吸が苦しくて喋れない
- ◇咳き込んで何度も吐く
- ◇呼吸が苦しく水分も摂れない

《循環》

- ☐顔が白い(赤味がない)
- ☐手足がいつもと違って異様に冷たい
赤味がなく白い
- ☐皮膚が大理石紋様みたいになだら色
をしている
- ☐唇や顔が紫色や土気色をしている
- ☐冷や汗をかいている



《その他》

- ☐頭を強く打った！
- ◇すぐ泣かなかった
- ◇何回も吐く
- ◇意識がもうろうとする
- ◇打撲部がブヨブヨしている
- ◇血が止まらないほど切れている (*軽そうでも)
- ◇けいれんが起こった
- ☐腹部を強く打った！
- ◇吐き出した
- ◇顔色が悪くなった
- ☐ミルク(水分)を受けつけない(飲めない)
- ☐おしっこの量や回数が極端に少ない
- ☐何度も嘔吐する
- ☐手足を強く打った！
- ◇腫れている
- ◇動かさない
- ◇変形している
- ☐やけどした

《救急車を呼ぶべき症状》

- ☐どんなに刺激しても反応が鈍い・反応がない
- ☐けいれんが5分以上続く
- ☐意味不明の言動があり、異様に興奮している
- ☐呼吸が止まりそう・無呼吸(15秒以上)がある
- ☐呼吸していない・呼吸ができない
- ☐全身真っ青になっている

* 迷う時には「#8000」や小児科学会の「こどもの救急オンライン」などを利用しましょう！

上記症状のどれかの症状を認めたら、時間構わず救急受診しましょう！

市川のチェックリスト
日本小児科医会 家庭看護力醸成WG編

※ 日本小児科医会 家庭看護力醸成マニュアルから。

V-7. その他の課題

未記入率が高い(30%以上)のは、相談対象児年齢(とくに1か月未満、1歳未満、6歳以上)、相談の分類、相談者の年齢、兄姉の有無、発症時期、相談前の受診、医師の対応の有無、相談者の満足度(相談対応者からの印象)、相談対応者が受診すべきと考えた受診すべき診療科、相談対応の感想であった(表34~35)。未記入の要因は、都道府県・事業者の調査項目にない、選択枝が異なる、カテゴリー分類が合わない、突合の限界、取込過程のエラーなどであった。

データ収集と突合の改善をできるだけ短期間で実現することをめざして、便宜的に「未記入率30%未満」を目標に設定した。相談対象児年齢は、未記入の要因が年齢に偏りがあり欠測バイアスが大きくなるため、未記入データの除外ではなく、1歳未満を一括して併記する処理を行った(図6)。今後十分なデータを得られたら、1歳未満を細分化して検討する。事業者Cと東京都は6歳以上を一括したデータにしているため(表35)、本システムでは未記入になった。

相談の分類、相談者の年齢、兄姉の有無、発症時期、相談前の受診、医師の対応の有無、相談者の満足度(相談対応者からの印象)、相談対応者が受診すべきと考えた受診すべき診療科、相談対応の感想は、事業者ごとに特徴があることがわかった(表34)。入手必要なデータ・調査項目と、そのデータがどんな意義があるかを示すべきと考えて、今回の報告書では、未記入率が高い項目であっても積極的に解析して、報告書にまとめた。

今回、宮城県の受診すべき診療科のデータが取り込めなかった点についてはお詫びする。

緊急度判定が1社で別項になっており、4県で緊急度判定を取り込めてなかったため、集計作業をやり直して全体的な修正が必要になった。

相談の分類の選択枝を変えたところ、医療その他がとくに多くなった。その他を付けたために選択しやすくなったと思われる。

データ収集方法はCSVファイルの取込がほとんどで、NDS-8000-1システムに直接入力する都道府県は少なかった。

電話相談員が在宅で対応出来るように、タブレット入力在宅#8000事業システムを開発して埼玉県で導入し、都道府県担当者会議で広報したが、まだそれ以上に広がっていない。

#8000情報収集分析事業3年目に当たり、報告書を見やすく使いやすくするために、今回、書式を統一した。

VI. 要約と結語

《要約》

2019 年 12 月～2020 年 2 月 3 か月間に 39 都道府県(全年少人口の 89%)を対象に#8000 データ 241,387 件を収集した。深夜帯に 37 都道府県 95%が、休日日勤帯に 20 都県 51%が実施している。相談件数の時間帯変動は準夜帯 19～21 時をピークとして、以後漸減して 0 時に 1/3 に、5 時に 1/7 にまで減少し、7～8 時に小さな山があり、休日日勤帯はピーク時の 1/3 で一定している。平日準夜帯の件数を 1 として、土曜日・日曜祝日の準夜帯件数は 1.2 倍で、日曜祝日日勤帯の件数は 0.8 倍で日曜祝日日勤帯のニーズは高い。都道府県別 1 か月当たりの年少人口千人対相談件数、小児科医師+小児外科医師数対相談件数はそれぞれの平均 6.6、5.7 で、都道府県間で 5～6 倍の差がある。県内小児医療圏の年少人口対相談件数は平均 2.6 倍、最大 7.4 倍の差がある。相談対象児は 1 歳未満 23.0%、2 歳未満 44.7%、3 歳未満 57.0%、5 歳未満 73.7%、6 歳未満 79.1%で、低年齢児が多く、男女比 1.13 で男子が多い。相談者は母親 83.8%、父親 13.8%。相談者年齢は未記入を除いて 10 代 0.1%、20 代 15.5%、30 代 68.6%、40 代 14.6%、50 代 0.7%、60 代以上 0.4%で、40 代が出産年齢割合より多い。相談者の満足度(相談対応者からの印象)は高い(満足+普通 99.9%)。主訴は頻度順で発熱 31.9%、嘔気・嘔吐 16.2%、頭部以外の外傷 7.3%、腹痛 6.8%、頭部打撲 6.7%、下痢 6.2%、咳 5.5%、発疹・じんましん 5.2%、異物誤飲 3.7%、耳・鼻・のど 3.7%で、とくに消化器系症状 30.7%、外因系症状 18.6%の群が比較的多く注目される(複数回答あり)。相談対象児が第 1 子あるいは子ども一人の家庭(兄姉がいない)42.2%、相談前受診(受診後#8000) 21.3%、相談対応時間 15 分以上 1.2%、医師の対応 0.2%。諸状況によって頻度が高くなる主訴は、相談対象児が第 1 子あるいは子ども一人の家庭(兄姉がいない)では啼泣・なきやまない、熱傷、便の異常(血便・便秘)、歯・口腔、予防接種で、緊急度判定で受診を勧めるのはけいれん・ふるえ、喘鳴(息苦しう)、熱傷、尿の異常で、相談前受診(受診後#8000)では発熱、咳、薬で、相談時間が長くなる(15 分間以上)のは発熱、咳、嘔気・嘔吐、薬で、医師の対応を要するのは咳、喘鳴(息苦しう)、異物誤飲、発疹(じんましん)、薬であった。緊急度判定で直ぐ受診を要するのは 22.8%で、7 割以上が自宅で経過観察が可能である。緊急度判定は都道府県間、および民間事業者間で差がある。相談業務経験年数 10 年以上の場合に、直ぐ受診例が少ない傾向がある。調査項目回答の未記入率 100%が 7 項目以上は 1 都 6 県あり、未記入率は民間事業者間で差異がある。今年度事業に参加できなかった 8 県は、デジタル化の遅れ 6 県、民間事業者の協力が得られない 2 県であった。今年度、電話相談員がタブレットを用いて在宅で電話対応してクラウドでデータを入力できる、タブレット入力在宅 #8000 システムを開発した。今後の事業継続では、システムのライセンス費用、通信費が課題である。以上、#8000 情報収集分析事業によって、多くの知見が得られ、課題が明確になった。

《結語》

厚生労働省委託事業として、39 都道府県の #8000 データの収集と分析を行った。#8000 の現状と #8000 を含む小児救急医療の課題を得ることが出来た。参加した都道府県に感謝する。この事業を通じて、#8000 事業および小児救急医療をさらに発展させていきたい。

Ⅶ. 引用資料

- 1) 政府統計の総合窓口 e-stat 令和 2 年 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031971230&fileKind=0>

総務省自治行政局 住民制度課

- 2) 政府統計の総合窓口 e-stat 平成 28 年 医師・歯科医師・薬剤師調査

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450026&survey=医師数>

&result_page=1 厚生労働省 保健統計室

- 3) 渡部誠一、中澤 誠、衛藤義勝、市川光太郎、他. 小児救急外来受診における患者家族のニーズ、日本小児科学会雑誌. 2006; 110(5): 696-702

- 4) 政府統計の総合窓口 e-stat 人口動態調査

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450011&tstat=000001028897>

- 5) 市川光太郎. トリアージによる家庭看護力アップ「Ambulatory triage から Parent (Home) triage へ～危急疾患をトリアージで見抜こう」2016 年日本小児科医会会報、p.97-100